

## 第2期にっしん幸せまちづくりプラン策定に向けたアンケートについて

### 【アンケートの目的と概要】

第2期にっしん幸せまちづくりプランを策定するにあたっての基礎資料として活用していくため、

- ①複合的な地域生活課題を抱えている人・世帯の実態や地域における助け合いの実態や意向、地域福祉施策に対する考え方などを把握することを目的に、18歳以上の市民を対象とした「市民向けアンケート」を実施する。
- ②重層な支援体制の構築とその実質化を図っていくための基本的な知見（複合的な地域生活課題を抱えている人・世帯の実態と他の専門機関等との連携・協働の実態、区・自治会、ボランティアやNPO等と連携した活動の実態や意向など）を得ることを目的に、包括的な相談支援や多機関協働を担うことが期待される相談支援機関や事業所、団体等の関係機関や関係者を対象とした「相談支援機関や事業所、団体等関係機関・関係者向けアンケート」を実施する。

	①市民向けアンケート	②相談支援機関や事業所、団体等関係機関・関係者向けアンケート
調査対象者	日進市在住の18歳以上の市民	日進市内の高齢、障害、子ども・子育て、教育、生活困窮の各分野における相談支援機関や事業所、団体等の関係機関や関係者
標本数	2,500件（無作為抽出）	242件
調査方法	郵送配布、郵送回収 ※web回答も可能	郵送配布、郵送回収 ※web回答も可能
調査期間	令和6年2月1日～令和6年2月20日	令和6年2月1日～令和6年2月20日
有効回収数	948票（内Web319票）	125票
有効回収率	37.9%	51.6%

(未定稿)

日進市第2期にっしん幸せまちづくりプラン策定のための  
市民アンケート調査報告書

令和6年6月

日進市／社会福祉法人 日進市社会福祉協議会



## 目 次

序 調査の概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査の方法 .....	1
3 回収結果 .....	1
4 本調査報告書の基本的な事項 .....	1
1. 回答者の属性 .....	2
(1) 性別(問1) .....	2
(2) 年齢(問2) .....	2
(3) 世帯のタイプ(問3) .....	3
(4) 子どもや高齢者等の同居人の有無(問4) .....	4
(5) 居住地区(問5) .....	5
2. 近所づきあいやあなたの不安・悩みと相談先等について .....	6
(1) 近所付き合いの程度(問6) .....	6
(2) 望ましい近所付き合いの程度(問7) .....	8
(3) 地域のつながりの以前との比較(問8) .....	11
(4) ふだんの暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安(問9・問10) .....	13
(5) 家族、親族以外の相談相手(問11) .....	18
(6) 相談窓口の認知度(問12) .....	20
(7) 社会福祉協議会の認知度(問13) .....	22
3. 地域生活課題を抱えた人・世帯の実態や地域の助け合い等について .....	24
(1) ご近所で見聞きしたことがある地域生活課題を抱えた人・世帯(問14) .....	24

(2) 地域で困っている世帯に対しての手助け経験の有無(問15)	26
(3) 地域で困っている世帯に対して今後(今後とも)できる手助け(問16)	28
(4) 地域の人たちに手助けしてほしい手助け(問17)	30
4. 地域福祉活動・ボランティア活動と高齢期の過ごし方について	33
(1) 地域福祉活動等への関わり(問18)	33
(2) 地域福祉活動等の活動をして得たもの・自分のためになったこと(問19)	36
(3) 定年退職後など的高齢期の過ごし方意向(問20)	37
5. 福祉に関する情報について	39
(1) 福祉に関して知りたい情報(問21)	39
(2) 福祉に関する情報入手の程度(問22)	41
(3) 充実してほしい福祉に関する情報発信手段(問23)	43
6. 今後の市や社協による地域福祉施策について	46
(1) 今後優先すべき地域福祉関連施策(問24)	46
(2) 地域福祉を充実させていく上での市民と行政の関係に対する考え(問25)	48
(3) 日進市の福祉関連予算に対する考え(問26)	51

# 序 調査の概要

## 1 調査の目的

現在のにしん幸せまちづくりプランの計画期間が令和6年度末で終了するため、令和5年度から令和6年度にかけて、新たに「第2期にしん幸せまちづくりプラン」の策定に着手することになりました。

第2期プランの策定にあたり、市民の皆様からご意見を伺い、第2期プランに反映させるために本調査を実施しました。

## 2 調査の方法

### (1) 調査対象

本市に居住の18歳以上の方

### (2) 抽出方法

無作為抽出

### (3) 調査方法

郵送による調査票の配布・Web及び郵送による回収

### (4) 調査時期

令和6年2月1日～2月20日

## 3 回収結果

- (1) 配布数 2,500票
- (2) 有効回収数 948票(内 Web 回答 319)
- (3) 有効回収率 37.9%

## 4 本調査報告書の基本的な事項

### (1) 数値等の基本的な取扱いについて

- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、各回答の比率の合計が100%にならない場合もあります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。(回答者総数又は該当者数)
- ・複数回答のものについては、各回答の比率の合計が100%を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中の選択肢の文言は、作図の都合上、簡略化している場合があります。
- ・グラフ内の0値は、選択肢の後ろに“(0)”を追加し省略している場合があります。
- ・本文中の「」内は[アンケートの選択肢]、『』内は[他の設問の選択肢]、“ ”内は[複数の選択肢をまとめた表記]となります。
- ・その他の回答内容や自由意見で同じ意見を集約し“(件数)”と表記しています。
- ・地区については、以下のとおりとなっています。

中部地区：蟹甲町・折戸町・栄1～2丁目・本郷町・岩崎町・岩藤町・南ヶ丘・東山・藤塚・竹の山

東部地区：藤枝町・米野木町・三本木町・藤島町・北新町・五色園・栄3～5丁目・米野木台

西部地区：赤池町・赤池・赤池南・浅田町・浅田平子・梅森町・梅森台・野方町・香久山・岩崎台

# 1. 回答者の属性

## (1) 性別 (問1)

問1 あなたの性別をお答えください。【○は1つだけ】

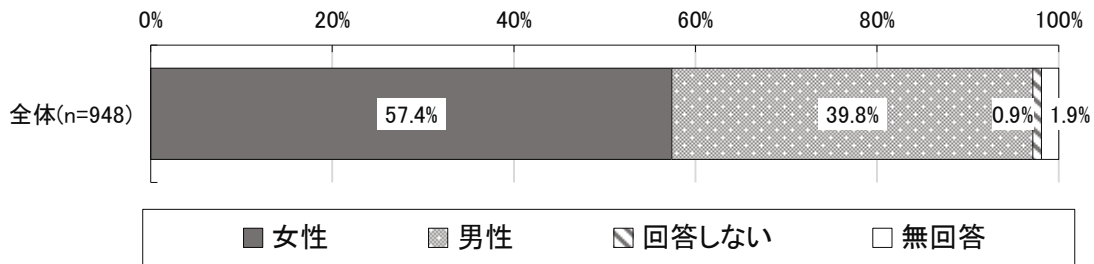
要点

「女性」がおよそ6割、「男性」が4割。

全体

「女性」が57.4%、「男性」が39.8%となっています。

図1-1 「性別」



## (2) 年齢 (問2)

問2 あなたの年齢についてお答えください。【令和6年1月1日現在の満年齢】 【○は1つだけ】

要点

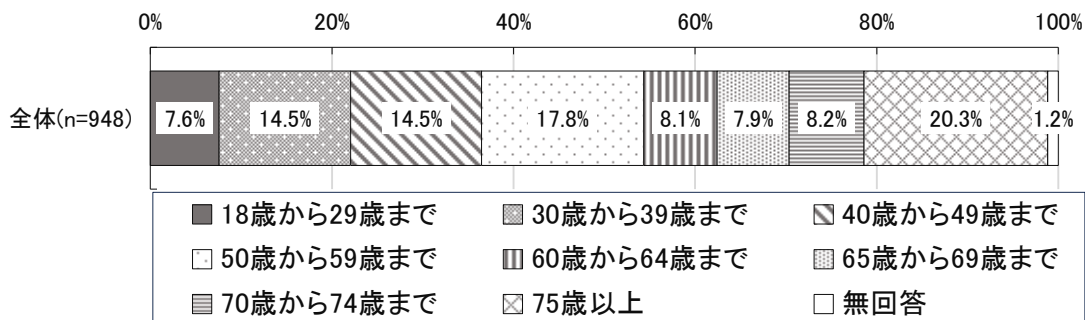
「75歳以上」(20.3%)の団塊の世代や「50歳から59歳まで」(17.8%)と「40歳から49歳まで」(14.5%)の団塊ジュニアがボリューム層になっています。また、西部地区では「30歳から39歳まで」といった若い世代の割合が多くなっています。

全体

○「75歳以上」が20.3%と最も多く、次いで、「50歳から59歳まで」(17.8%)、「30歳から39歳まで」と「40歳から49歳まで」(14.5%)、「70歳から74歳まで」(8.2%)、「60歳から64歳まで」(8.1%)、「65歳から69歳まで」(7.9%)、「18歳から29歳まで」(7.6%)の順となっています。

○「75歳以上」(20.3%)の団塊の世代や「50歳から59歳まで」(17.8%)と「40歳から49歳まで」(14.5%)の団塊ジュニアがボリューム層になっています。

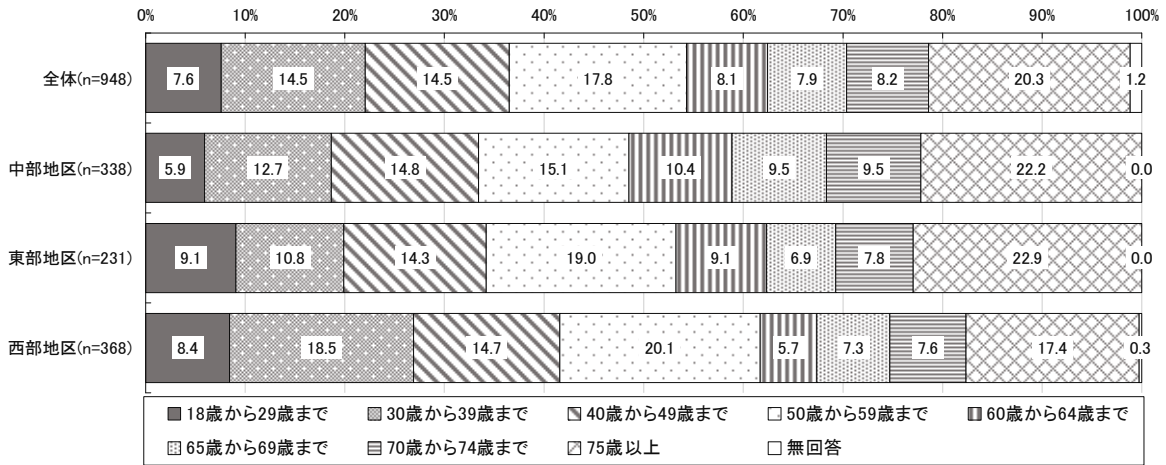
図1-2-1 「年齢」



居住地区別

○西部地区では、「30歳から39歳まで」といった若い世代の割合が多く、49歳以下が41.6%となっています。

図1-2-2 地区別「年齢」



(3) 世帯のタイプ (問3)

問3 あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。【○は1つだけ】

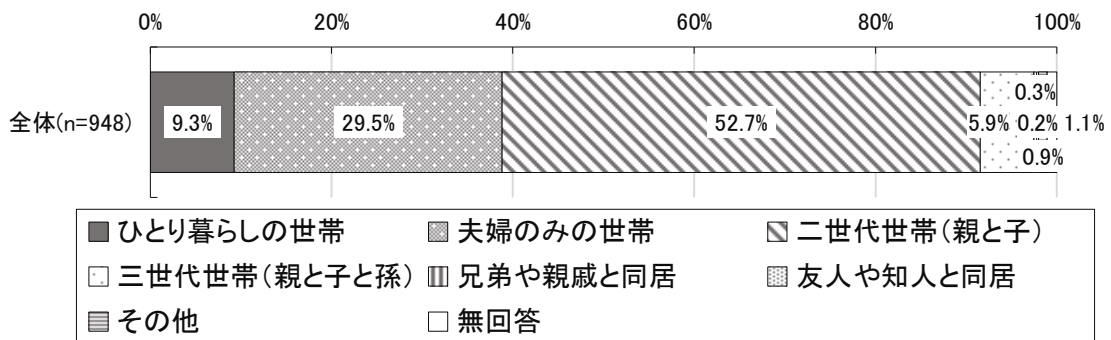
要点

5割以上が「二世帯世帯(親と子)」で、およそ3割が「夫婦のみの世帯」がとなっています。60歳以上の年齢層では、年齢が高くなるにつれて「ひとり暮らしの世帯」の割合が多くなる傾向がみられます。

全体

○「二世帯世帯(親と子)」が52.7%と最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」(29.5%)、「ひとり暮らしの世帯」(9.3%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(5.9%)、「兄弟や親戚と同居」(0.3%)、「友人や知人と同居」(0.2%)、「その他」(0.9%)の順となっています。

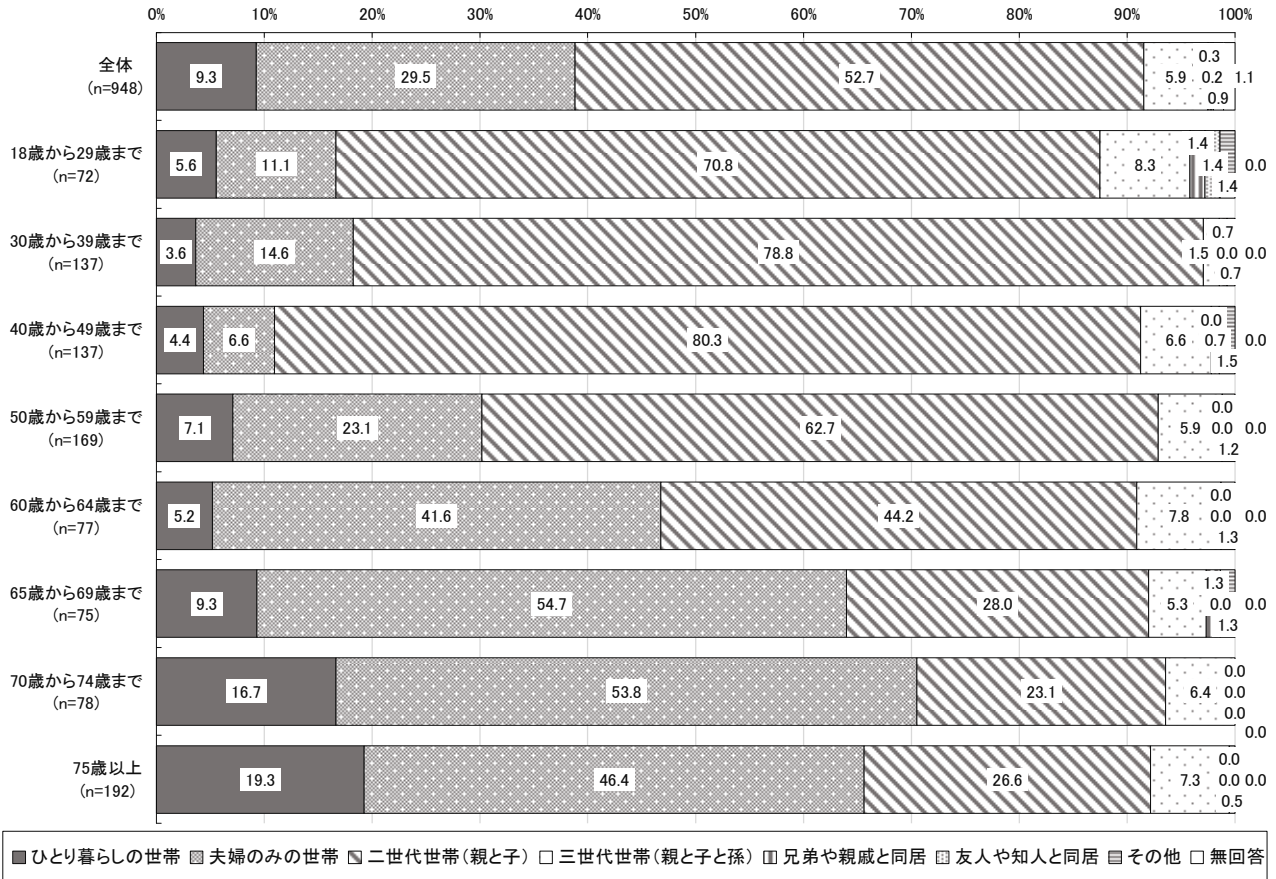
図1-3-1 「世帯のタイプ」



年齢別

- 30歳から49歳まででは、およそ8割が「二世帯世帯（親と子）」、65歳～75歳以上では、およそ5割が「夫婦のみの世帯」となっています。
- 60歳以上の年齢層では、年齢が高くなるにつれて、「ひとり暮らしの世帯」の割合が多くなる傾向がみられます。
- また、65歳以上の年齢層では、「ひとり暮らしの世帯」と「夫婦のみの世帯」とを合わせた割合が64.0%から70.5%を占めており、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯が多くなっています。

図1-3-2 年齢「世帯のタイプ」



(4) 子どもや高齢者等の同居人の有無(問4)

問4

あなたの世帯には、あなた自身も含めて、次のいずれかに該当する方はいますか。

【あてはまるものすべてに○】

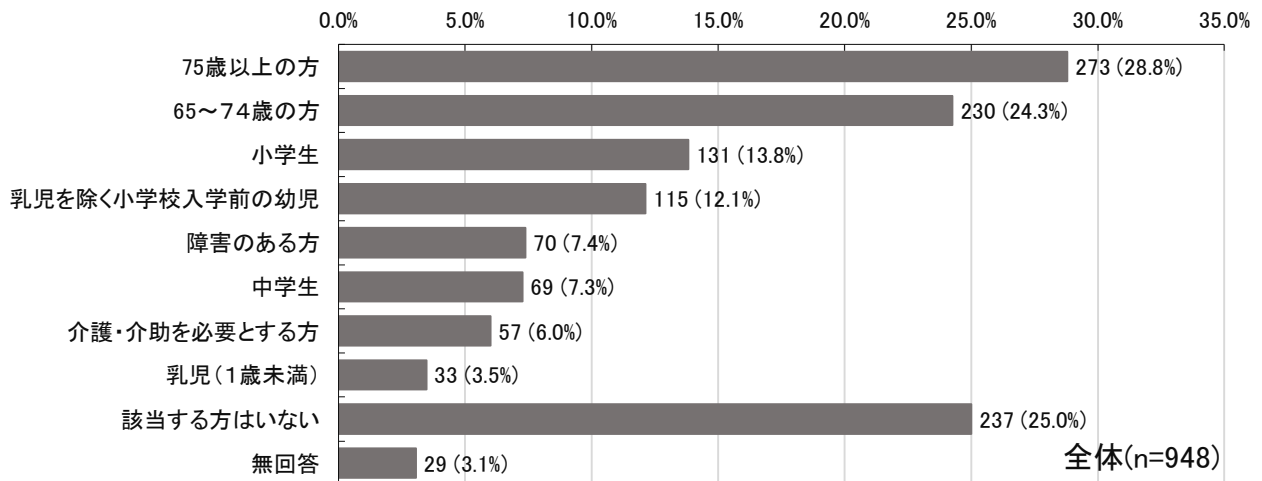
要点

後期高齢者や前期高齢者がいる世帯が多く、子どものいる世帯(中学生以下)を大きく上回っています。

全体

- 「75歳以上の方」(後期高齢者)がいる世帯が、28.8%と最も多くなっています。次いで、「65～74歳の方」(前期高齢者)がいる世帯が24.3%と多くなっています。
- これに対して、「小学生」や「乳児を除く小学校入学前の幼児」、「中学生」、「乳児(1歳未満)」といった子どものいる世帯は、それぞれ、13.8%、12.1%、7.3%、3.5%、で、高齢者のいる世帯を大きく下回っています。
- 「障害のある方」(7.4%)、「介護・介助を必要とする方」(6.0%)は、いずれも1割未満となっています。

図1-4 「子どもや高齢者等の同居人の有無」



(5) 居住地区 (問5)

**問5** あなたのお住まいはどの地区になりますか。【○は1つだけ】

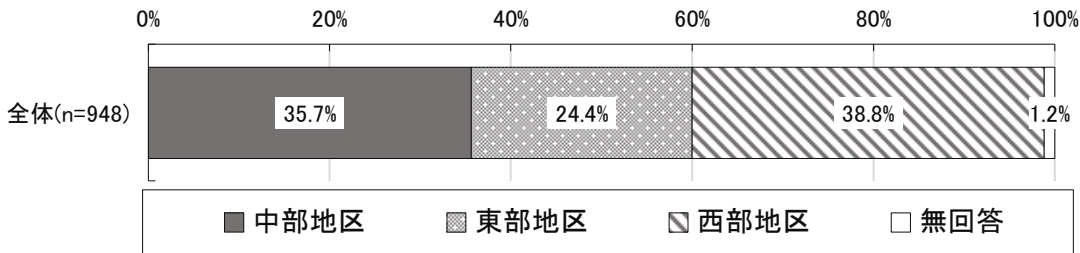
**要点**

中部地区と西部地区が4割弱、東部地区は4分の1。

**全体**

- 「西部地区」が38.8%と最も多く、次いで、「中部地区」(35.7%)、「東部地区」(24.4%)の順となっています。
- 実際の人口数が概ね反映された結果になっています。

図1-5 「居住地区」



## 2. 近所づきあいやあなたの不安・悩みと相談先等について

### (1) 近所付き合いの程度(問6)

問6 あなたは地域での付き合い(近所づきあい)をどの程度していますか。【○は1つだけ】

#### 要点

「顔を合わせればあいさつをする」が55.3%と最も多くを占め、全ての年齢層で最も多くを占めていますが、「ほとんど顔も知らない」、「顔は知っているが声をかけることはあまりない」は合わせて15.2%で近所付き合いが希薄な人も少なくありません。75歳以上の年齢層であっても10.4%を占めています。

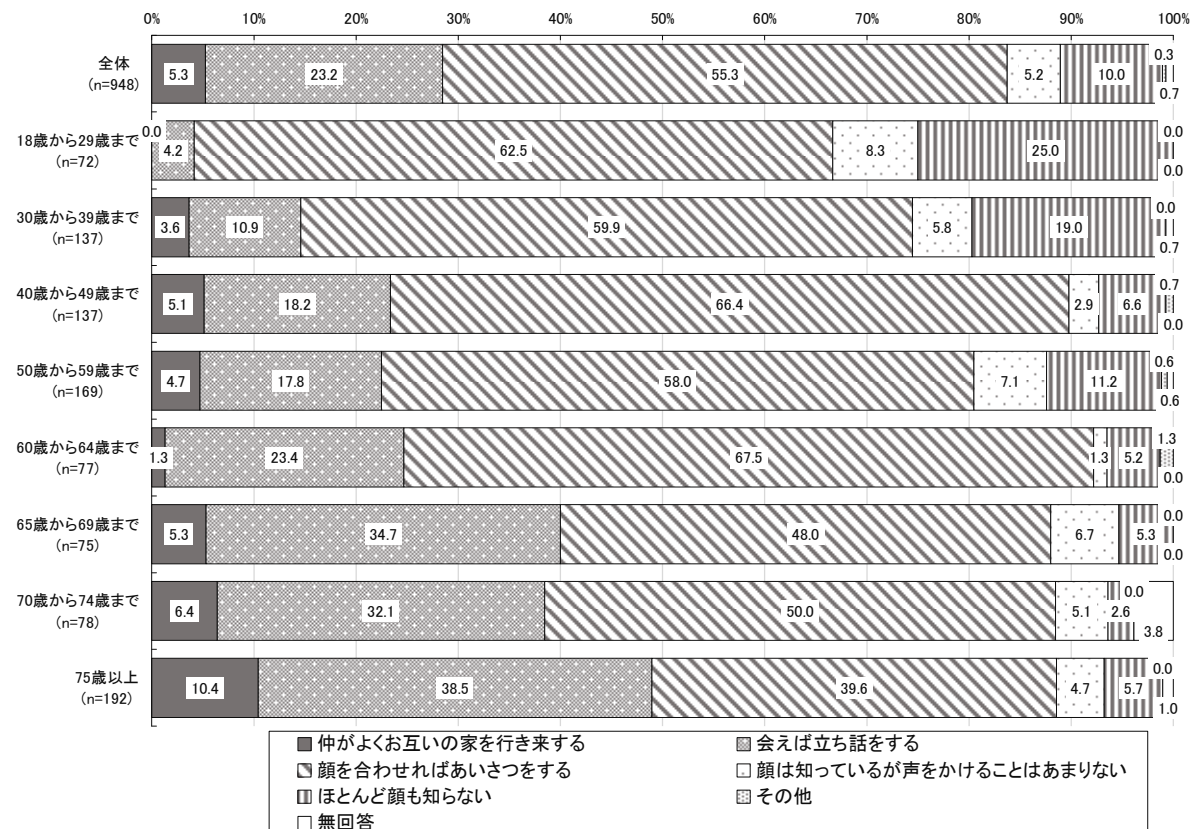
#### 全体

- 次いで、「会えば立ち話をする」が23.2%で多くなっています。
- 「仲良くお互いの家を行き来する」は5.3%と少ないものの、「会えば立ち話をする」(23.2%)と合わせると28.5%で、比較的親密な近所付き合いをしている人は約3割を占めています。
- 一方、「ほとんど顔も知らない」(10.0%)、「顔は知っているが声をかけることはあまりない」(5.2%)は合わせて15.2%で近所付き合いが希薄な人も少なくありません。

#### 年齢別

- 「顔を合わせればあいさつをする」は、全ての年齢で最も多くを占めています。
- 「仲がよくお互いの家を行き来する」は、18歳から29歳までが0.0%で最も少ない一方で、75歳以上の年齢層では10.4%みられます。
- 比較的親密な近所付き合いをしている「仲がよくお互いの家を行き来する」と「会えば立ち話をする」を合わせた割合は、年齢が高くなるにつれて概ね多くなる傾向がみられ、75歳以上の年齢層では、48.9%と半数近くを占めています。
- 一方で、75歳以上の年齢層であっても、「ほとんど顔も知らない」(5.7%)と「顔は知っているが声をかけることはあまりない」(4.7%)という人は、合わせて10.4%を占めています。

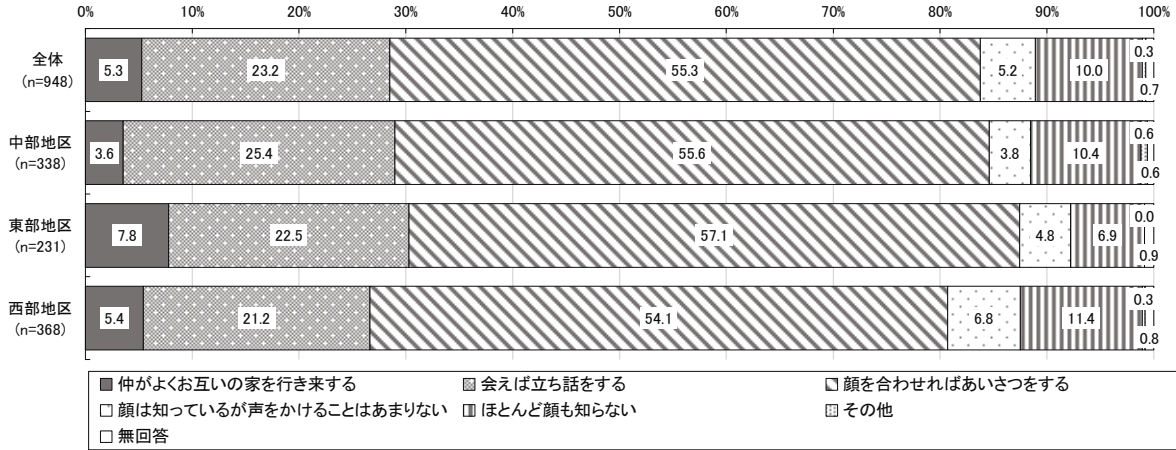
図2-1-1 年齢別「近所付き合いの程度」



居住地区別

○居住地区による大きな違いはみられません。

図2-1-2 居住地区別「近所付き合いの程度」



## (2) 望ましい近所付き合いの程度(問7)

問7 地域での付き合い(近所づきあい)は、どの程度が望ましいと思いますか。【〇は1つだけ】

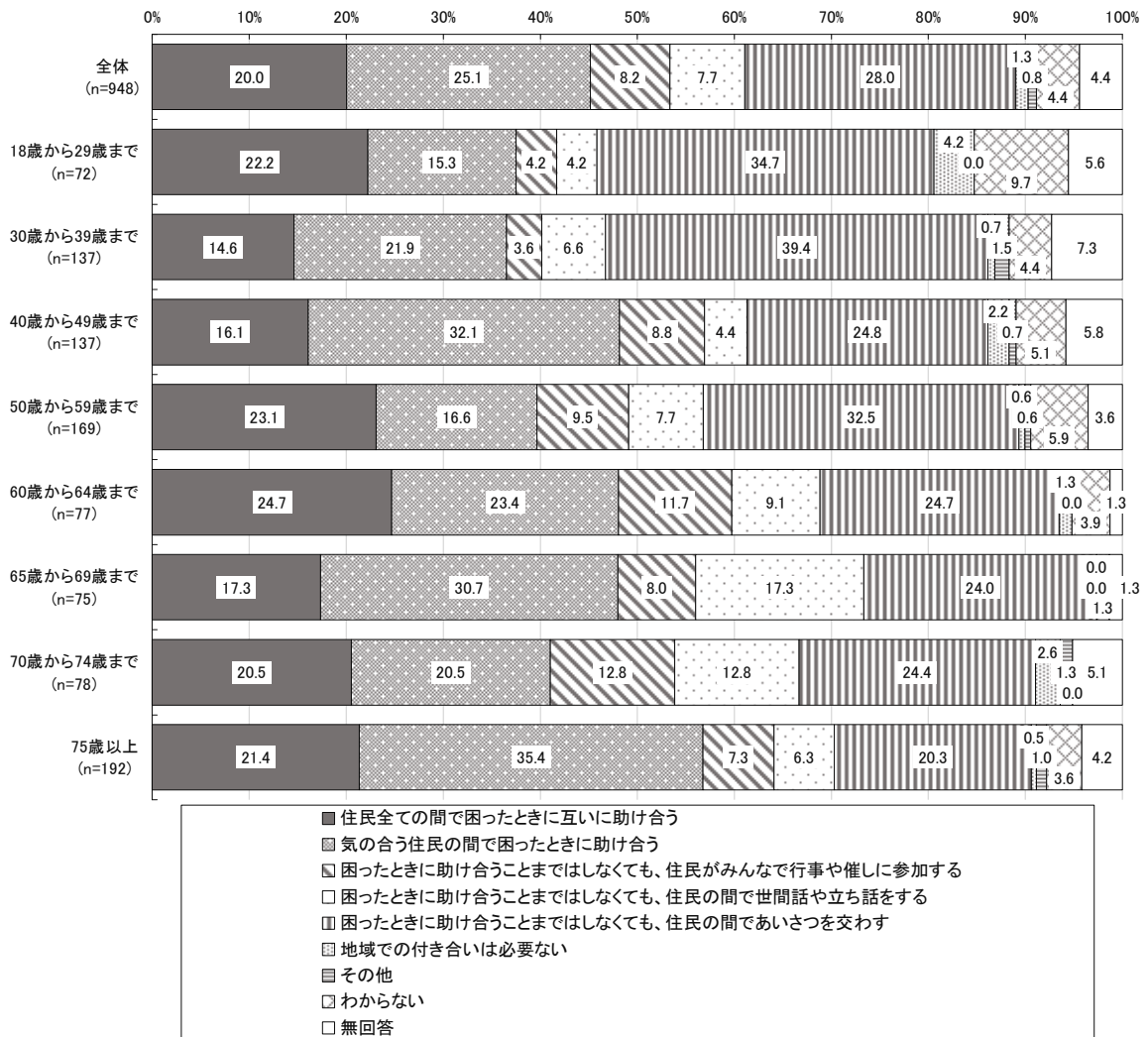
要点

“助け合う”という親密な近所付き合いを望んでいる人(45.1%)と“困ったときに助け合うことまではしない”という近所付き合いを望む人(43.9%)はほぼ拮抗しています。  
 “助け合う”と回答した人の割合は、75歳以上の年齢層で最も多く、56.8%を占めています。

全体

- 「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」が28.0%と最も多く、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する」(8.2%)、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする」(7.7%)と合わせた“困ったときに助け合うことまではしないが近所付き合い等はする”は、43.9%を占めています。
- これに対して、「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」(25.1%)と「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」(20.0%)とを合わせた“助け合う”という人は45.1%を占めています。“困ったときに助け合うことまではしない”を僅かながら上回っているもののほぼ拮抗しています。
- また、「地域での付き合いは必要ない」という人(1.3%)も見受けられます。

図2-2-1 年齢「望ましい近所付き合いの程度」



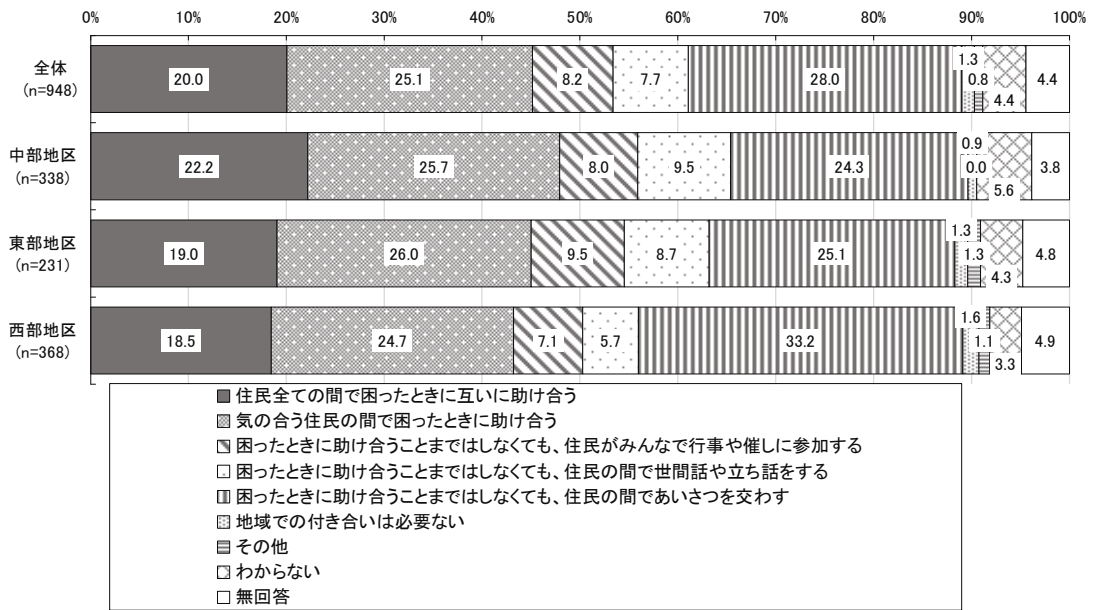
年齢別

○“助け合う”と回答した人の割合は、75歳以上の年齢層で最も多く、56.8% (21.4%+35.4%)と過半数を占めています。次いで、40歳から49歳までの子育て世代で48.2%と少なくなっています。  
 ○両年齢層とも“困ったときに助け合うことまではしない”の割合 [75歳以上:33.9% (7.3%+6.3%+20.3%)、40歳から49歳まで:38.0% (8.8%+4.4%+24.8%)]を上回っています。

居住地区別

○西部地区では、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」が最も多く33.2%を占めており、合わせて“困ったときに助け合うことまではしない”は46.0%を占め、“助け合う”の43.2%を少し上回っており、他地区とは異なる傾向が見られます。

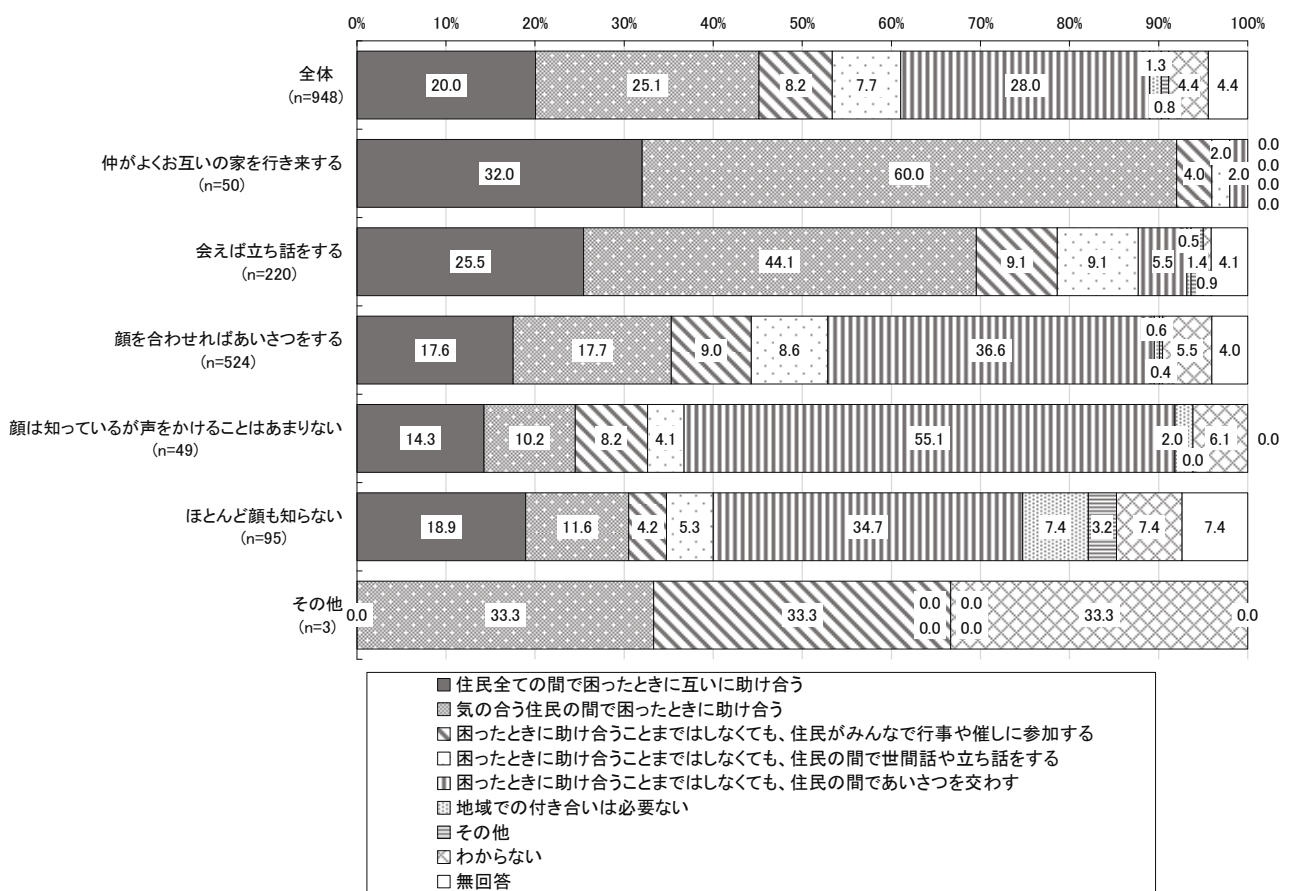
図2-2-2 居住地区別「望ましい近所付き合いの程度」



近所付き合いの程度別

- 「助け合う」と回答した人の割合は、近所付き合いが親密な「仲がよくお互いの家を行き来する」において92.0% (20.0%+25.1%)と最も多くを占めています。また、「会えば立ち話をする」でも69.6% (25.5%+44.1%)と多くを占めています。
- 近所付き合いが親密な人ほどより、「助け合う」というより親密な近所付き合いを強く望む傾向がみられます。
- 一方、「顔は知っているが声をかけることはあまりない」や「ほとんど顔も知らない」と回答した人でも「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」を望む人がそれぞれ、55.1%、34.7%を占めており、現状の近所付き合いよりも親密な近所付き合いを望む人が多くを占めています。
- また、「顔は知っているが声をかけることはあまりない」や「ほとんど顔も知らない」と回答した人でも「助け合う」という親密な関係性を望む人もそれぞれ、24.5% (14.3%+10.2%)、30.5% (18.9%+11.6%)を占めています。

図2-2-3 近所付き合いの程度別「望ましい近所付き合いの程度」



### (3) 地域のつながりの以前との比較(問8)

**問8** あなたは、お住まいの地域のつながりが、以前と比べてどのようになっていると思いますか。  
【〇は1つだけ】

**要点**

“地域のつながりが強くなっている”は3.1%であるのに対して、“地域のつながりが弱くなっている”は39.5%を占め、大きく上回っており、全般的には地域のつながりは脆弱化している状況にあります。

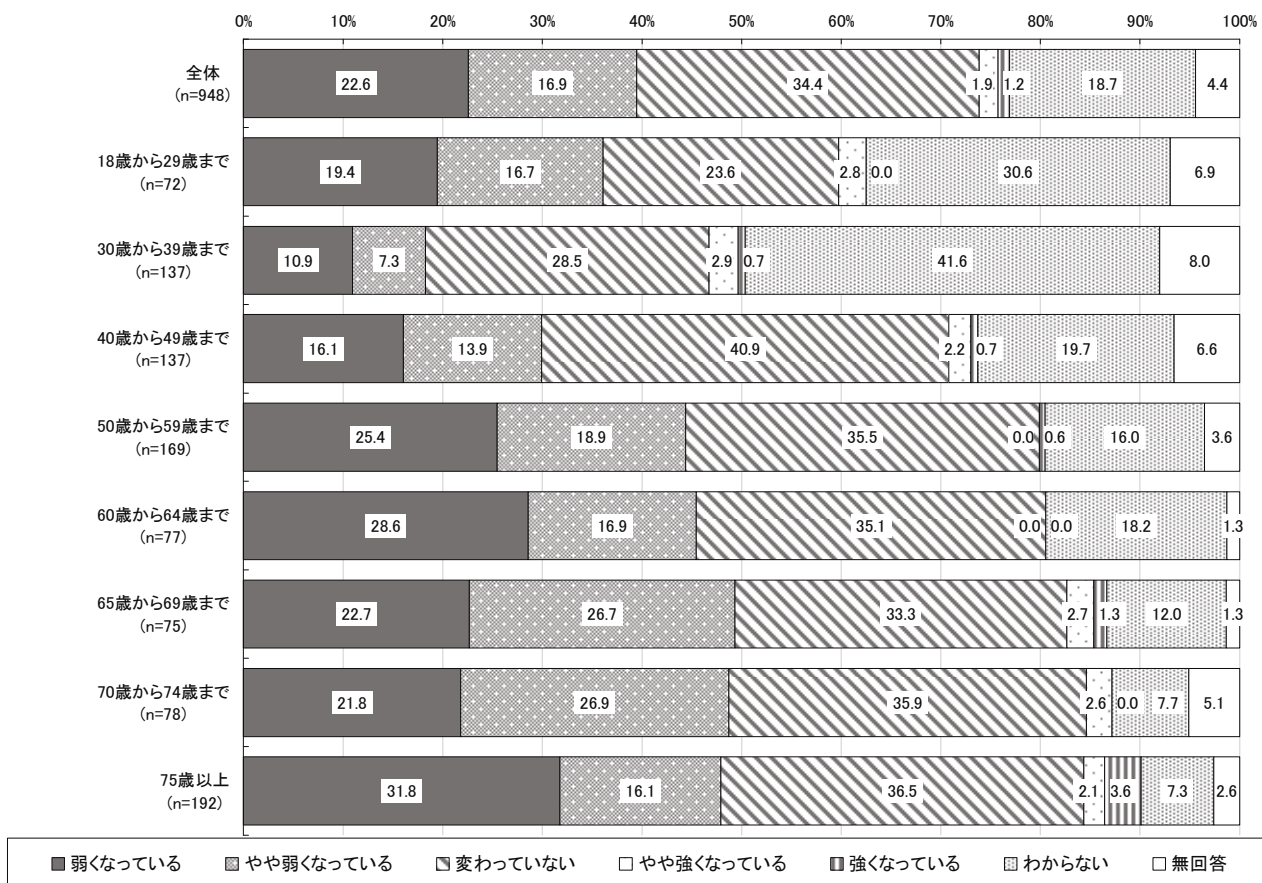
**全体**

○「やや強くなっている」(1.9%)と「強くなっている」(1.2%)とを合わせた“地域のつながりが強くなっている”は僅か3.1%となっています。  
○「弱くなっている」(22.6%)と「やや弱くなっている」(16.9%)を合わせた“地域のつながりが弱くなっている”は39.5%を占め、大きく上回っており、全般的には地域のつながりは脆弱化している状況にあります。

**年齢別**

○50歳以上の年齢層では、「弱くなっている」と「やや弱くなっている」を合わせた“地域のつながりが弱くなっている”という割合がいずれも5割近くとなっています。  
○30歳から39歳までの年齢層では、「弱くなっている」と「やや弱くなっている」を合わせた“地域のつながりが弱くなっている”という割合が18.2%と少なく、「わからない」が41.6%と多くを占めています。「わからない」は、18歳から29歳までの若い年齢層でも30.6%と比較的多くなっていることが特徴としてみられます。

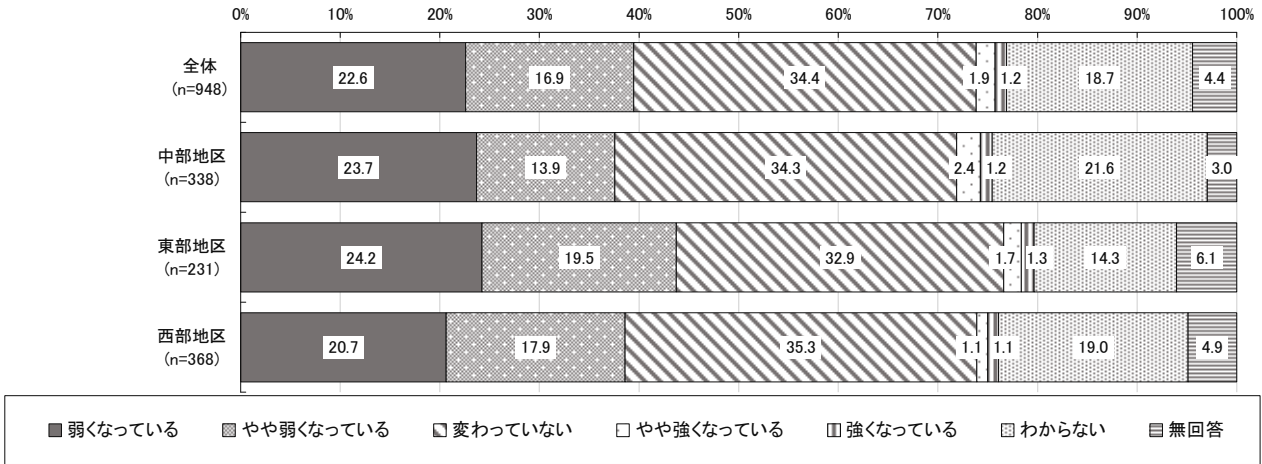
図2-3-1 年齢別「地域のつながりの以前との比較」



居住地区別

○居住地区による大きな違いはみられません。

図2-3-2 居住地区「地域のつながりの以前との比較」



近所付き合いの程度別

○『ほとんど顔も知らない』と『その他』を除くと、近所付き合いの程度に関係なく、“地域のつながりが弱くなっている”の割合はいずれも4割強を占めています。ただし、「弱くなっている」に着目すると、近所付き合いが希薄になるほど割合が多くなる傾向がみられます。

○『仲がよくお互いの家を行き来する』という親密な近所付き合いをしている人では、「強くなっている」が14.0%と多く、「弱くなっている」(10.0%)を上回っているのが特徴としてみられます。

図2-3-3 近所付き合いの程度別「地域のつながりの以前との比較」



#### (4) ふだんの暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安(問9・問10)

**問9** あなたはふだんの暮らしの中で、どのような不安や悩みを感じていますか。  
【あてはまるものすべてに○】

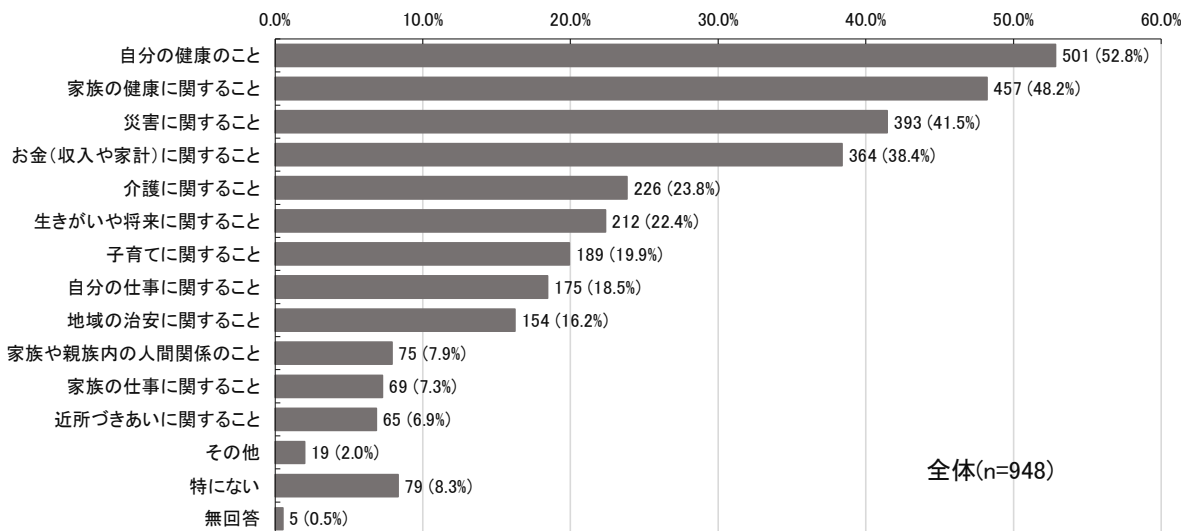
**要点**

91.2%の人がふだんの暮らしの中で何らかの不安や悩みを抱えており、「自分の健康のこと」が52.8%と最も多く、次いで、「家族の健康に関すること」(48.2%)、「災害に関すること」(41.5%)、「お金(収入や家計)に関すること」(38.4%)、の順になっています。

**全体**

- 「特にない」(8.3%)と「無回答」(0.5%)を除いた、残りの91.2%の人がふだんの暮らしの中で何らかの不安や悩みを抱えています。
- 具体的には、「自分の健康のこと」が52.8%と最も多く、次いで、「家族の健康に関すること」(48.2%)、「災害に関すること」(41.5%)、「お金(収入や家計)に関すること」(38.4%)、「介護に関すること」(23.8%)、「生きがいや将来に関すること」(22.4%)が多くなっています。
- 次いで、「子育てに関すること」(19.9%)、「自分の仕事に関すること」(18.5%)、「地域の治安に関すること」(16.2%)、「家族や親族内の人間関係のこと」(7.9%)、「家族の仕事に関すること」(7.3%)、「近所づきあいに関すること」(6.9%)の順となっています。

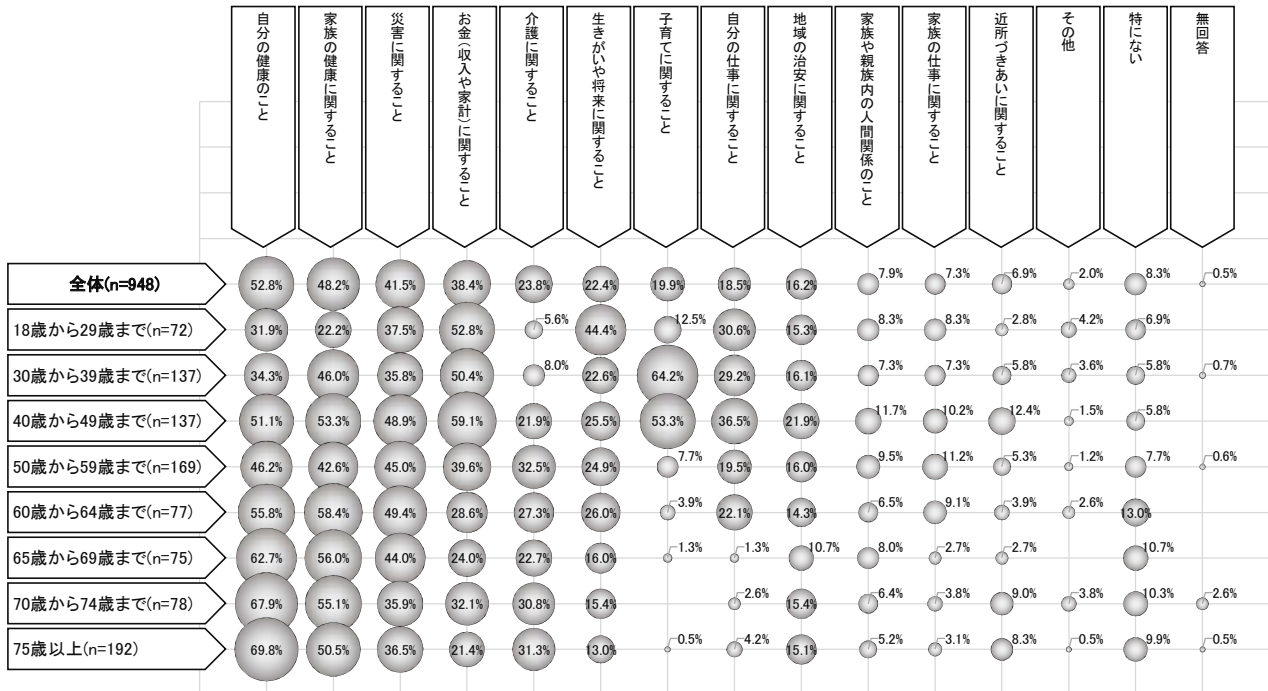
図2-4-1 「ふだんの暮らしにおける悩みや不安(現在)」



年齢別

- 年齢別にみると、ライフステージによって差異がみられます。
- 具体的には、18歳から29歳までの年齢層では、健康以上に「お金(収入や家計)に関すること」や「生きがいや将来に関すること」の割合が多くなっています。
- 30歳から49歳までの年齢層でも、同じく健康以上に「お金(収入や家計)に関すること」や「子育てに関すること」の割合が多くなっています。
- 60歳から64歳までの年齢層では、「家族の健康」の割合の方が多くなっていることが特徴としてみられます。
- 65歳以上の年齢層になると、「自分の健康」の割合の方が多くなっていることが特徴としてみられます。

図2-4-2 年齢別「ふだんの暮らしにおける悩みや不安(現在)」



問10

10年後のあなたご自身やあなたの家族の状況を考えた場合、10年後のふだんの暮らしの中で、どのような不安や悩みを感じていると思われますか。【あてはまるものすべてに○】

要点

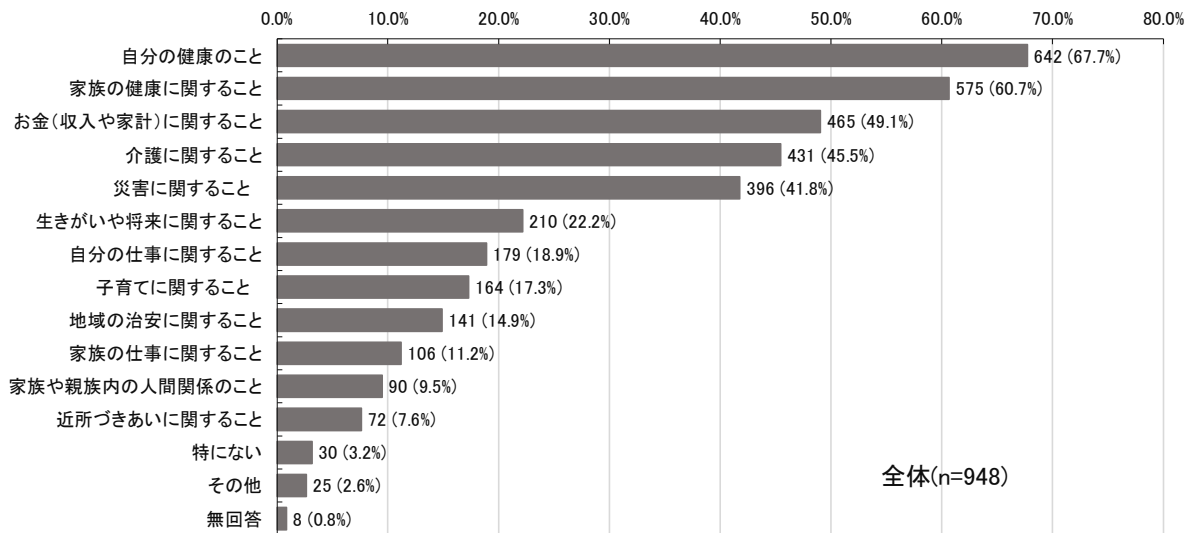
現在の不安や悩みと同様、「自分の健康のこと」が67.7%と最も多く、2番目に「家族の健康に関すること」が60.7%と多くなっています。

「介護に関すること」については、現在が23.8%であるのに対して、10年後が45.5%で、現在が21.7ポイントも上回っています。同様に、「自分の健康のこと」(14.9ポイント)、「家族の健康に関すること」(12.5ポイント)「お金(収入や家計)に関すること」(10.7ポイント)についても10年後の不安や悩みの方が現在の不安や悩みを上回っています。

全体

- 「特にない」(3.2%)と「無回答」(0.8%)を除いた、残りの96.0%の人が10年後のふだんの暮らしの中で何らかの不安や悩みを感じています。
- 具体的には、「自分の健康のこと」が67.7%と最も多く、次いで、「家族の健康に関すること」(60.7%)、「お金(収入や家計)に関すること」(49.1%)、「介護に関すること」(45.5%)、「災害に関すること」(41.8%)の順となっています。

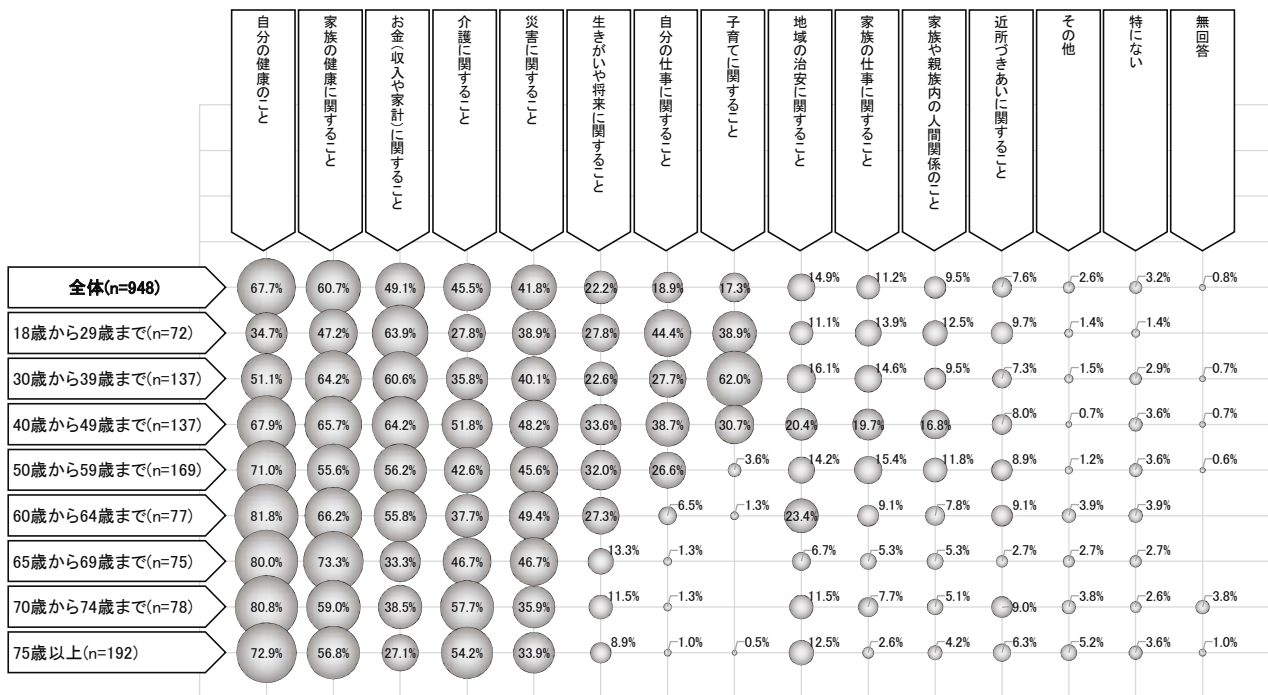
図2-4-3 「ふだんの暮らしにおける悩みや不安(10年後)」



年齢別

- 年齢別にみると、ライフステージによって多少の差異がみられます。
- 具体的には、18歳から29歳までの年齢層では、健康以上に「お金(収入や家計)に関すること」の割合が多くなっています。また、「自分の仕事に関すること」も44.4%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 30歳から39歳までの年齢層では、「家族の健康に関すること」が64.2%と最も多くなっています。また、「子育てに関すること」が62.0%と2番目の不安や悩みになっています。さらに、「お金(収入や家計)に関すること」の割合も60.6%と多くなっています。
- 「生きがいや将来に関すること」については、40歳から49歳において他の年齢層に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。
- 60歳から74歳までの年齢層では、「自分の健康」の割合がいずれも8割以上になっています。
- また、「介護に関すること」については、70歳から74歳や75歳以上の年齢層に加えて、る40歳から49歳までの年齢層でも若干多くなっています。

図2-4-4 年齢別「ふだんの暮らしにおける悩みや不安(10年後)」

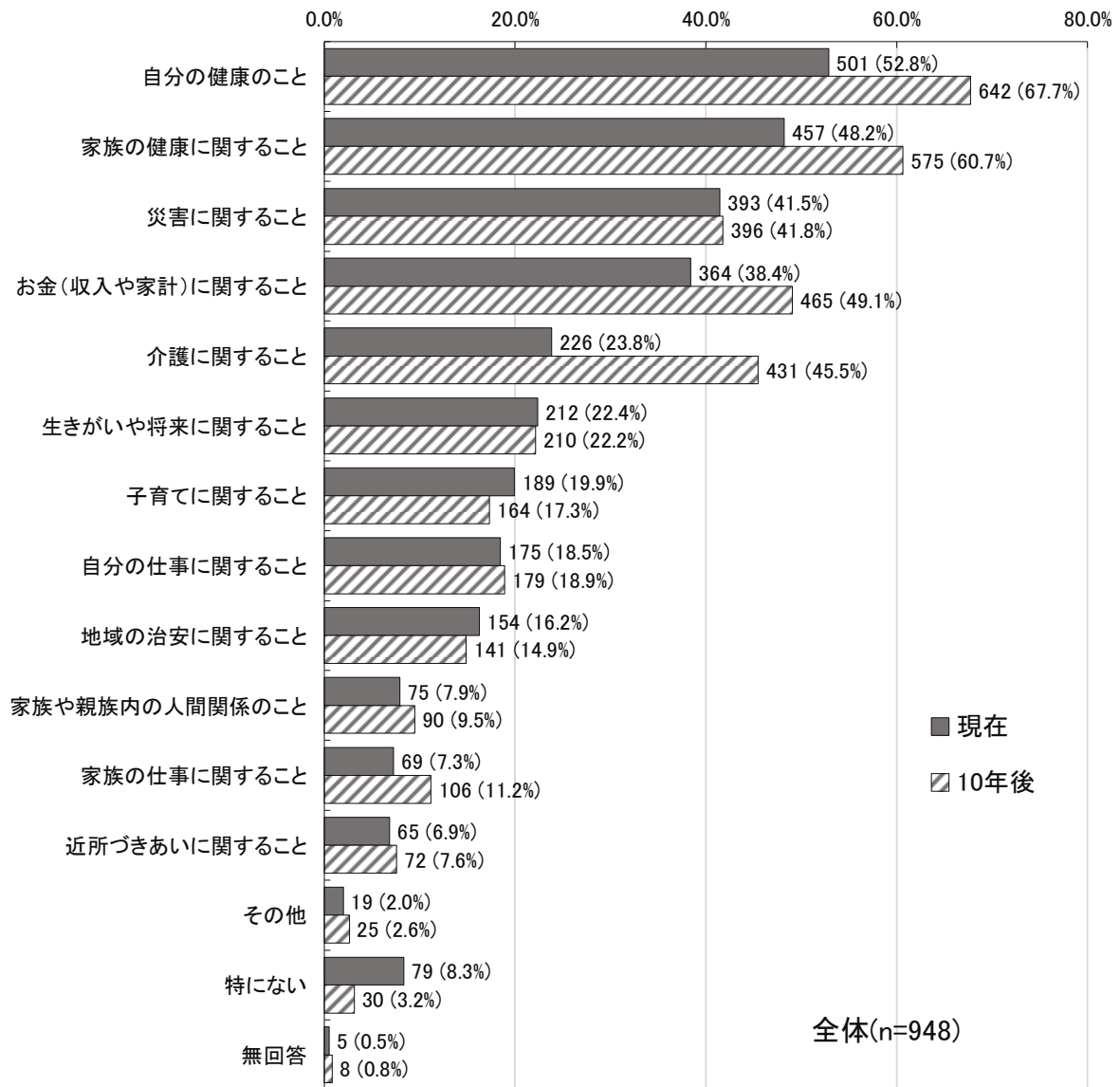


現在と10年後の比較

○ふだんの暮らしにおける悩みや不安の現在と10年後の結果を比較すると、「介護に関すること」については、現在が23.8%であるのに対して、10年後が45.5%で、21.7ポイントも上回っています。

○同様に、「自分の健康のこと」については14.9ポイント、「家族の健康に関すること」については12.5ポイント、「お金(収入や家計)に関すること」については10.7ポイント、10年後の不安や悩みの方が現在の不安や悩みを上回っています。

図2-4-5 「ふだんの暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安」比較



## (5) 家族、親族以外の相談相手(問11)

**問11** ふだんの暮らしの中で困ったり不安を感じたときに、家族や親族以外では、誰に相談しますか。  
【あてはまるものすべてに○】

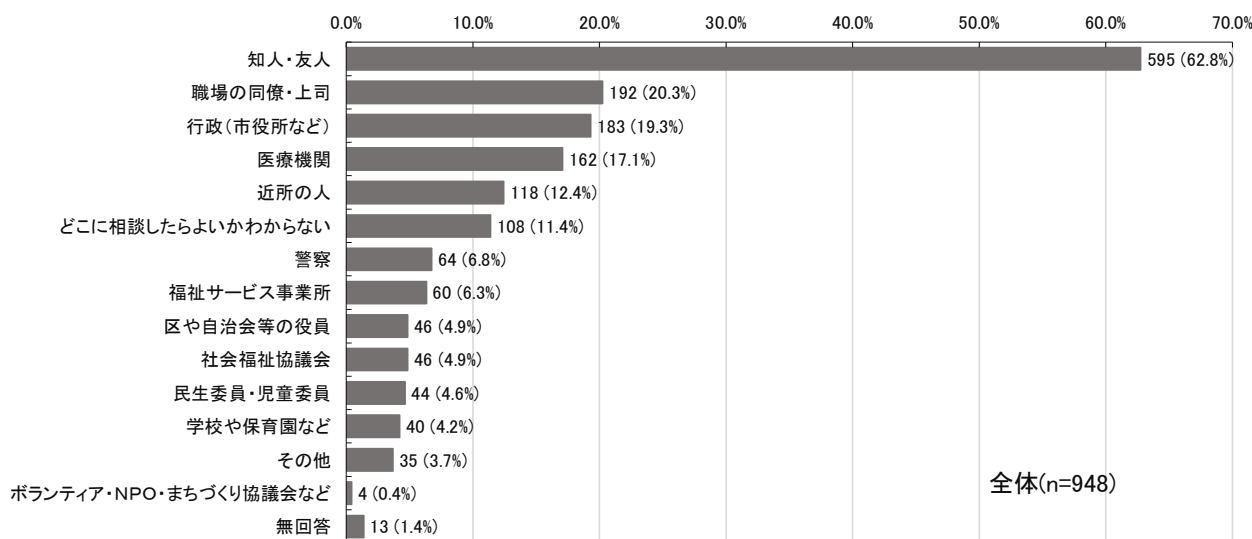
**要点**

「知人・友人」が62.8%と最も多く、次いで、「職場の同僚・上司」(20.3%)、「行政(市役所など)」(19.3%)、「医療機関」(17.1%)の順になっています。「どこに相談したらよいかわからない」は、全ての年齢層においてもおよそ1割みられます。

**全体**

- 「知人・友人」が62.8%と最も多くなっています。
- 次いで、「職場の同僚・上司」(20.3%)、「行政(市役所など)」(19.3%)、「医療機関」(17.1%)、「近所の人」(12.4%)の順になっています。
- 「どこに相談したらよいかわからない」が11.4%で6番目に多くなっています。

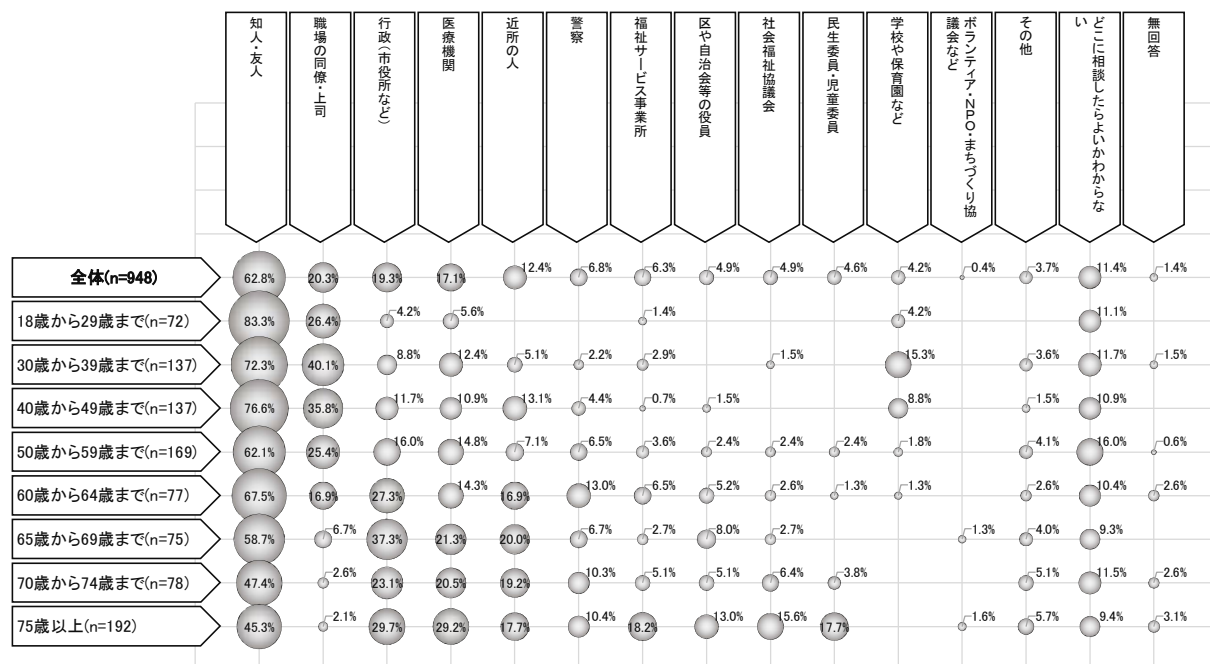
図2-5-1 「家族、親族以外の相談相手」



**年齢別**

- 全ての年齢層で、「知人・友人」が最も多くなっていますが、年齢層が高くなるにつれて概ねその割合が低下していく傾向がみられます。
- 60歳以上の年齢層では、「行政(市役所など)」や「医療機関」、「近所の人」の割合が多くなっています。
- 「どこに相談したらよいかわからない」は、全ての年齢層でもおよそ1割となっています。

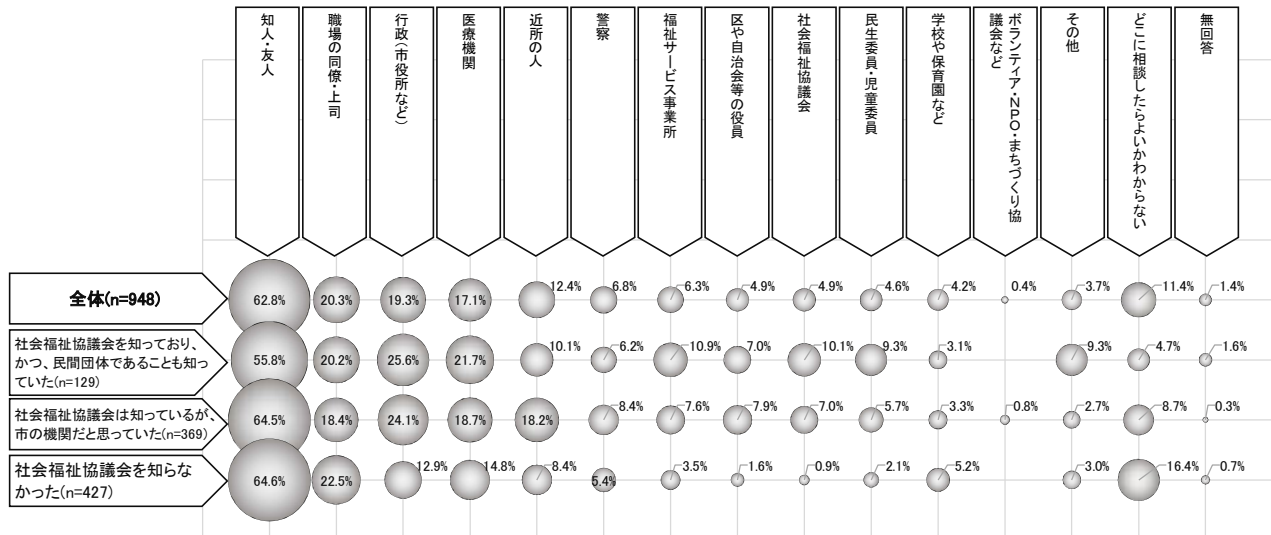
図2-5-2 年齢別「家族、親族以外の相談相手」



認知度の別  
社協の

- 社会福祉協議会の認知度が低い人ほど、「どこに相談したらよいかわからない」という人の割合が多くなる傾向がみられます。
- また、『社会福祉協議会を知らなかった』と回答した人では、「行政（市役所など）」をはじめとした公的な相談機関等の割合が少なくなっています。

図2-5-3 社協の認知度別「家族、親族以外の相談相手」



## (6) 相談窓口の認知度 (問12)

**問12** 市内には、さまざまな分野の相談支援機関や相談窓口がありますが、次のうち、ご存じのものはありますか。【あてはまるものすべてに○】

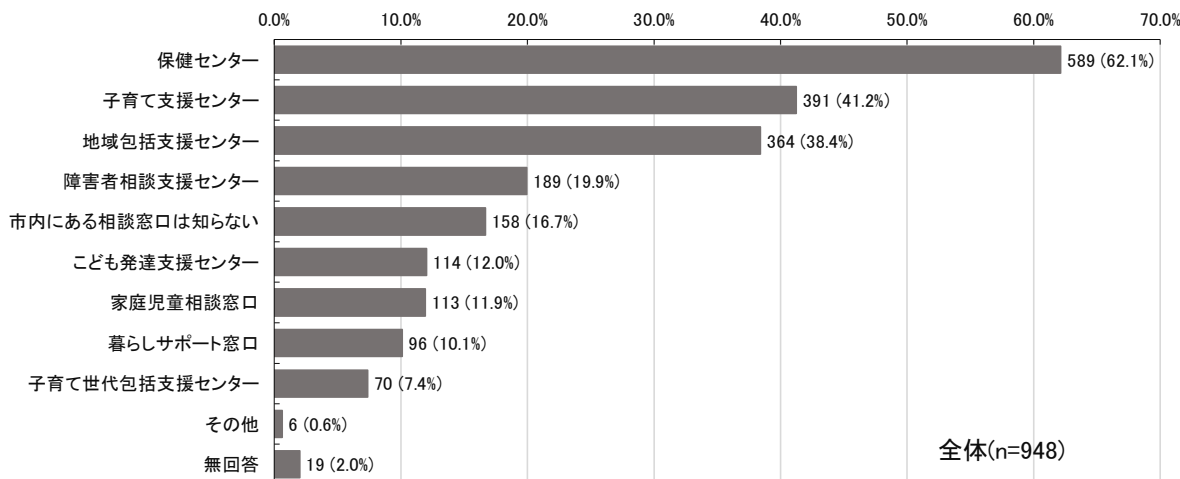
**要点**

市内にある相談支援機関や相談窓口のうち、最も認知度が高いのは「保健センター」で、62.1%の人から知られています。30歳から49歳までの年齢層では、「保健センター」よりも「子育て支援センター」の認知度が高くなっています。一方で「市内にある相談窓口は知らない」という回答が16.7%となっています。

**全体**

- 「保健センター」が62.1%と最も認知度が高い相談支援機関や相談窓口になっています。
- 次いで、「子育て支援センター」(41.2%)、「地域包括支援センター」(38.4%)、「障害者相談支援センター」(19.9%)の順になっています。
- 「市内にある相談窓口は知らない」という回答が16.7%となっています。
- また、「こども発達支援センター」(12.0%)、「家庭児童相談窓口」(11.9%)、「暮らしサポート窓口」(10.1%)、「子育て世代包括支援センター」(7.4%)の認知度についてはいずれも10%台前半となっています。

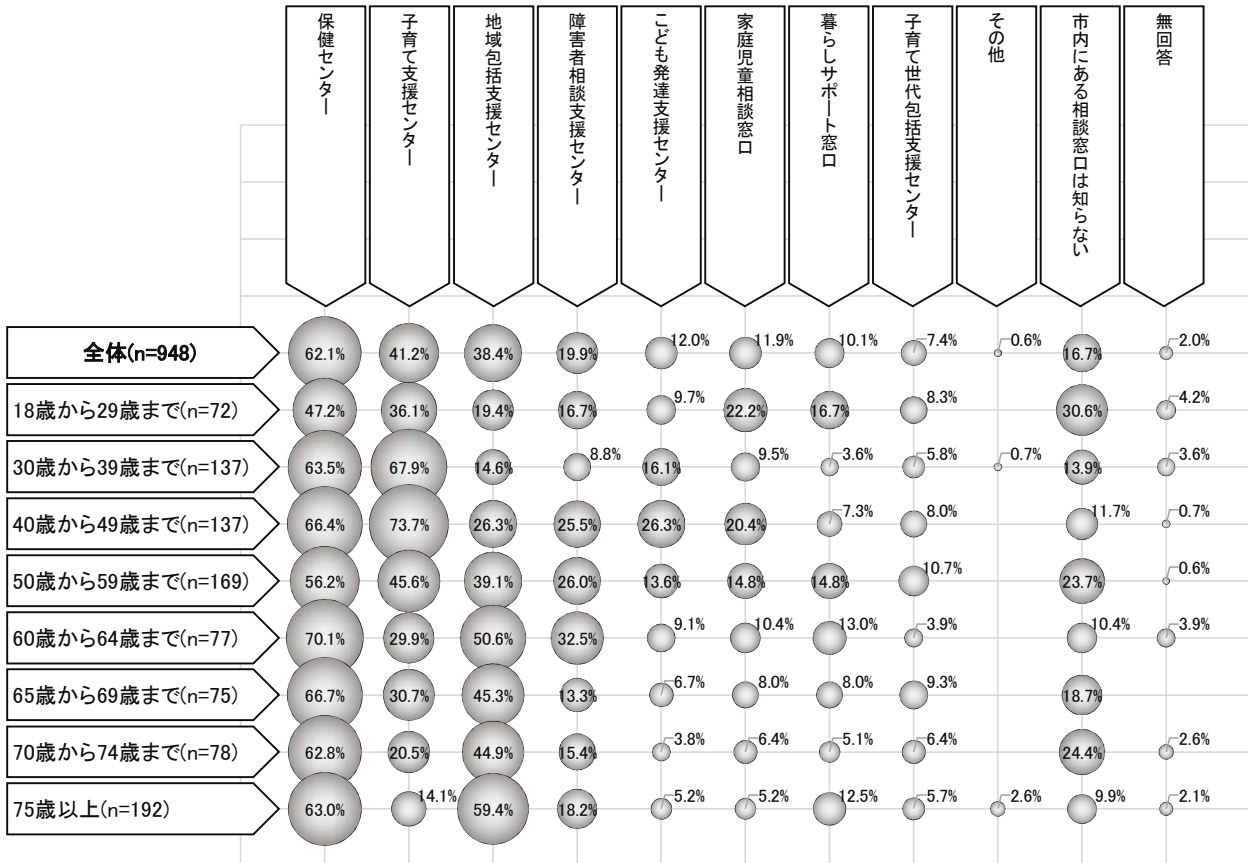
図2-6-1 「相談窓口の認知度」



年齢別

- 30歳から49歳までの年齢層では、「子育て支援センター」が最も認知度の高い相談支援機関や相談窓口になっています。
- 「地域包括支援センター」については、75歳以上の年齢層と60歳から64歳までの年齢層において認知度が半数を超えていることが特徴としてみられます。

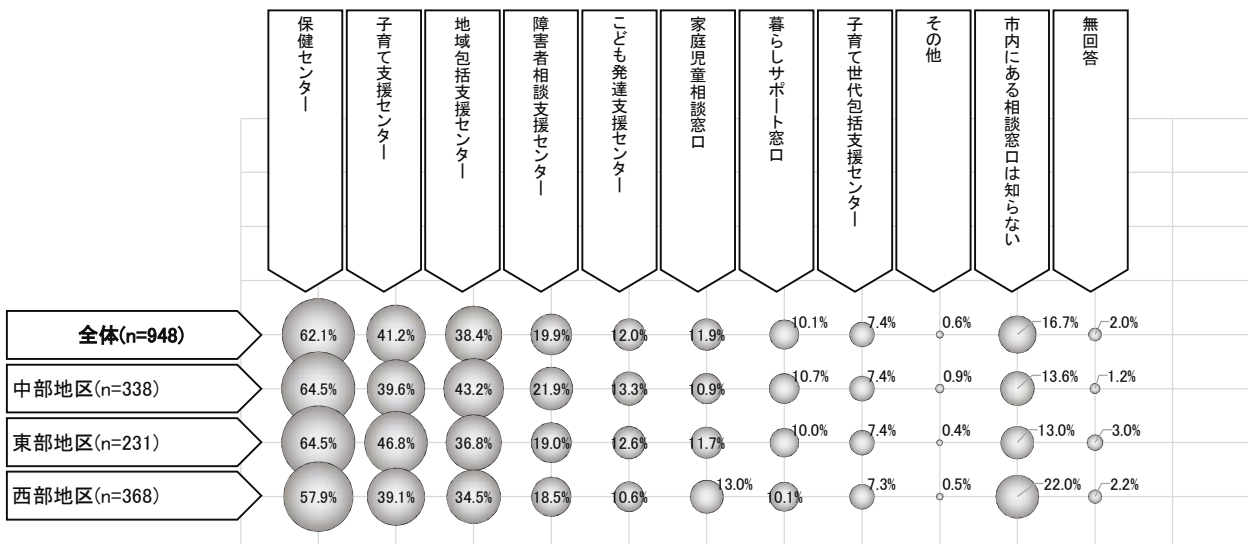
図2-6-2 年齢別「相談窓口の認知度」



居住地区別

- 「市内にある相談窓口は知らない」という回答が西部地区において22.0%と他の地区に比べて若干おこなっていますが、一般的にみて居住地区による大きな違いはみられません。

図2-6-3 居住地区別「相談窓口の認知度」



## (7) 社会福祉協議会の認知度(問13)

問13

あなたは、社会福祉協議会が社会福祉法第109条に定められた地域福祉の推進を図ることを目的とする「民間の福祉団体」であることをご存知でしたか。【〇は1つだけ】

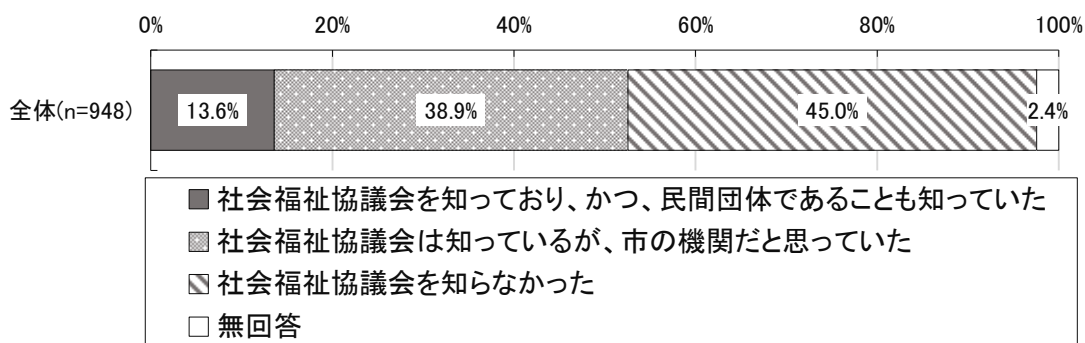
要点

“社協を知っている”という人は52.5%で、「社会福祉協議会を知らなかった」(45.0%)を上回る結果になっています。18歳から39歳までの年齢層や西部地区では認知度があまり高くありません。

全体

○「社会福祉協議会を知っており、かつ、民間団体であることも知っていた」は13.6%と、「社会福祉協議会を知らなかった」(45.0%)を下回る結果になっています。  
 ○ただ、「社会福祉協議会を知っており、かつ、民間団体であることも知っていた」と「社会福祉協議会は知っているが、市の機関だと思っていた」の38.9%と合わせると、“社協を知っている”という人は52.5%を占め、「社会福祉協議会を知らなかった」(45.0%)を上回る結果になっています。

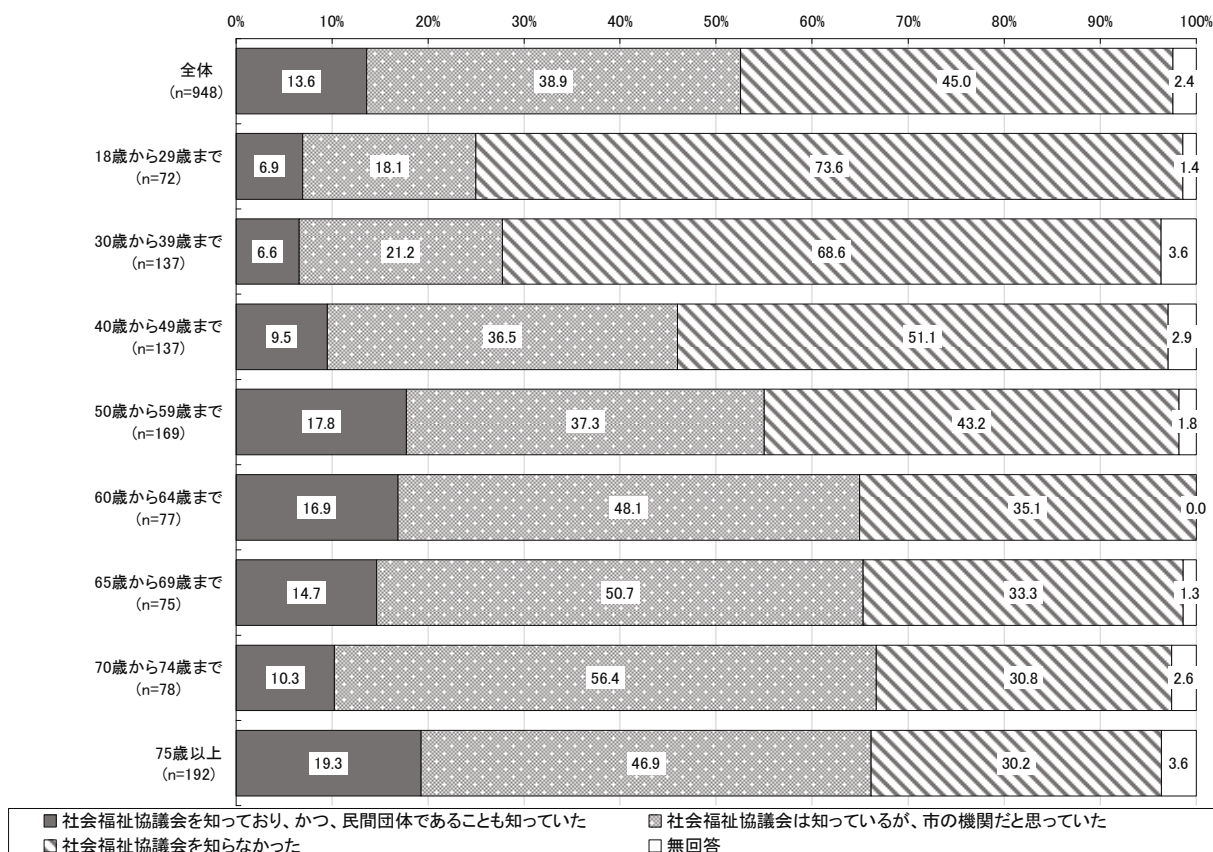
図2-7-1 「社会福祉協議会の認知度」



年齢別

○“社協を知っている”という人の割合は、18歳から29歳までや30歳から39歳までといった若い年齢層では、どちらも3割未満ですが、年齢が高くなるにつれてその割合は概ね高まっていく傾向がみられ、60歳以上の年齢層ではいずれも65.0%を超えています。

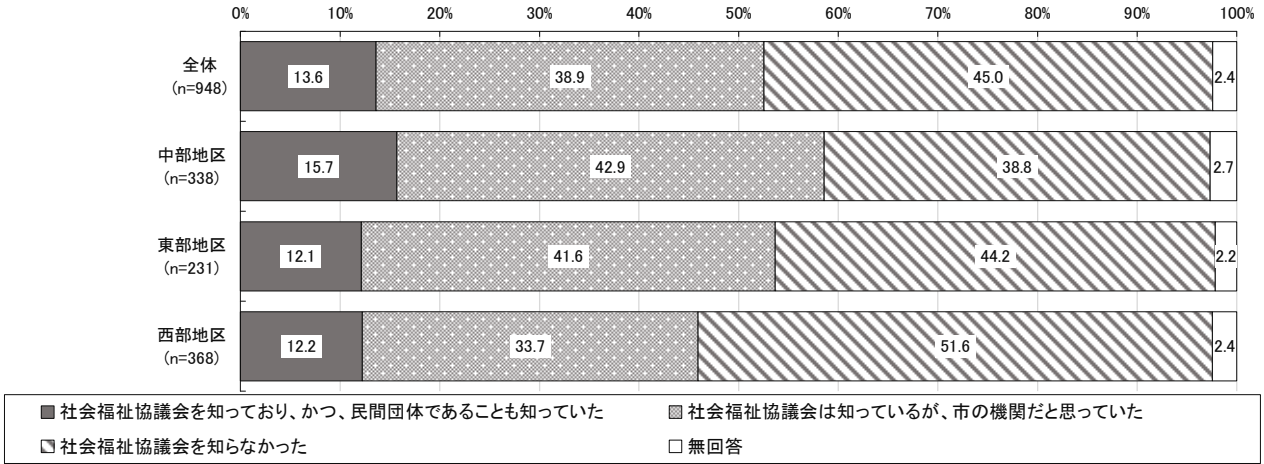
図2-7-2 年齢別「社会福祉協議会の認知度」



居住地区別

○“社協を知っている”という人の割合は、社協が立地している中部地区で58.6%である一方、西部地区では45.6%と少なくなってます。

図2-7-3 居住地区別「社会福祉協議会の認知度」



### 3. 地域生活課題を抱えた人・世帯の実態や地域の助け合い等について

#### (1) ご近所で見聞きしたことがある地域生活課題を抱えた人・世帯(問14)

問14

あなたは、ご近所(家族は除く)で、次のような地域生活課題を抱えた人・世帯(その疑いのある人・世帯を含む)を見聞きしたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

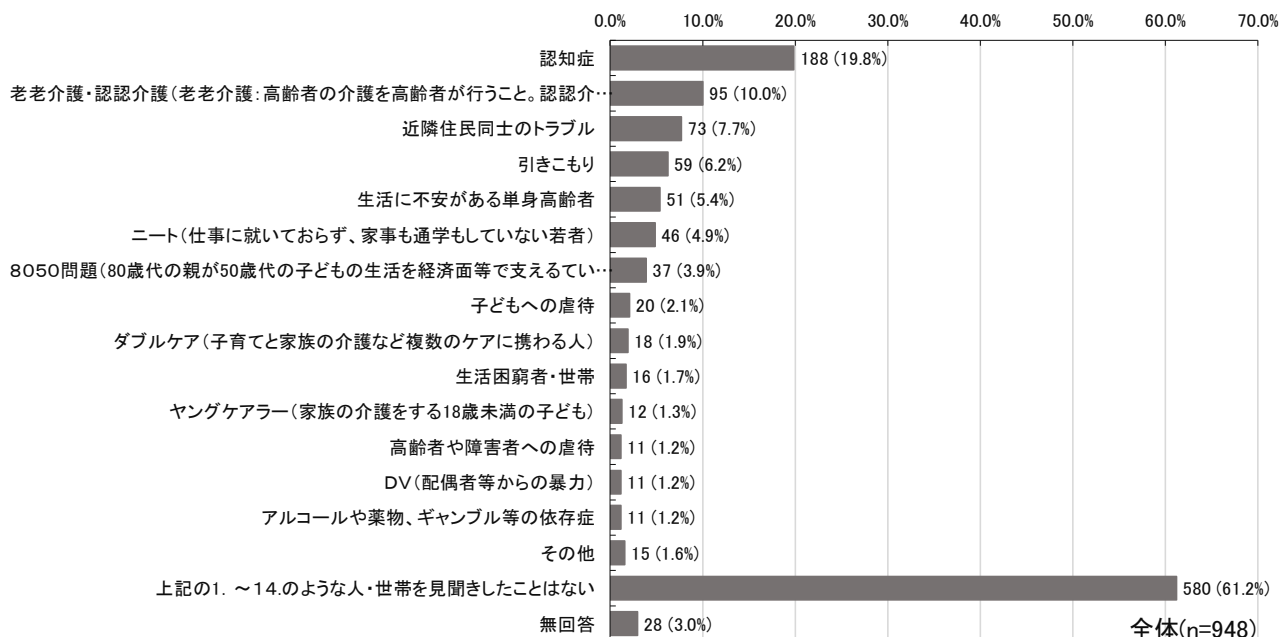
要点

「8050問題」や「虐待」、「ダブルケア」、「生活困窮者・世帯」、「ヤングケアラー」、「DV」、「アルコールや薬物、ギャンブル等の依存症」などの深刻な地域生活課題を抱える人・世帯も少割合ながらご近所で見聞きされています。

全体

- 「上記の1.~14.のような人・世帯を見聞きしたことはない」が61.2%と多くを占めています。これと「無回答」(3.0%)を除いた残りの35.8%の人は、1.~14.の何らかの地域生活課題を抱えた人・世帯を“見聞きしたことがある”と回答しています。
- どのような地域生活課題を抱えた・世帯をご近所で見聞きしているかについては、「認知症」が19.8%と最も多くなっています。
- 次いで、「老老介護・認認介護(老老介護:高齢者の介護を高齢者が行うこと。認認介護:認知症のある高齢の方の介護を認知症のある高齢の家族が行うこと)」(10.0%)、「近隣住民同士のトラブル」(7.7%)、「引きこもり」(6.2%)、「生活に不安がある単身高齢者」(5.4%)の順になっています。
- 割合こそ少ないものの、「ニート」(4.9%)や「8050問題」(3.9%)、「子どもへの虐待」(2.1%)、「ダブルケア」(1.9%)、「生活困窮者・世帯」(1.7%)、「ヤングケアラー」(1.3%)、「高齢者や障害者への虐待」、「DV」、「アルコールや薬物、ギャンブル等の依存症」(同率1.2%)といった課題を抱えている人・世帯を見聞きした人は、実人数に置き換えるとかかなりの数にのぼるものと考えられます。

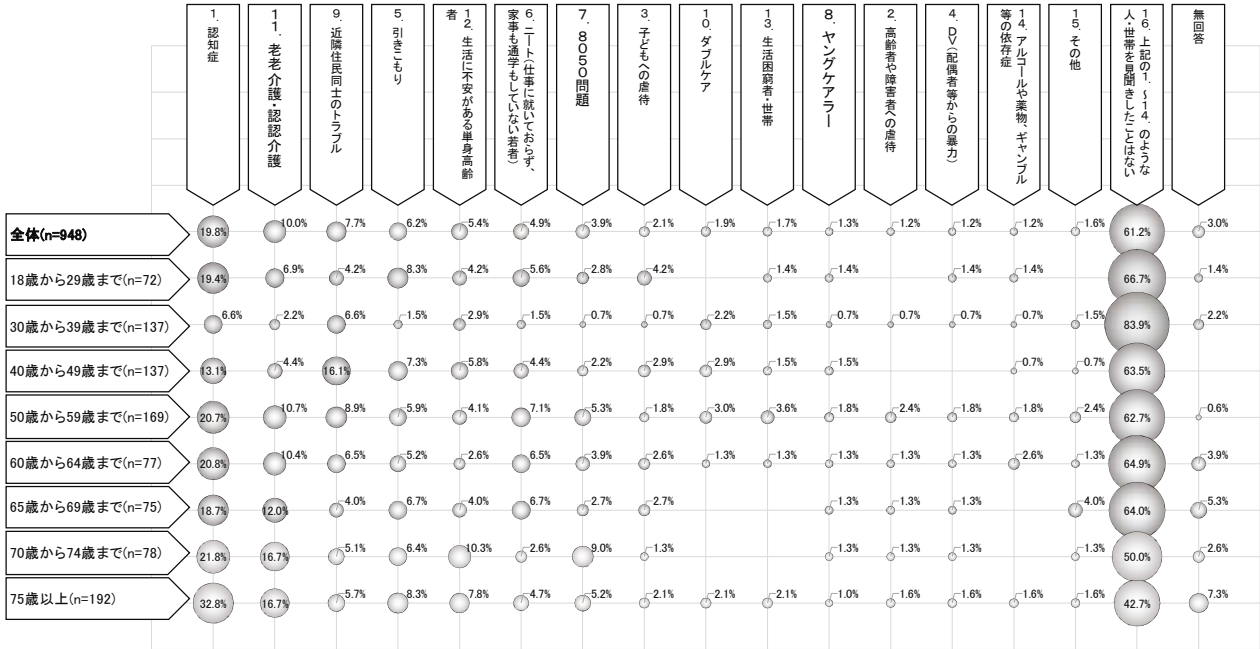
図3-1-1 「ご近所で見聞きしたことがある地域生活課題を抱えた人・世帯」



年齢別

- 40歳から49歳までの年齢層では、「近隣住民同士のトラブル」の割合が16.1%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「認知症」については、75歳以上の年齢層で、また、「老老介護・認認介護」については、70歳以上の年齢層で多くなっています。

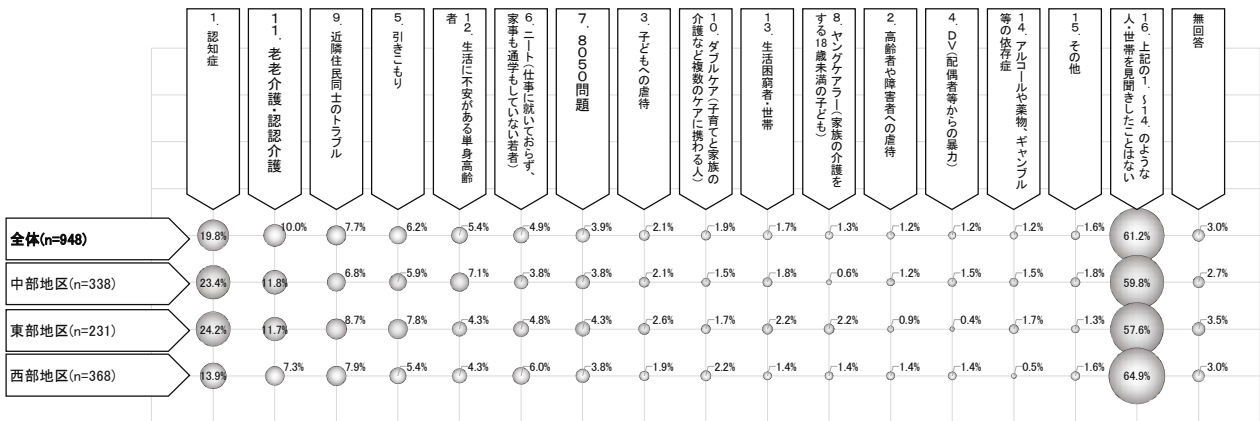
図3-1-2 年齢別「ご近所で見聞きしたことがある地域生活課題を抱えた人・世帯」



居住地区別

- 西部地区では、「認知症」の割合が他の地区に比べて低くなっていますが、全般的に居住地区による大きな違いはみられません。

図3-1-3 居住地区別「ご近所で見聞きしたことがある地域生活課題を抱えた人・世帯」



## (2) 地域で困っている世帯に対しての手助け経験の有無(問15)

問15

地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯に対して次のような手助けした経験はありますか。【あてはまるものすべてに○】

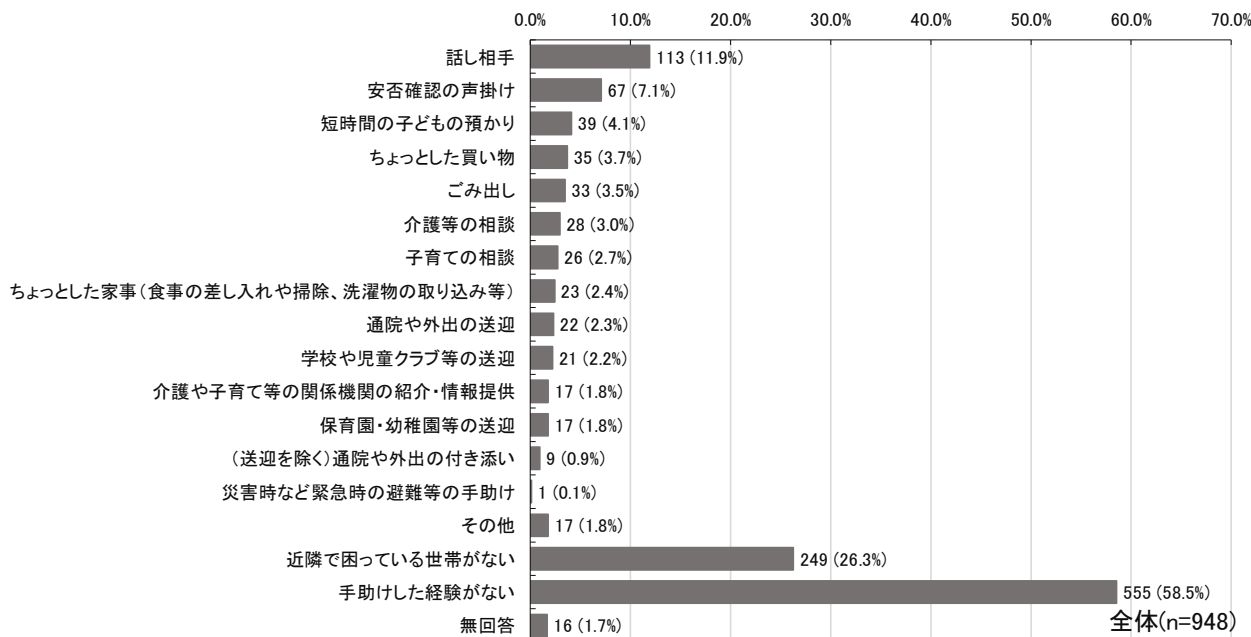
要点

何らかの手助けをした経験がある人は13.5%で、「話し相手(11.9%)や「安否確認の声掛け」(7.1%)などをはじめ、実人数に置き換えてみればかなりの人数の人が困っている世帯に対して多様な手助けをしている様子が見えます。

全体

- 「手助けした経験がない」という人が58.5%と最も多く、次いで「近隣で困っている世帯がない」が26.3%となっています。この2項目と「無回答」の1.7%を除いた残りの13.5%の人が何らかの手助けをした経験があります。
- 「話し相手」が11.9%と最も多く、次いで「安否確認の声掛け」(7.1%)、「短時間の子どもの預かり」(4.1%)、「ちょっとした買い物」(3.7%)、「ごみ出し」(3.5%)、「介護等の相談」(3.0%)、「子育ての相談」(2.7%)、「ちょっとした家事(食事の差し入れや掃除、洗濯物の取り込み等)」(2.4%)、「通院や外出の送迎」(2.3%)、「学校や児童クラブ等の送迎」(2.2%)といったの順になっています。
- 経験した人の割合こそ低いですが、実人数に置き換えてみればかなりの人数の人が困っている世帯に対して多様な手助けをしている様子が見えます。

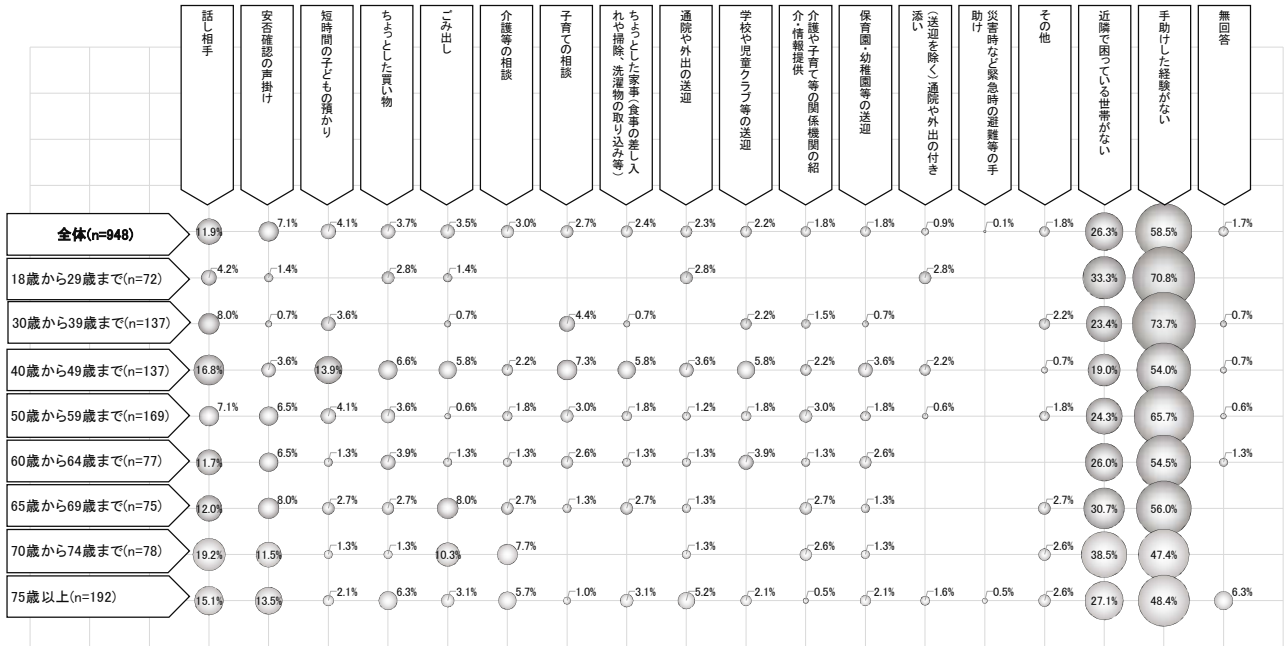
図3-2-1 「地域で困っている世帯に対して手助け経験の有無」



年齢別

- 全ての年齢で、「話し相手」が最も多くなっています。
- 40歳から49歳までの年齢層では、「短時間の子どもの預かり」や「子育ての相談」が他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「安否確認の声掛け」は、年齢層が高くなるほどその割合が概ね高くなっていく傾向がみられます。
- 「ごみ出し」の割合は、75歳以上を除く年齢層で若干高くなっています。

図3-2-2 年齢別「地域で困っている世帯に対して手助け経験の有無」



### (3) 地域で困っている世帯に対して今後(今後とも)できる手助け(問16)

問16

地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、今後(今後とも)、あなたにできる手助けは何ですか。【あてはまるものすべてに○】

要点

今後(今後とも)できる手助けのうち、「安否確認の声掛け」が48.9%と最も多く、次いで、「話し相手」(37.3%)が多くなっています。「その他」を除く、14項目すべてが、「今後」の割合の方が「経験」の割合を上回っています。中でも「安否確認の声掛け」については、「今後」の割合が「経験」の割合を41.8ポイントも上回っています。

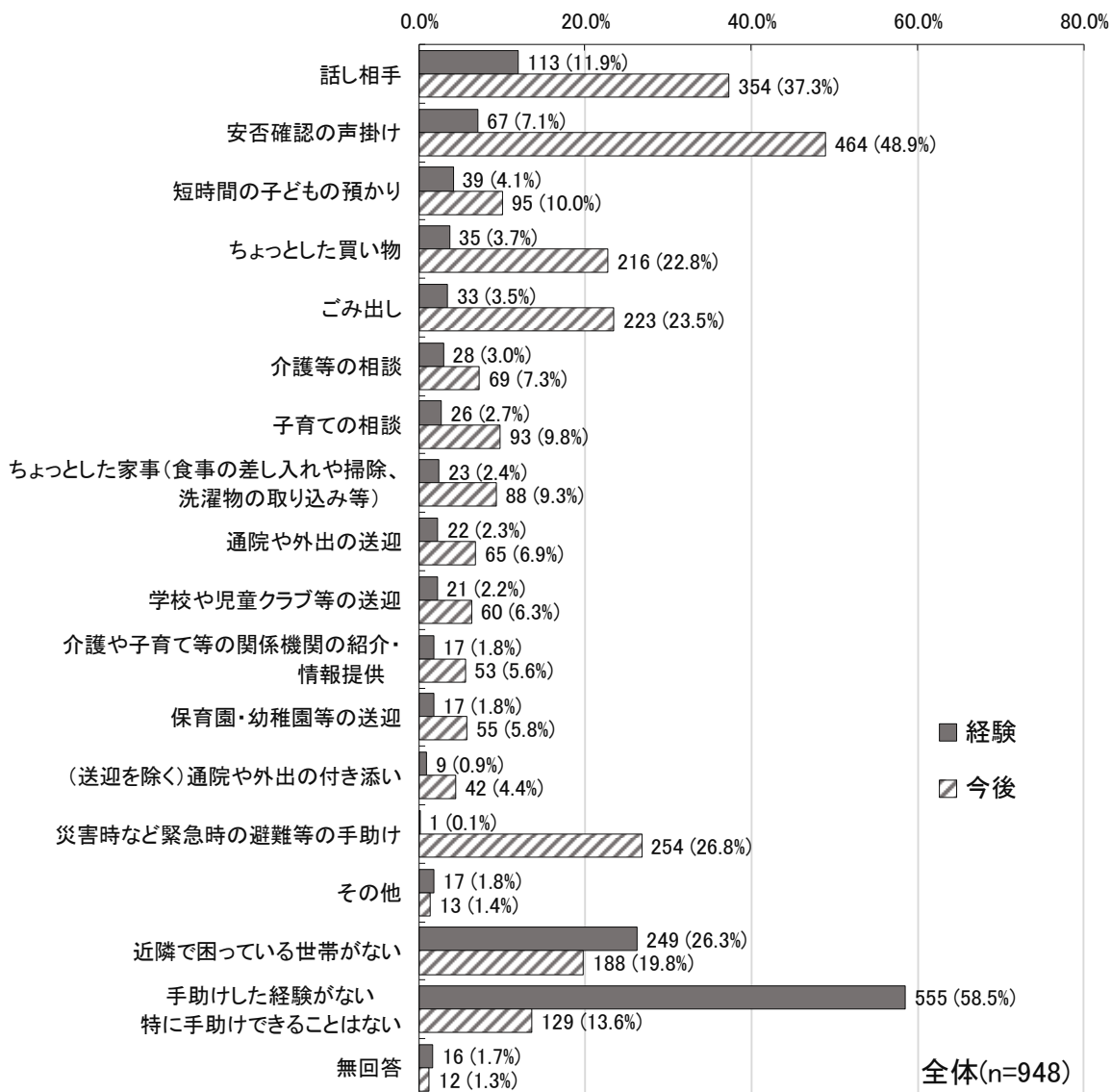
全体

○「特に手助けできることはない」という人(13.6%)、「近隣で困っている世帯がない」(19.8%)、「無回答」(1.3%)を除いた残りの65.3%の人が何らかの手助けができると回答しています。  
○具体的には、「安否確認の声掛け」が48.9%と最も多く、次いで、「話し相手」(37.3%)、「災害時など緊急時の避難等の手助け」(26.8%)、「ごみ出し」(23.5%)、「ちょっとした買い物」(22.8%)の順になっています。

経験  
の  
比  
と  
今  
後

○「その他」を除く、14項目すべてが、「今後」の割合の方が「経験」の割合を上回っています。  
○中でも、「安否確認の声掛け」については、「今後」の割合が「経験」の割合を41.8ポイントも上回っており、ポテンシャルの高い取組であるといえます。  
○同様に「災害時など緊急時の避難等の手助け」、「話し相手」、「ごみ出し」についてはそれぞれ、26.7ポイント、25.4ポイント、20.0ポイントも上回っています。

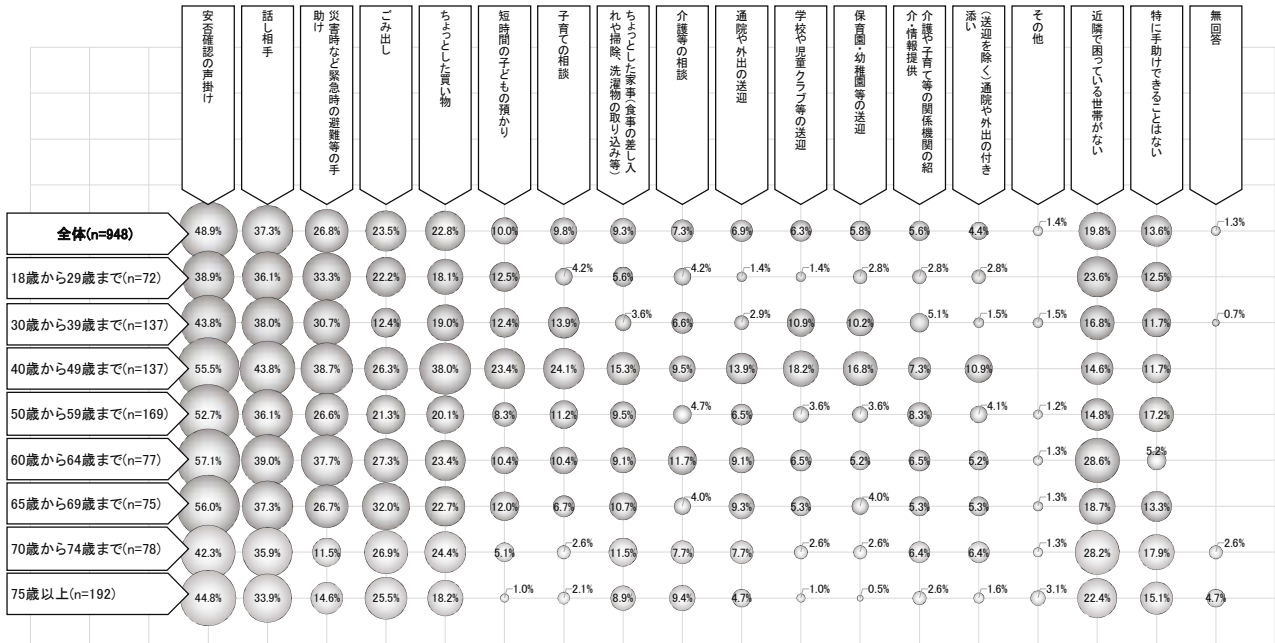
図3-3-1 「地域で困っている世帯に対してできること」今後と経験の比較



年齢別

○どの年齢層においても、「安否確認お声かけ」の割合が1番多くなっています。  
 ○40歳から49歳までの年齢層では、「短時間の子どもの預かり」(23.4%)や「子育ての相談」(24.1%)に加え、「ちょっとした買い物」(36.0%)「ちょっとした家事(食事の差し入れや掃除、洗濯物の取り込み等)」(15.3%)など、すべての項目が全体平均を上回っており、今後の手助けのボリューム層になっていることが特徴としてみられます。

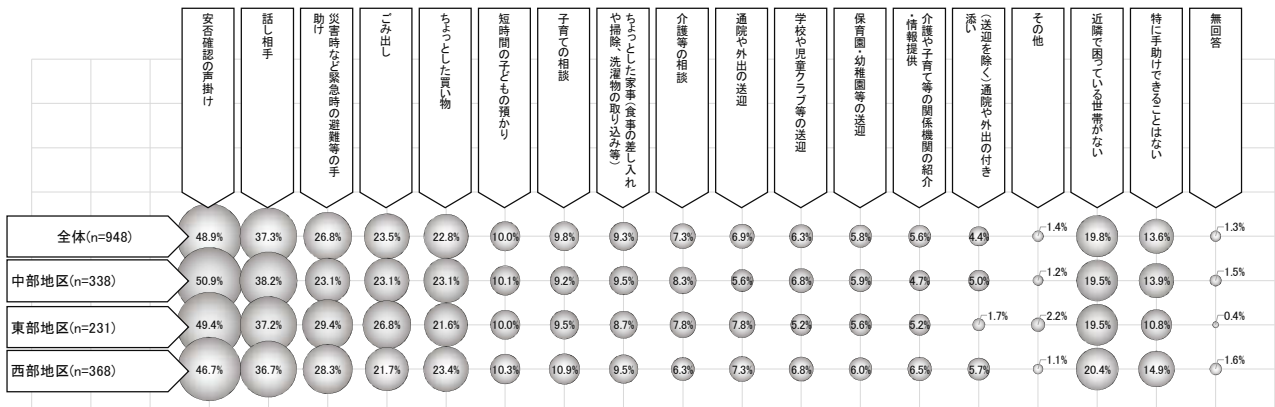
図3-3-2 年齢別「地域で困っている世帯に対してできること」



居住地区別

○居住地区による違いはみられません。

図3-3-3 居住地区別「地域で困っている世帯に対してできること」



#### (4) 地域の人たちに手助けしてほしい手助け(問17)

**問17** あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。【あてはまるものすべてに○】

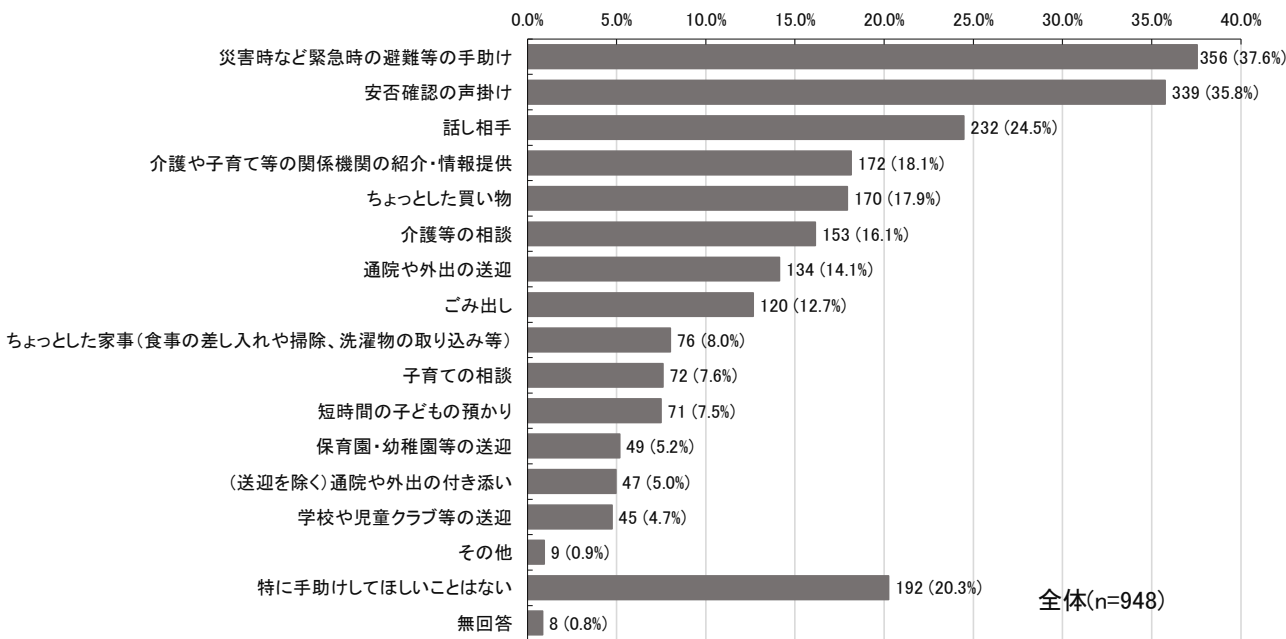
**要点**

困った時に地域の人たちに手助けしてほしい手助けについては、「災害時など緊急時の避難等の手助け」が37.6%と最も多く、次いで、「安否確認の声掛け」(35.8%)、「話し相手」(24.5%)が多くなっています。「介護や子育て等の関係機関の紹介・情報提供」や「災害時など緊急時の避難等の手助け」については、“地域で困っている世帯に対して今後(今後とも)できる手助け”の割合と“困った時に地域の人たちに手助けしてほしい手助け”の割合とで10ポイント以上の差があります。

**全体**

○困った時に地域の人たちに手助けしてほしい手助けについて尋ねたところ、「特に手助けしてほしいことはない」が20.3%を占め、これと「無回答」(0.8%)を除いた、残りの78.9%の人が困った時に何らかの手助けをしてほしいと回答しています。  
 ○具体的には、「災害時など緊急時の避難等の手助け」が37.6%と最も多く、次いで、「安否確認の声掛け」(35.8%)、「話し相手」(24.5%)、「介護や子育て等の関係機関の紹介・情報提供」(18.1%)、「ちょっとした買い物」(17.9%)、「介護等の相談」(16.1%)、「通院や外出の送迎」(14.1%)、「ごみ出し」(12.7%)の順になっています。

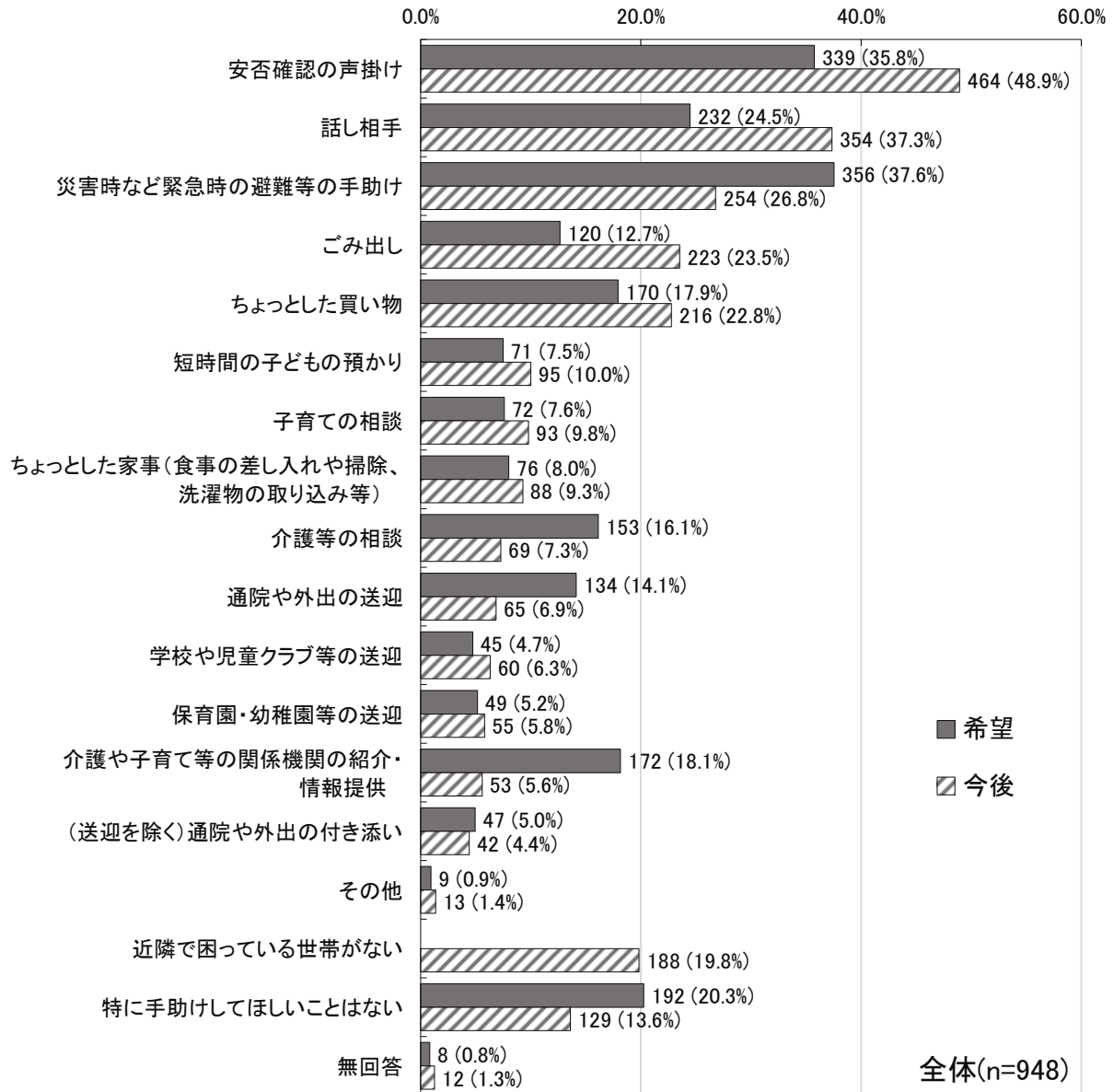
図3-4-1 「困った時に地域の人たちに手助けしてほしいこと」



希望と今後の比較

- 「災害時など緊急時の避難等の手助け」、「介護等の相談」、「通院や外出の送迎」、「介護や子育て等の関係機関の紹介・情報提供」、「(送迎を除く)通院や外出の付き添い」の5項目については、“地域で困っている世帯に対して今後(今後とも)できる手助け”の割合が、“困った時に地域の人たちに手助けしてほしい手助け”の割合を下回っています。
- これらのうち、特に「介護や子育て等の関係機関の紹介・情報提供」と「災害時など緊急時の避難等の手助け」の割合の差がそれぞれ、12.5ポイント、10.8ポイントと比較的大きくなっています。

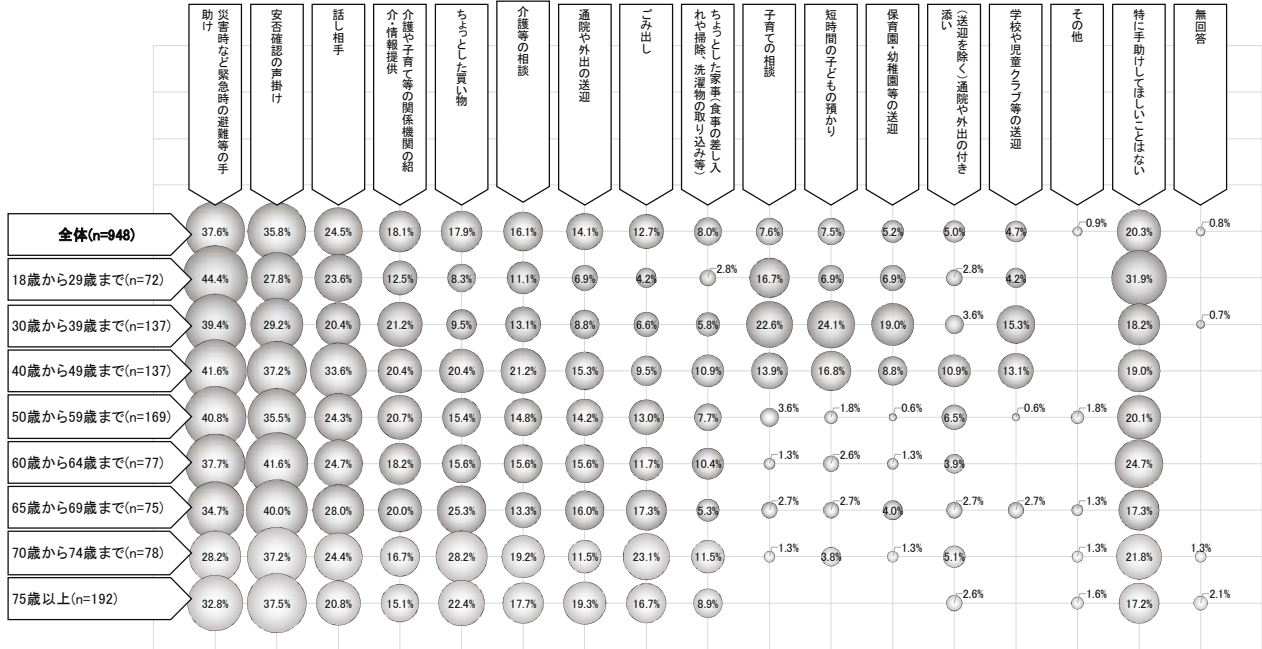
図3-4-2 「困った時に地域の人たちに手助けしてほしいこと」希望と今後の比較



年齢別

○59歳以下の年齢層では、「災害時など緊急時の避難等の手助け」の割合が1番になっていますが、60歳以上の年齢層では、「安否確認の声掛け」が1番になっています。  
 ○また、「ちょっとした買い物」や「ごみ出し」については、70歳から74歳までの年齢層では、それぞれ、28.2%、23.1%で全体平均に比べ多くなっていることが特徴としてみられます。

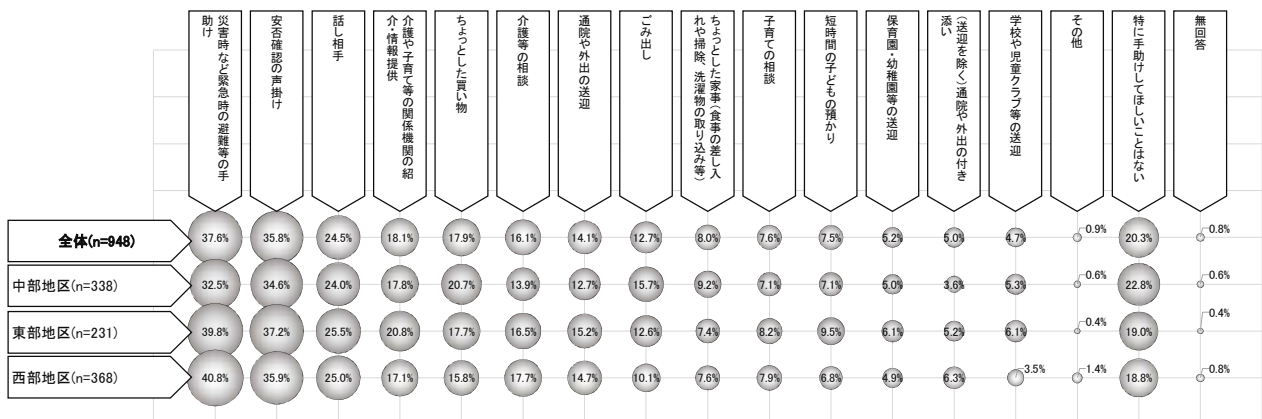
図3-4-3 年齢別「困った時に地域の人たちに手助けしてほしいこと」



居住地区別

○居住地区による有意な違いはみられません。

図3-4-4 居住地区別「困った時に地域の人たちに手助けしてほしいこと」



## 4. 地域福祉活動・ボランティア活動と高齢期の過ごし方について

### (1) 地域福祉活動等への関わり(問18)

問18

現在、あなたは、次の(ア)～(ス)のような地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に関わっていますか。また、今後関わっていきたいですか。(ア)～(ス)の項目それぞれについて、1～6の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

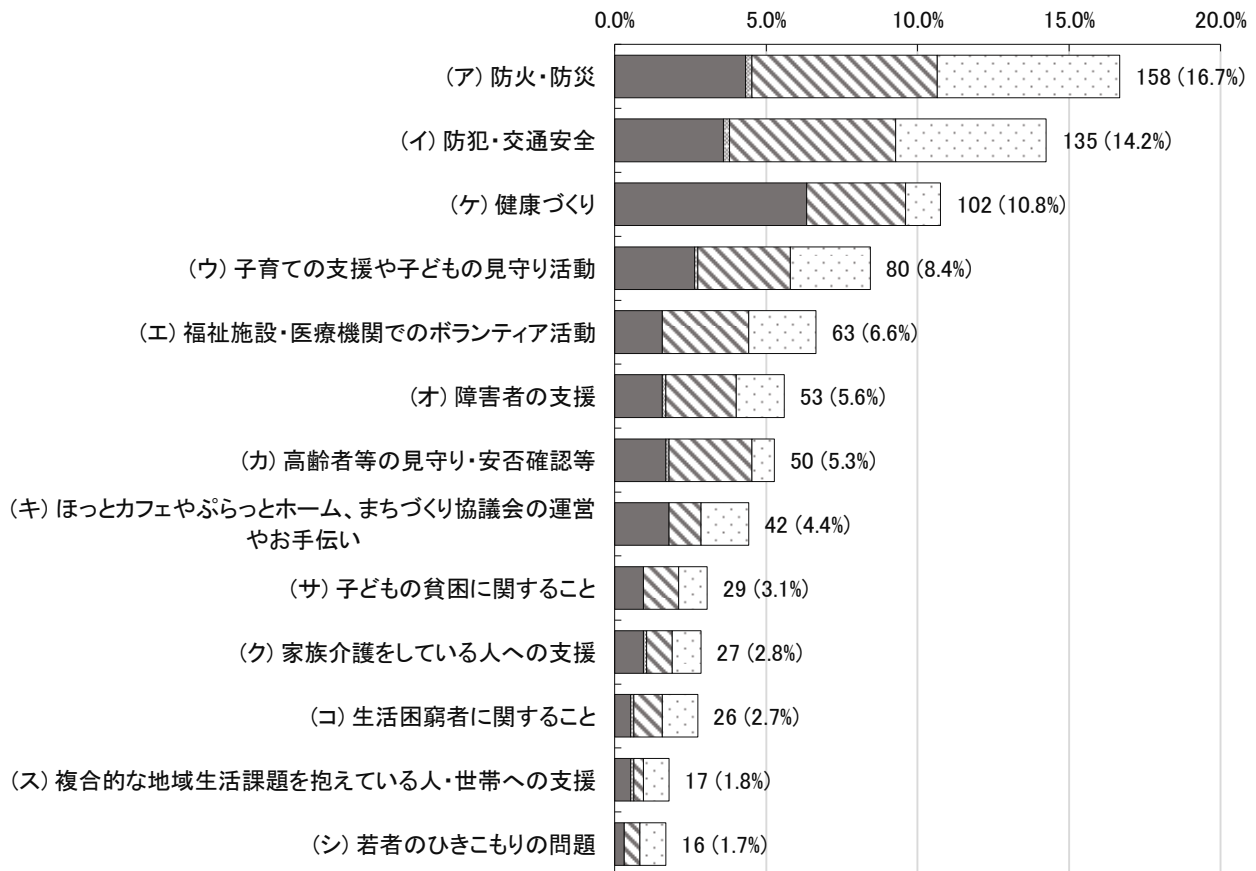
要点

現在参加している・これまで参加したことがある活動については、「(ア)防火・防災」が16.7%と最も多くなっています。いずれの活動も、“現在参加している・これまで参加したことがある”割合よりも“今後も参加し続けたい・今後は関わってみたい”という割合の方が高くなっています。中でも、「(ケ)健康づくり」が4.1.6ポイントも差があり、参加のポテンシャルが1番高い活動になっています。

全体(現在)

○現在参加している・これまで参加したことがある活動については、「(ア)防火・防災」が16.7%と最も多く、次いで、「(イ)防犯・交通安全」(14.2%)、「(ケ)健康づくり」(10.8%)が多くなっています。  
○この3項目以外は、「(ウ)子育ての支援や子どもの見守り活動」(8.4%)、「(エ)福祉施設・医療機関でのボランティア活動」(6.6%)、「(オ)障害者の支援」(5.6%)、「(カ)高齢者等の見守り・安否確認等」(5.3%)など、いずれも1割未満となっています。「(ス)複合的な地域生活課題を抱えている人・世帯への支援」にも1.8%の人が取り組んでいる・取り組んだことがあります。

図4-1-1 「地域福祉活動等への関わり」(経験)



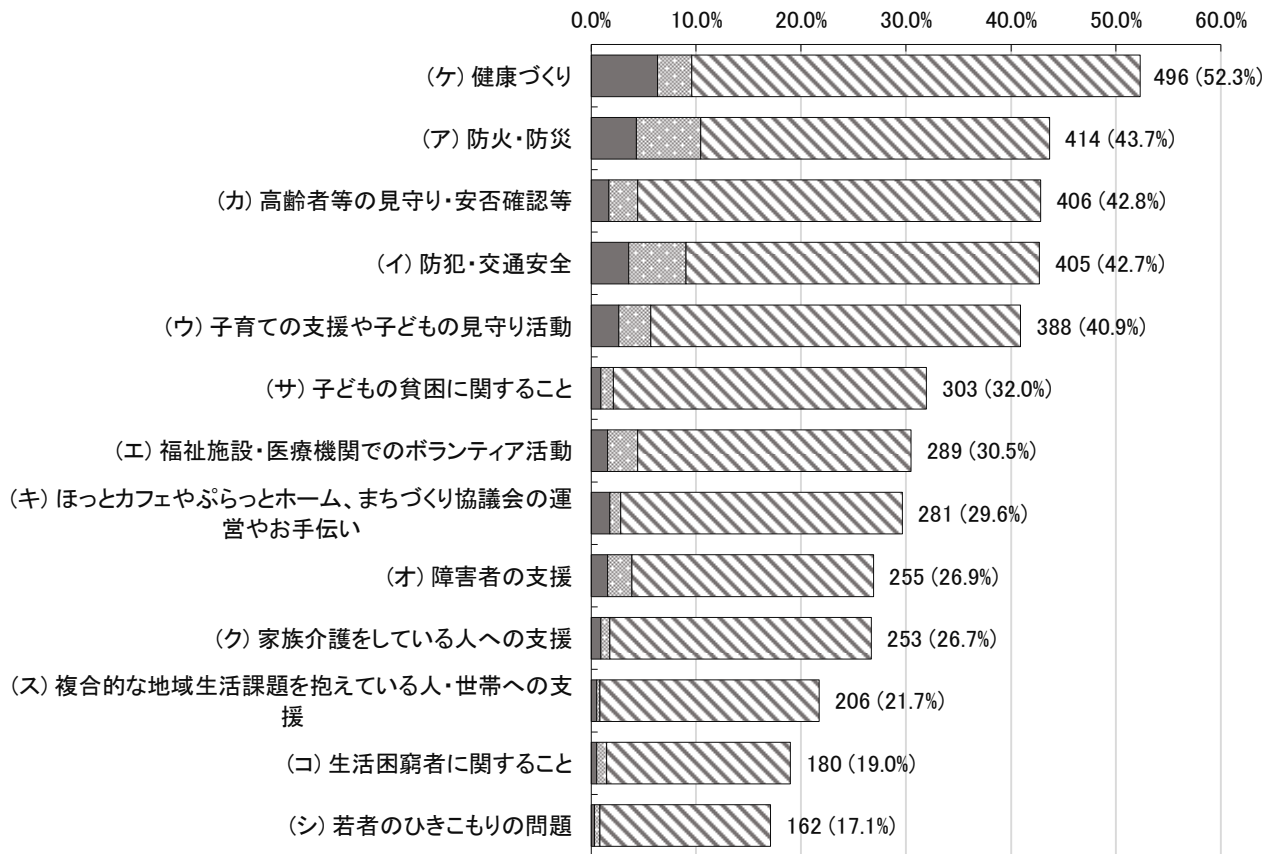
- 現在参加しており、今後も続けていきたい
- ▨ 現在参加しているが、今後はやめたい
- ▩ これまで参加したことがあるが今はやめており、今後また関わってみたい
- これまで参加したことがあるが今はやめており、今後も関わるつもりはない

全体(今後)

○今後も参加し続けたい・今後は関わってみたい活動については、「(ケ)健康づくり」が52.3%と最も多く、次いで、「(ア)防火・防災」(43.7%)、「(カ)高齢者等の見守り・安否確認等」(42.8%)、「(イ)防犯・交通安全」(42.7%)、「(ウ)子育ての支援や子どもの見守り活動」(40.9%)、「(サ)子どもの貧困に関すること」(32.0%)、「(エ)福祉施設・医療機関でのボランティア活動」(30.5%)の順になっています。

○1番割合の低い「(シ)若者のひきこもりの問題」でも17.1%の人が今後も参加していきたい・今後は参加してみたいと回答しています。

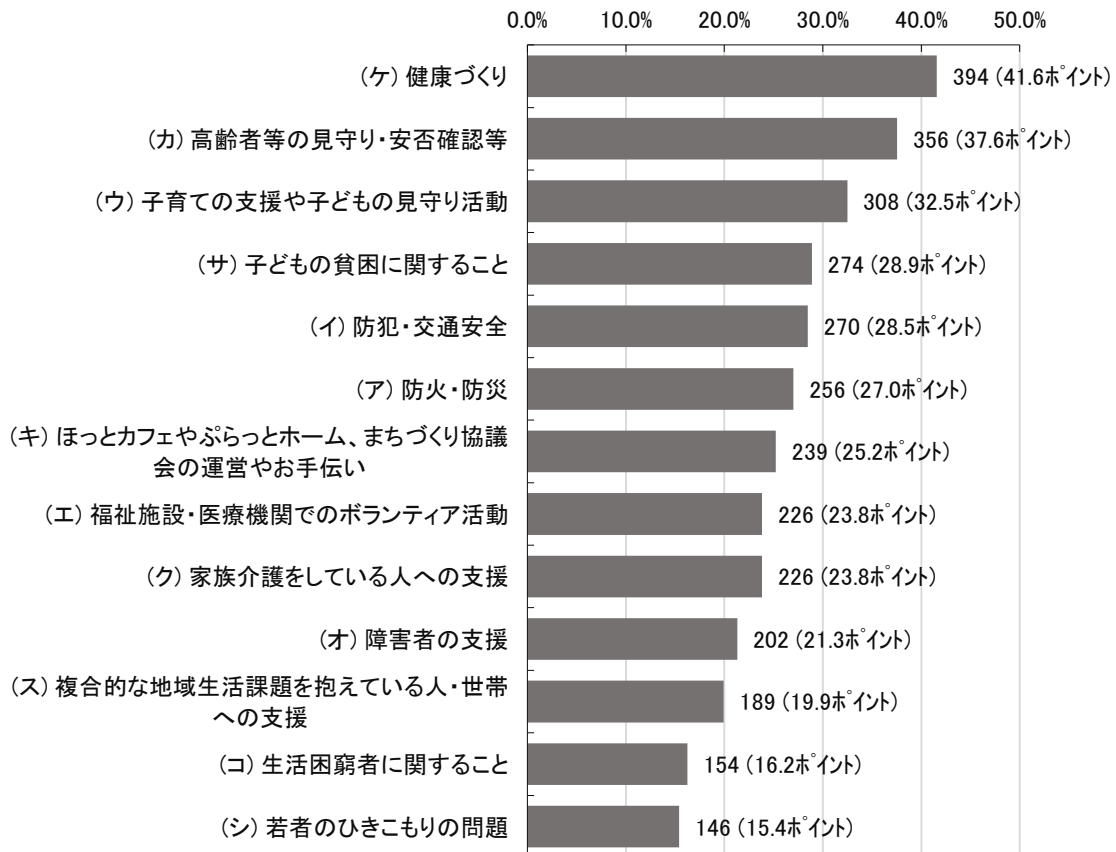
図4-1-2 「地域福祉活動等への関わり」(今後)



- 現在参加しており、今後も続けていきたい
- ▨ これまで参加したことがあるが今はやめており、今後また関わってみたい
- これまで参加したことはないが、今後は関わってみたい

- いずれの活動項目も、“現在参加している・これまで参加したことがある”割合よりも“今後も参加し続けたい・今後は関わってみたい”という割合の方が高くなっています。
- 特に、「(ケ)健康づくり」が41.6ポイントと最も差が大きく、参加のポテンシャルが一番高い活動になっています。
- 次いで、「(カ)高齢者等の見守り・安否確認等」(37.6ポイント)、「(ウ)子育ての支援や子どもの見守り活動」(32.5ポイント)、「(サ)子どもの貧困に関すること」(28.9ポイント)、「(イ)防犯・交通安全」(28.5ポイント)の順になっています。

図4-1-3 「地域福祉活動等への関わり」(経験と今後との差)



## (2) 地域福祉活動等の活動をして得たもの・自分のためになったこと(問19)

問19

問18の(ア)～(ス)のような地域福祉活動等の活動をして得たものや自分のためになったことはありますか。【あてはまるものすべてに○】

要点

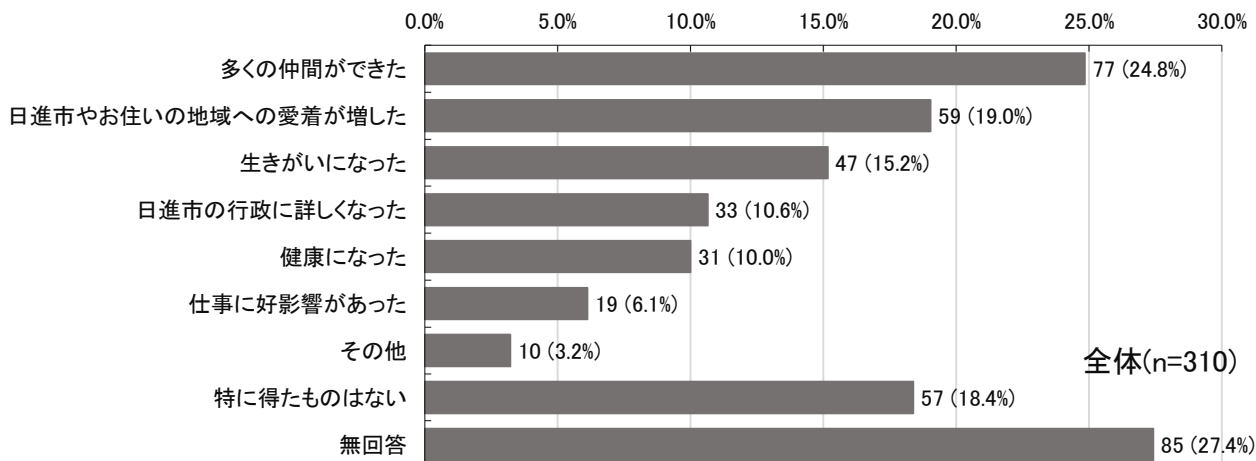
「多くの仲間ができた」が24.8%と最も多く、次いで、「日進市やお住いの地域への愛着が増した」(19.0%)、「生きがいになった」(15.2%)となっています。

全体

○問18で何らかの地域福祉活動等の活動をした経験のある人に対して活動を通じて得たもの等について尋ねたところ、「特に得たものはない」(18.4%)と「無回答」(27.4%)を除いた54.2%の人が何らか得たものやためになったことがあると回答しています。

○具体的には、「多くの仲間ができた」が24.8%と最も多く、次いで、「日進市やお住いの地域への愛着が増した」(19.0%)、「生きがいになった」(15.2%)、「日進市の行政に詳しくなった」(10.6%)、「健康になった」(10.0%)、「仕事に好影響があった」(6.1%)の順となっています。

図4-2-1 「地域福祉活動等の活動をして得たもの・自分のためになったこと」



### (3) 定年退職後などの高齢期の過ごし方意向(問20)

**問20** あなたは、定年退職後などの高齢期を主にどのように過ごしたいとお考えですか。  
【〇は3つまで】※既に高齢期を迎えておられる方もご回答ください。

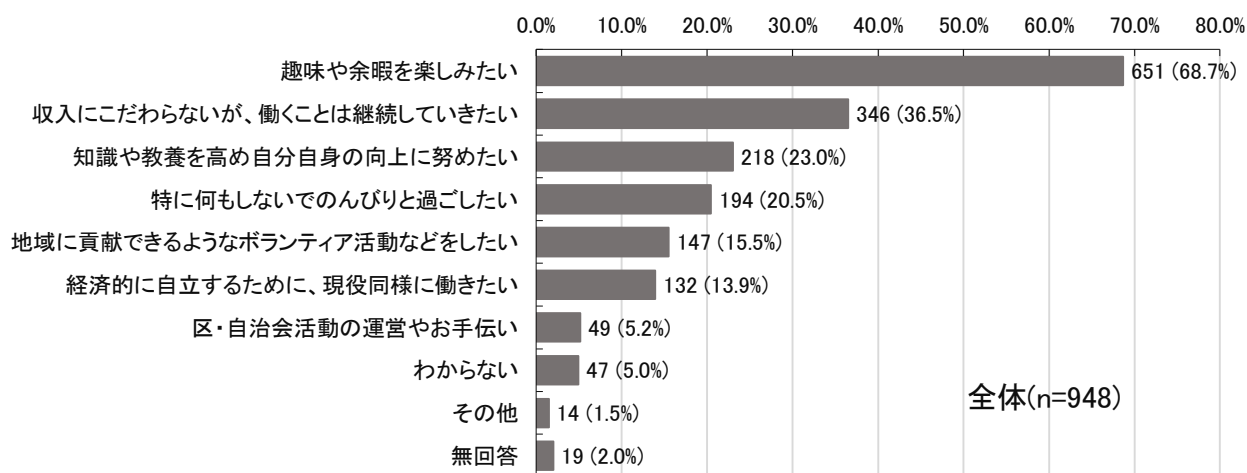
**要点**

「趣味や余暇を楽しみたい」が68.7%と最も多く、次いで、「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」(36.5%)となっています。「地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい」(15.5%)となっています。「区・自治会活動の運営やお手伝い」は、5.2%と最も少ない割合になっています。

**全体**

○「趣味や余暇を楽しみたい」が68.7%と最も多くなっています。次いで、「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」(36.5%)、「知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい」(23.0%)、「特に何もしないでのんびりと過ごしたい」(20.5%)の順になっています。  
○「地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい」の割合については15.5%、「区・自治会活動の運営やお手伝い」の割合については、5.2%と最も低くなっています。

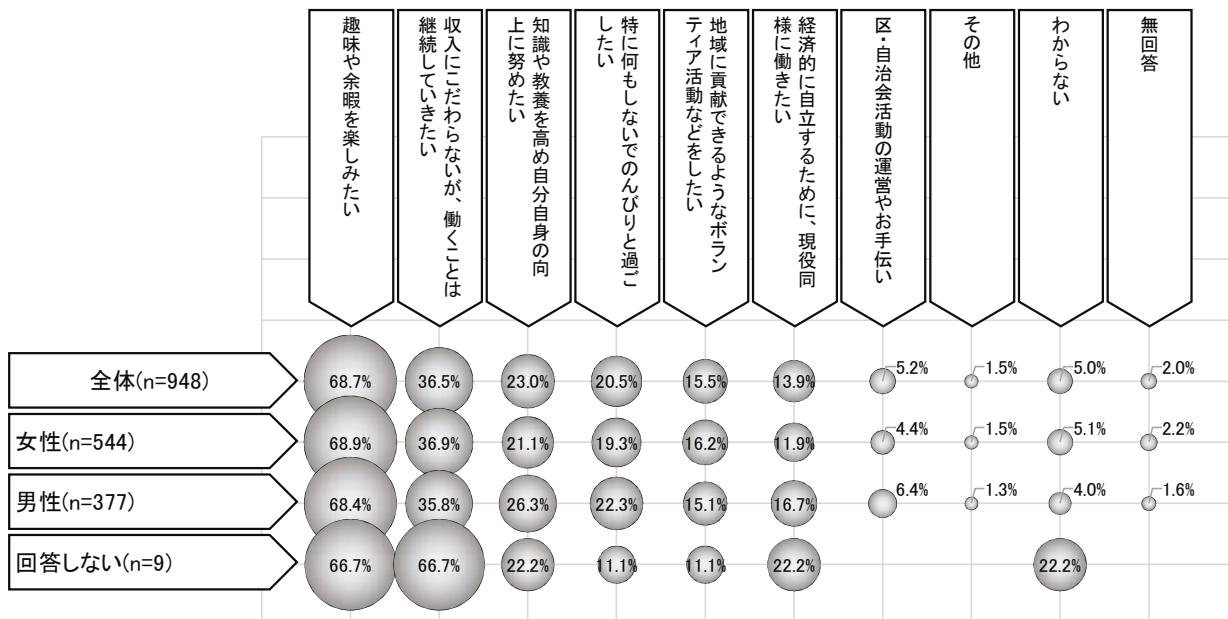
図4-3-1 「定年退職後などの高齢期の過ごし方意向」



**性別**

○性別によるの有意な違いはみられません。

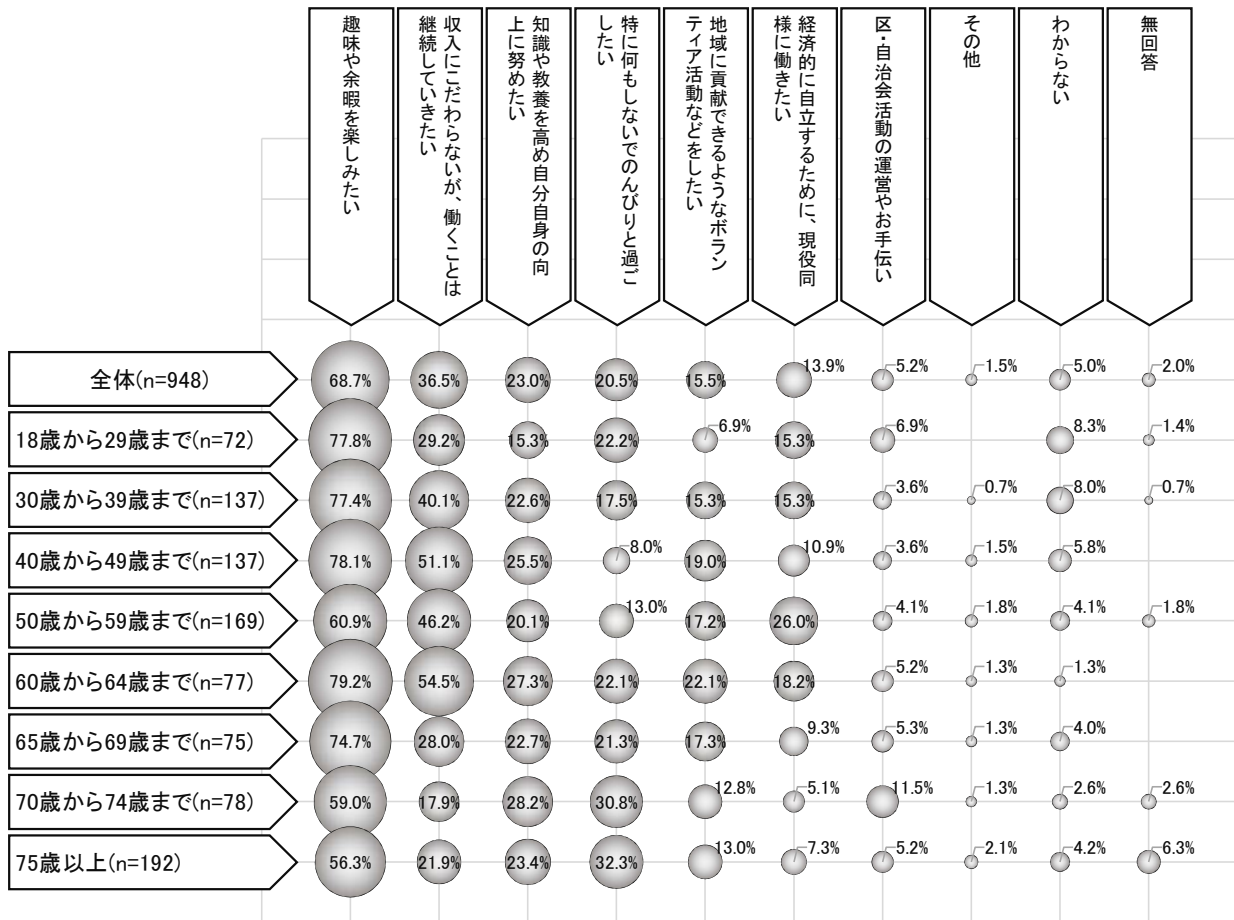
図4-3-2 性別「定年退職後などの高齢期の過ごし方意向」



年齢別

- 70歳以上の年齢層では、「趣味や余暇を楽しみたい」という回答が大幅に減ります。また、「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」についても、60歳から64歳までの年齢層で54.5%と最も多く、65歳以上の年齢層では回答割合が大幅に減少する傾向がみられます。
- その分、「特に何もしないでのんびりと過ごしたい」の割合が多くなっています。
- 「地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい」の割合については、60歳から64歳までの年齢層で22.1%と他の年齢層に比べて若干多くなっていますが、「趣味や余暇を楽しみたい」(79.2%)、「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」(54.5%)よりも小さな割合にとどまっています。
- また、「区・自治会活動の運営やお手伝い」については、1番割合の高い70歳から74歳までの年齢層であっても11.5%となっています。

図4-3-3 年齢別「定年退職後などの高齢期の過ごし方意向」



## 5. 福祉に関する情報について

### (1) 福祉に関して知りたい情報(問21)

問21 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。【あてはまるものすべてに○】

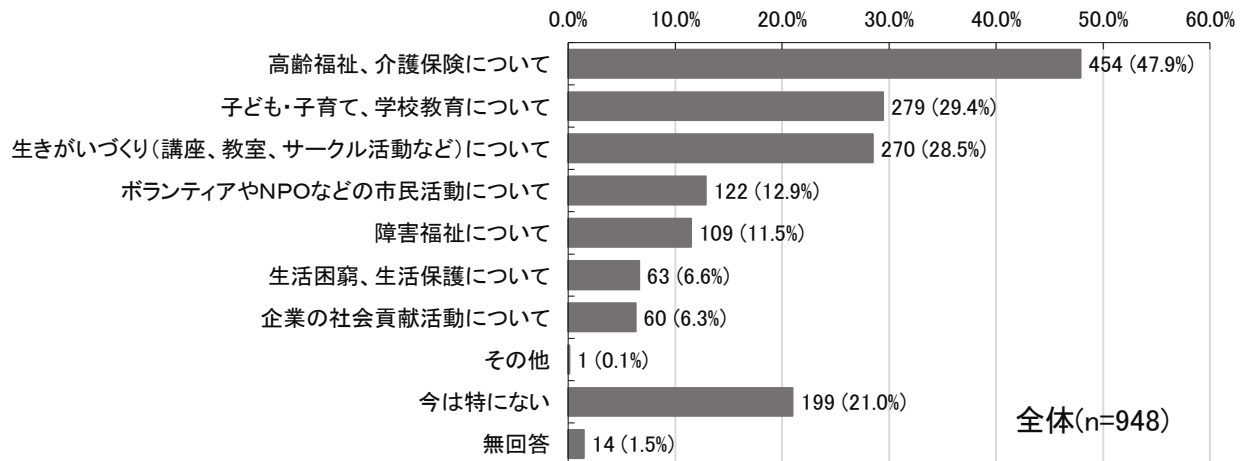
要点

「高齢福祉、介護保険について」の情報が47.9%と最も多く、次いで、「子ども・子育て、学校教育について」(29.4%)、「生きがいづくり(講座、教室、サークル活動など)について」(28.5%)が上位を占めています。

全体

○福祉に関して知りたい情報について「今は特にない」(12.0%)と「無回答」(1.5%)を除いた77.5%の人が何らかの福祉に関する情報を知りたいと回答しています。  
 ○具体的には、「高齢福祉、介護保険について」が47.9%と最も多く、次いで、「子ども・子育て、学校教育について」(29.4%)、「生きがいづくり(講座、教室、サークル活動など)について」(28.5%)と、中高年者向けの情報や子どもに関わる情報が上位を占めています。  
 ○これらに次いで「ボランティアやNPOなどの市民活動について」(12.9%)、「障害福祉について」(11.5%)、「生活困窮、生活保護について」(6.6%)、「企業の社会貢献活動について」(6.3%)の順となっています。

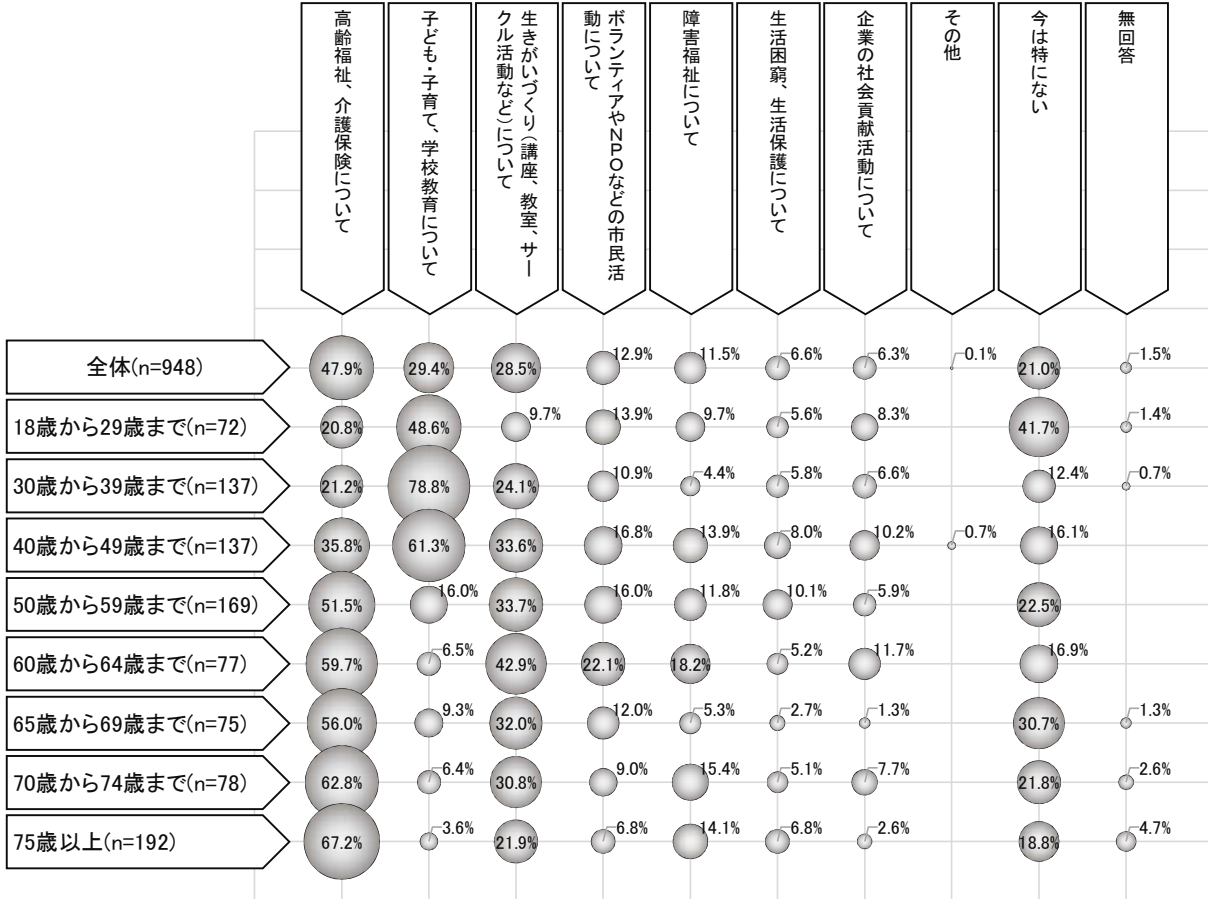
図5-1-1 「福祉に関して知りたい情報」



年齢別

- 「高齢福祉、介護保険について」の情報は、年齢が高くなるにつれて概ね割合が高まっていく傾向がみられます。
- 「子ども・子育て、学校教育について」の情報は、30歳から39歳までの年齢層をはじめとした49歳までの年齢層における割合が高くなっています。
- 「生きがいづくり(講座、教室、サークル活動など)について」の情報は、60歳から64歳までの年齢層における割合が高くなっています。

図5-1-2 年齢別「福祉に関して知りたい情報」



## (2) 福祉に関する情報入手の程度 (問22)

問22

あなたは、問21の1.~7.のような福祉に関する情報について、どの程度情報を得ることができますか。【○は1つだけ】

要点

「あまり情報を得ることができていない」と「全く情報を得ることができていない」を合わせた“情報を得られていない”という人は、53.9%となっています。『介護・介助を必要とする方』のいる家庭や『障害のある方』のいる家庭で、“情報を得られていない”という人の割合はそれぞれ、40.4%、52.8%となっています。

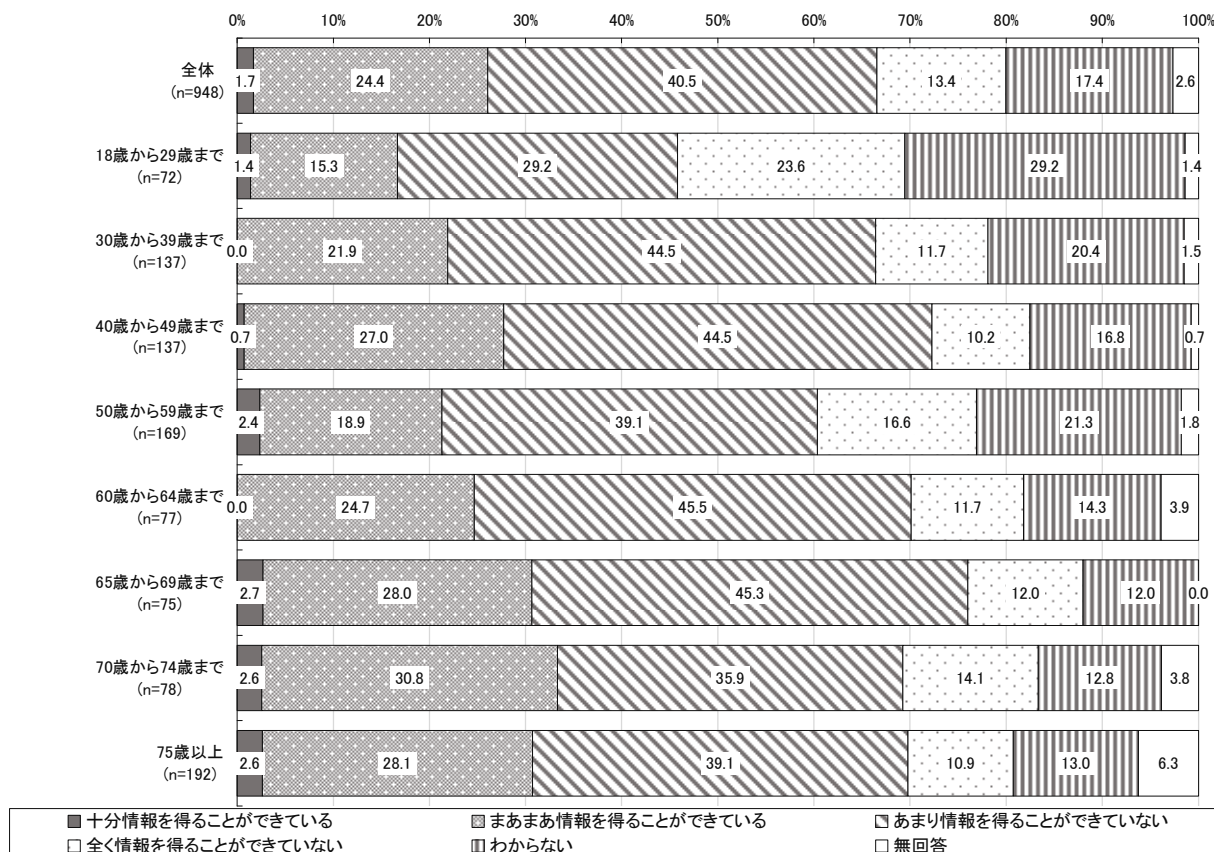
全体

○「あまり情報を得ることができていない」が40.5%と最も多く、「全く情報を得ることができていない」も13.4%となっています。この2つを合わせた“情報を得られていない”は53.9%となっています。  
○これに対して、「十分情報を得ることができている」(1.7%)と「まあまあ情報を得ることができている」(24.4%)を合わせた“情報が得られている”は26.1%で、“情報を得られていない”よりも27.8ポイントも下回っています。

年齢別

○“情報を得られていない”という人は、すべての年齢層において5割以上を占めています。

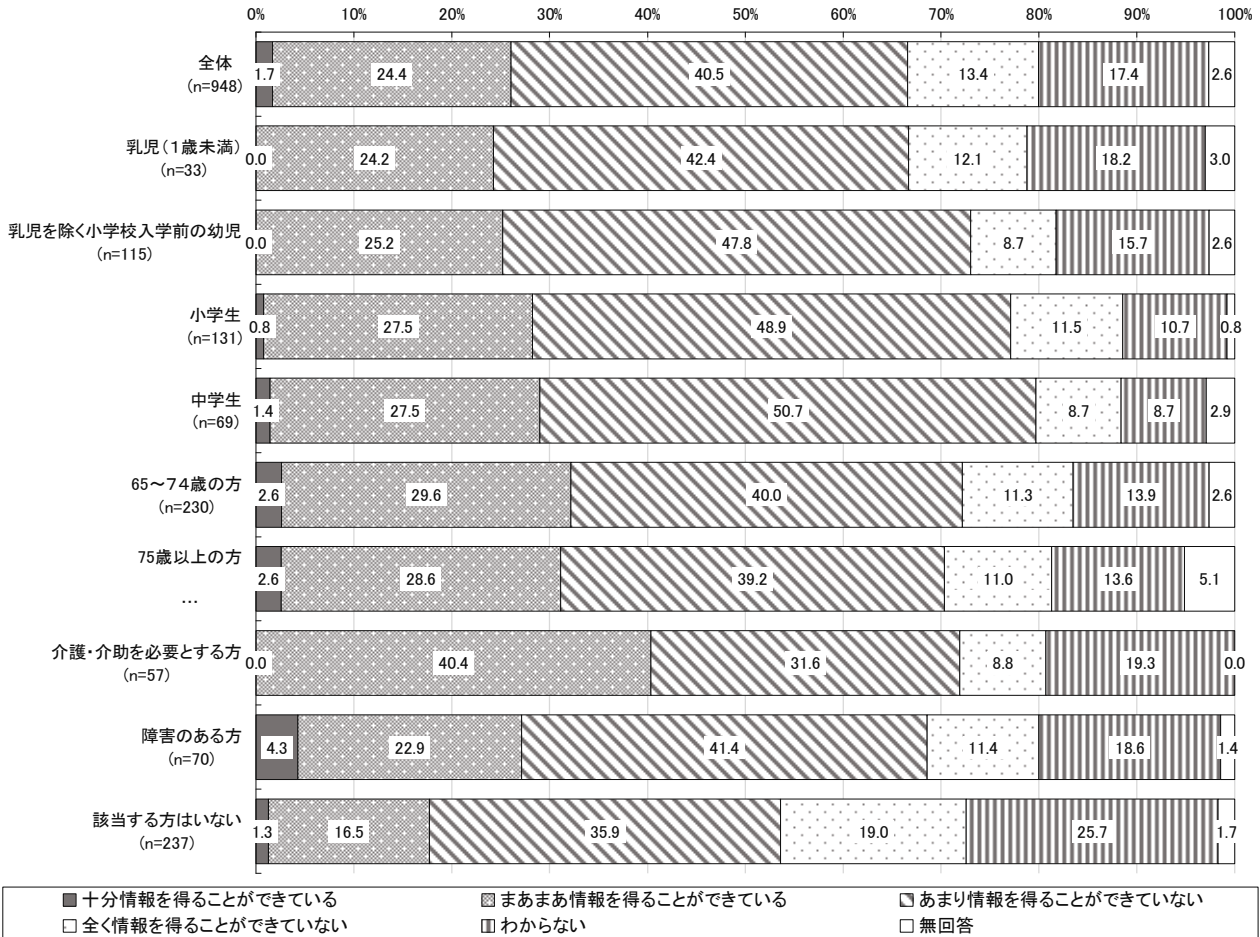
図5-2-1 年齢別「福祉に関する情報入手の程度」



同居人の有無別

- 『介護・介助を必要とする方』のいる家庭では、“情報が得られている”という人の割合が40.4%と最も多く、一方で“情報を得られていない”も同割合となっています。ただ、“情報が得られている”の中でも「十分情報を得ることができている」はゼロとなっています。
- また、『障害のある方』のいる家庭では、“情報を得られていない”が52.8%と過半数を占めています。

図5-2-3 同居人の有無別「福祉に関する情報入手の程度」



### (3) 充実してほしい福祉に関する情報発信手段(問23)

**問23** 問21の1.~7.のような福祉に関する情報をより得やすくするために、どの様な情報発信を充実してほしいですか。【あてはまるものすべてに○】

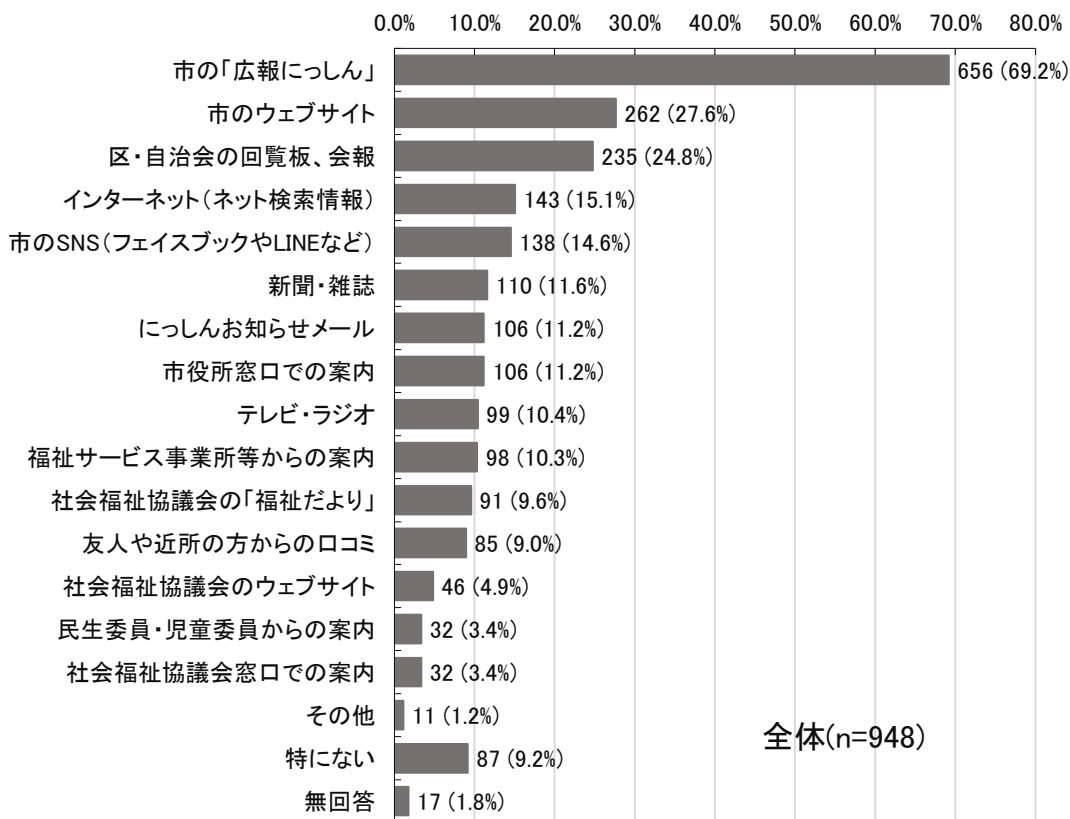
**要点**

89.0%の人が、何らかの福祉に関する情報発信の充実を望んでおり、「市の「広報につきん」」が69.2%と最も多く、次いで、「市のウェブサイト」(27.6%)、「区・自治会の回覧板、会報」(24.8%)が多くなっています。

**全体**

- 「特にない」(9.2%)と「無回答」(1.8%)を除いた89.0%の人が、何らかの福祉に関する情報発信の充実を望んでいます。
- 具体的には、「市の「広報につきん」」が69.2%と最も多く、次いで、「市のウェブサイト」(27.6%)、「区・自治会の回覧板、会報」(24.8%)が多くなっています。
- 「社会福祉協議会の「福祉だより」」(9.6%)や「社会福祉協議会のウェブサイト」(4.9%)の充実を望む人は少数割合にとどまっています。

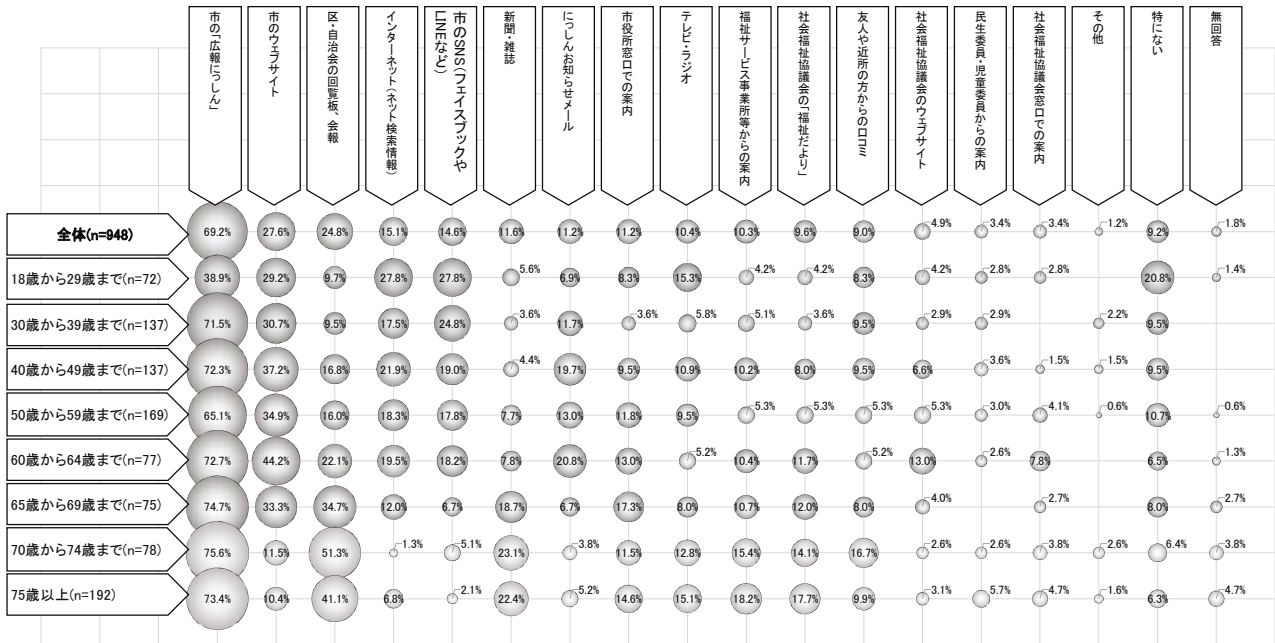
図5-3-1 「充実してほしい福祉に関する情報発信手段」



年齢別

- 生まれた時点でインターネットが利用可能であった年齢層が多くを占める18歳から29歳までの年齢層では、「市の「広報にしん」」の充実を望む人の割合が38.9%と他の年齢層に比べて少なくなっています。「インターネット(ネット検索情報)」や「市の SNS(フェイスブックやLINE など)」の割合が他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「区・自治会の回覧板、会報」の充実を望む人の割合は、概して年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられます。
- 「市のウェブサイト」、「インターネット(ネット検索情報)」、「市の SNS(フェイスブックやLINE など)」については、70歳以上の年齢層では回答割合が大幅に減っています。

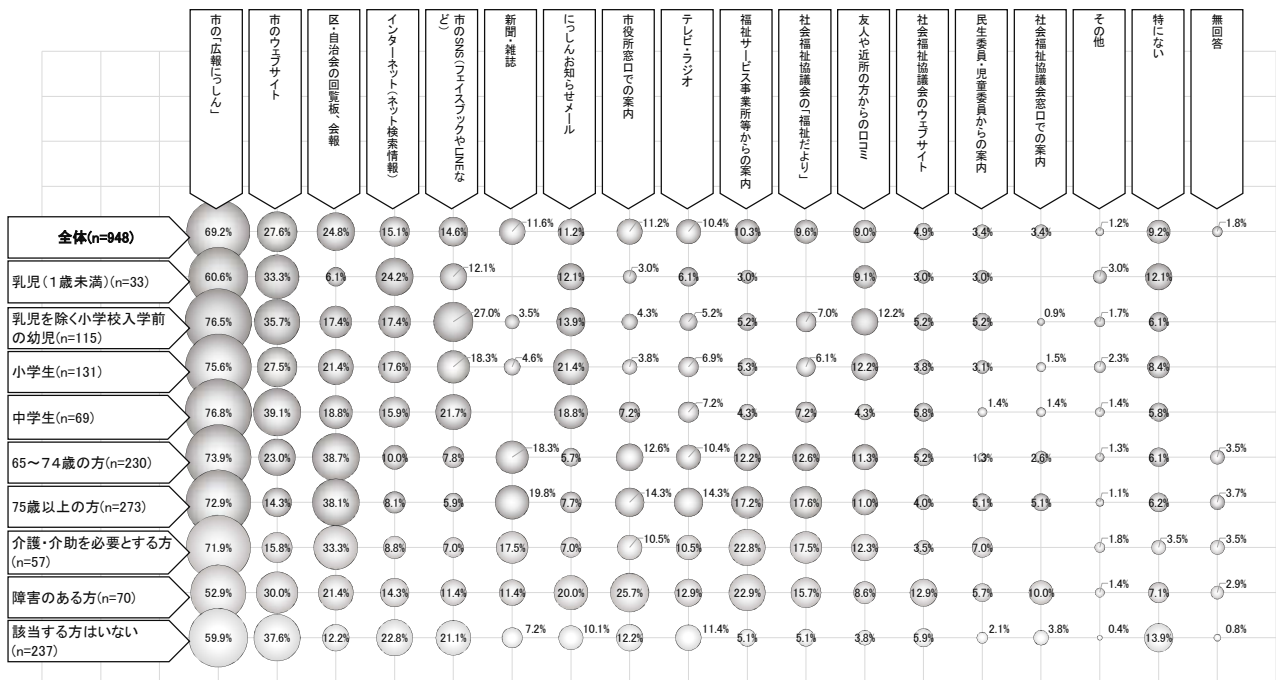
図5-3-2 年齢別「充実してほしい福祉に関する情報発信手段」



同居人の有無別

- 乳幼児を除く小学校入学前の幼児がいる世帯では、「市の SNS (フェイスブックや LINE など)」の割合が全体平均に比べて高くなっています。
- また、中学生がいる世帯では、「市のウェブサイト」、「市の SNS (フェイスブックや LINE など)」、「にしんお知らせメール」の割合が全体平均に比べて高くなっています。
- 高齢者のいる世帯や介護・介助を必要とする方がいる世帯では、「市のウェブサイト」よりも「区・自治会の回覧板、会報」の充実を望む人の割合が多くなっています。また、「新聞・雑誌」の充実を望む人が全体平均に比べて高くなっています。
- これに加えて、介護・介助を必要とする方がいる世帯では、「福祉サービス事業所等からの案内」や「社会福祉協議会の「福祉だより」」の充実を望む人が、「市のウェブサイト」の充実を望む人よりも多くなっていることが特徴としてみられます。
- 障害のある方がいる世帯では、「市役所窓口での案内」や「福祉サービス事業所等からの案内」の充実を望む人の割合が全体平均に比べて高くなっていることが特徴としてみられます。

図5-3-3 同居人の有無別「充実してほしい福祉に関する情報発信手段」



## 6. 今後の市や社協による地域福祉施策について

### (1) 今後優先すべき地域福祉関連施策(問24)

問24

今後、市及び社会福祉協議会は、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか。【優先すべきと思う施策5つまで○】

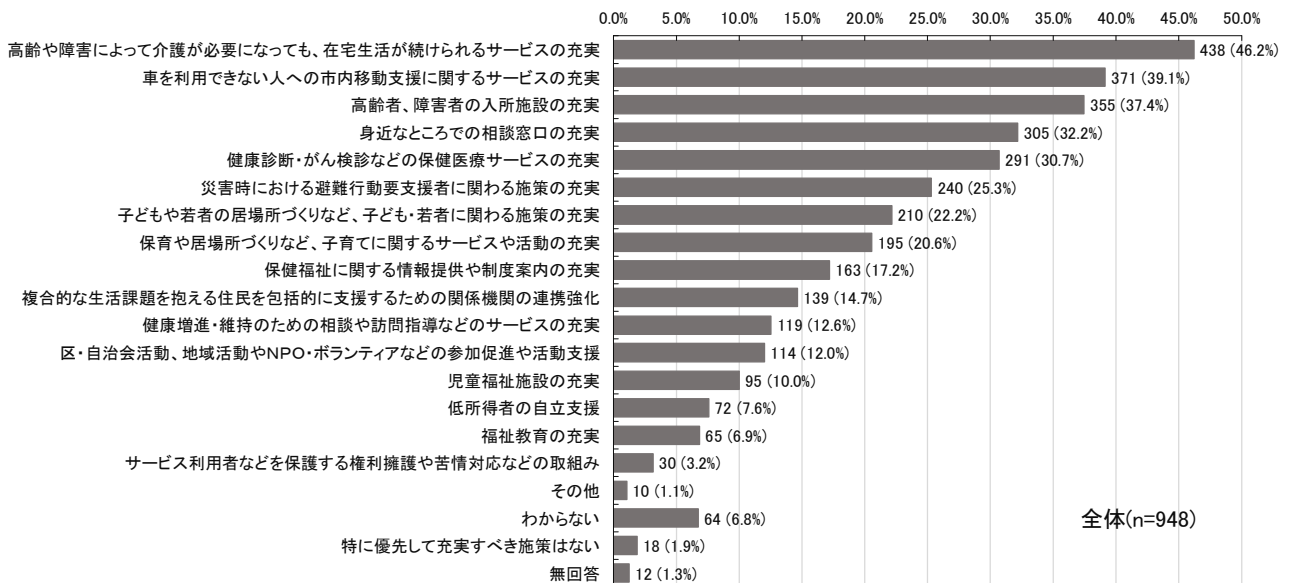
要点

「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が46.2%と最も多く、次いで「車を利用できない人への市内移動支援に関するサービスの充実」(39.1%)で共に概して年齢が高くなるにつれて望む割合が高まる傾向がみられます。

全体

- 今後、優先すべき地域福祉関連施策としては、「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が46.2%と最も多くの人から望まれています。
- 次いで、「車を利用できない人への市内移動支援に関するサービスの充実」(39.1%)、「高齢者、障害者の入所施設の充実」(37.4%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(32.2%)、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」(30.7%)、「災害時における避難行動要支援者に関わる施策の充実」(25.3%)、「子どもや若者の居場所づくりなど、子ども・若者に関わる施策の充実」(22.2%)、「保育や居場所づくりなど、子育てに関するサービスや活動の充実」(20.6%)の順となっています。
- 「複合的な生活課題を抱える住民を包括的に支援するための関係機関の連携強化」についても、14.7%の人から優先すべきとの回答が得られています。

図6-1-1 「今後優先すべき地域福祉関連施策」





## (2) 地域福祉を充実させていく上での市民と行政の関係に対する考え(問25)

問25

地域で安心して暮らしていくための地域福祉を充実させていくうえで、市民と行政との関係について、あなたのお考えに近いものはどれですか。【〇は1つだけ】

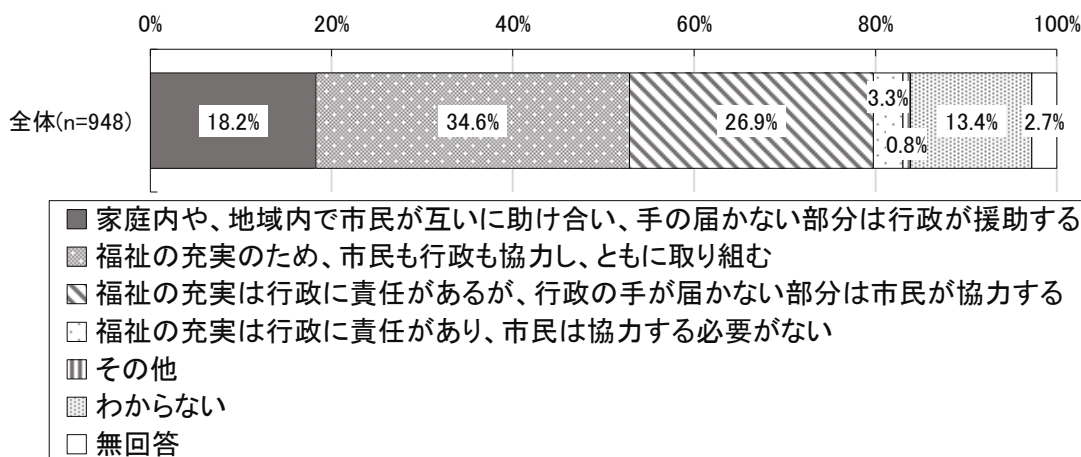
要点

地域福祉を充実していくための考えとしては、「福祉の充実のため、市民も行政も協力し、ともに取り組む」が34.6%を占め最も多くなっています。次いで、「福祉の充実には行政に責任があるが、行政の手が届かない部分は市民が協力する」が26.9%と多く、これに対して「家庭内や、地域内で市民が互いに助け合い、手の届かない部分は行政が援助する」は、18.2%になっています。

全体

- 「福祉の充実のため、市民も行政も協力し、ともに取り組む」という“協働を重視する考え”が34.6%と最も多くなっています。
- 次いで、「福祉の充実には行政に責任があるが、行政の手が届かない部分は市民が協力する」という“どちらかと言えば公助を重視する考え”が26.9%と多くなっています。
- これに対して「家庭内や、地域内で市民が互いに助け合い、手の届かない部分は行政が援助する」といった“どちらかと言えば自助・共助を重視する考え”は、18.2%となっており、“公助を重視する考え”を8.7ポイント下回っています。
- なお、「福祉の充実には行政に責任があり、市民は協力する必要はない」という“公助を重視する考え”を回答した人も3.3%と僅かながら存在しています。

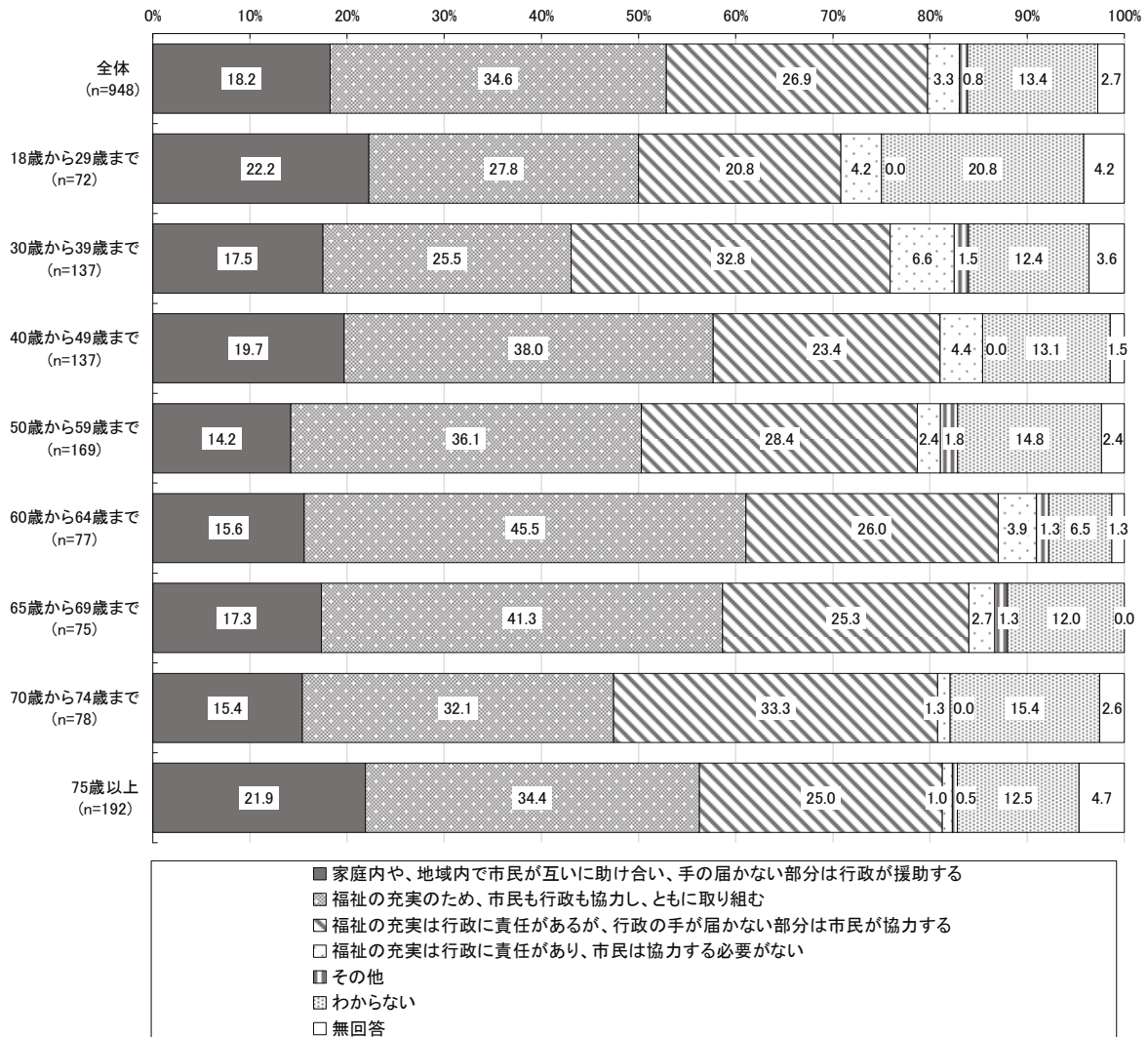
図6-2-1 「地域福祉を充実させていく上での市民と行政の関係に対する考え」



年齢別

- 30歳から39歳までの年齢層と70歳から74歳までの年齢層では、「福祉の充実には行政に責任があるが、行政の手が届かない部分は市民が協力する」という“どちらかと言えば公助を重視する考え”がそれぞれ、32.8%、33.3%と、1番多くを占めているとともに、その割合は他の年齢層に比べて高くなっています。
- これ加えて、30歳から39歳まで年齢層では、「福祉の充実には行政に責任があり、市民は協力する必要がない」が6.6%を占めており、公助を重視するという考えが他の年齢層に比べて強くなっています。
- 「福祉の充実のため、市民も行政も協力し、ともに取り組む」という“協働を重視する考え”は、60歳から64歳までの年齢層で最も多くなっています。

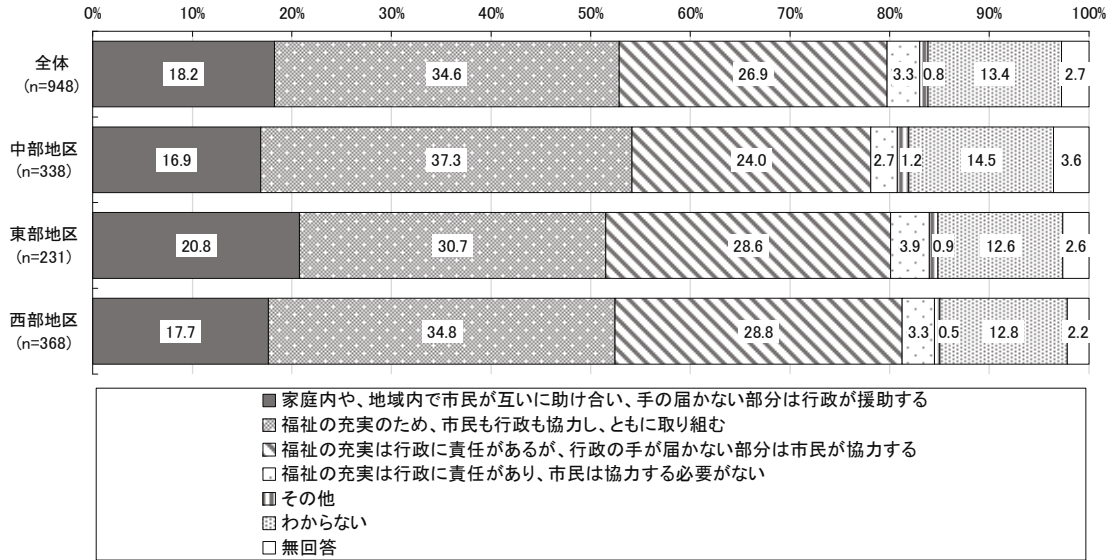
図6-2-2 年齢別「地域福祉を充実させていく上での市民と行政の関係に対する考え」



居住地区別

○居住地区別による違いはみられません。

図6-2-3 居住地区別「地域福祉を充実させていく上での市民と行政の関係に対する考え」



### (3) 日進市の福祉関連予算に対する考え(問26)

**問26** 日進市の福祉関連予算について、あなたのお考えに近いものはどれですか。【○は1つだけ】

**要点**

“税金を上げてまでも充実”という考えにある人が合わせて25.8%であるのに対して、“税金を上げずに維持”という考えにある人が合わせて53.1%となっています。“税金を上げてまでも充実”という回答は、特に18歳から29歳までの年齢層と70歳から74歳までの年齢層で少なくなっています。

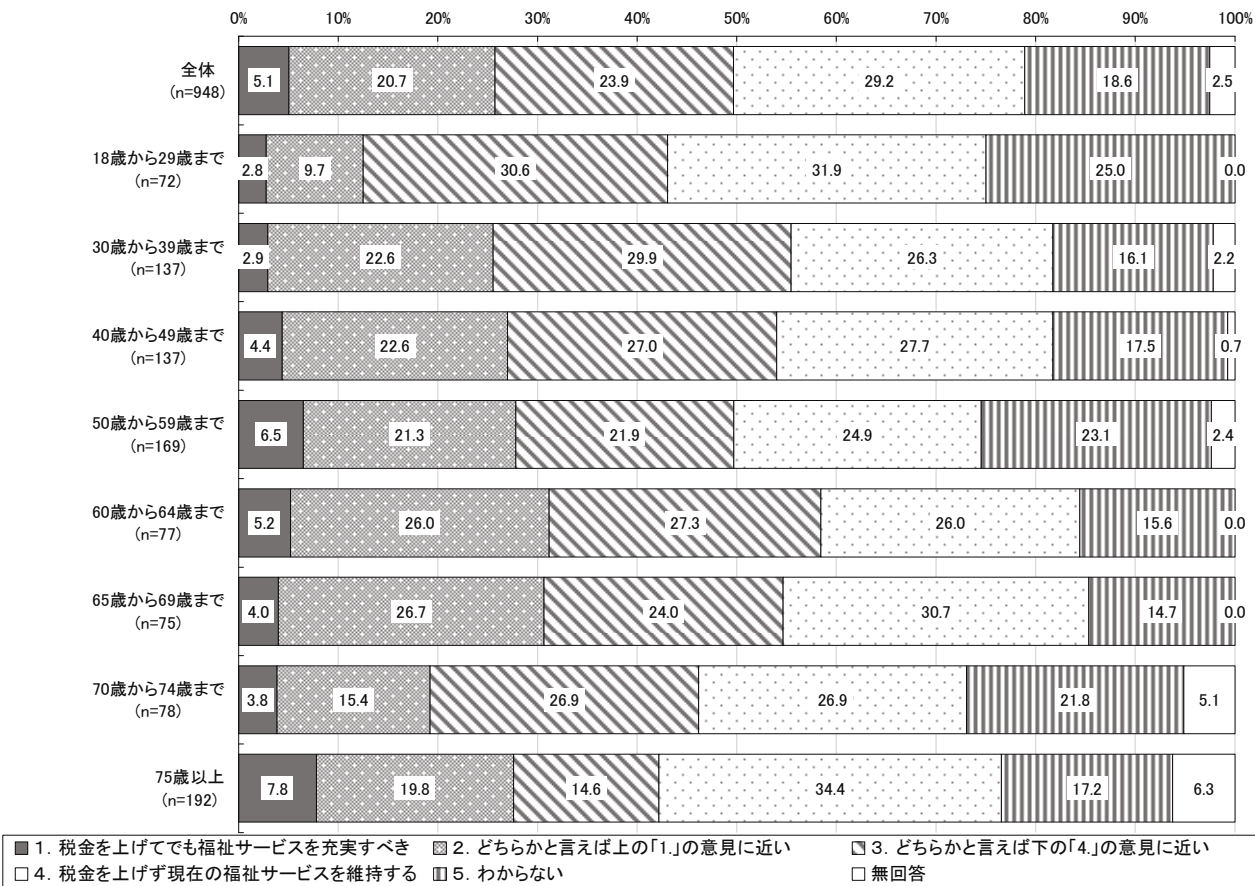
**全体**

○「1. 税金を上げてでも福祉サービスを充実すべき」が5.1%、「2. どちらかと言えば上の「1.」の意見に近い」が20.7%で、合わせて“税金を上げてまでも充実”という考えにある人が合わせて25.8%となっています。  
○これに対して、「4. 税金を上げず現在の福祉サービスを維持する」が29.2%、「3. どちらかと言えば下の「4.」の意見に近い」が23.9%で、“税金を上げずに維持”という考えにある人が合わせて53.1%と過半数を占めており、“税金を上げてまでも充実”という考えにある人を27.3ポイントも上回っています。

**年齢別**

○18歳から29歳までの年齢層では、“税金を上げてまでも充実”という考えにある人の割合が12.3%(2.8%+9.7%)と他の年齢層に比べて少なくなっており、「3. どちらかと言えば下の「4.」の意見に近い」という考えにある人の割合が30.6%と多くなっています。  
○また、70歳から74歳までの年齢層においても、“税金を上げてまでも充実”という考えにある人の割合が19.2%で他の年齢層に比べて少なくなっています。

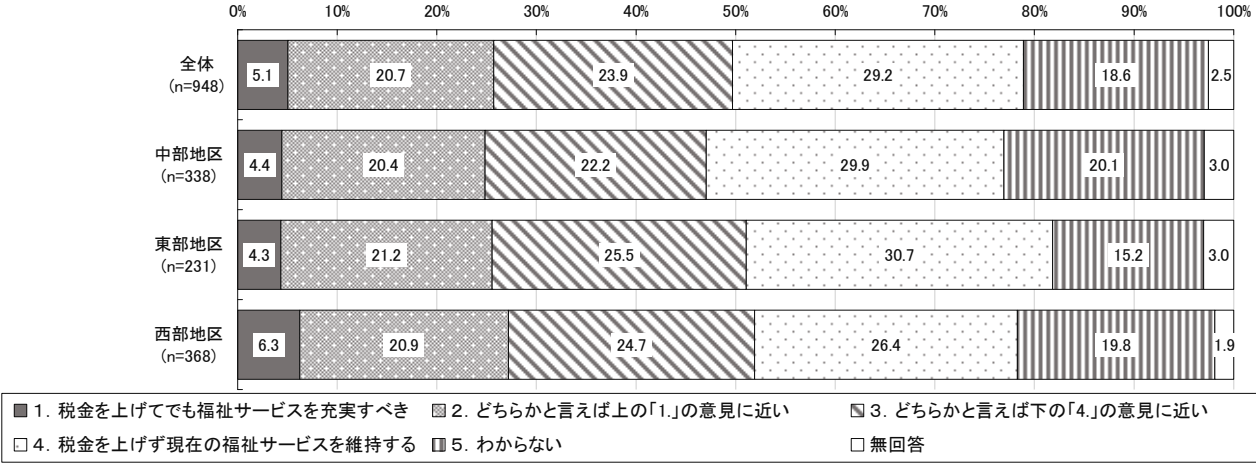
図6-3-1 年齢別「日進市の福祉関連予算に対する考え」



居住地区別

○居住地区別による違いはみられません。

図6-3-2 居住地区別「日進市の福祉関連予算に対する考え」



(未定稿)

# 日進市第2期にっしん幸せまちづくりプラン策定のための アンケート調査報告書

(相談支援機関、事業所、団体等の関係機関・関係者向け)

令和6年6月

日進市／社会福祉法人 日進市社会福祉協議会



## 目 次

序. 調査の概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査の方法 .....	1
3 回収結果 .....	1
4 本調査報告書の基本的な事項 .....	1
1. 回答事業所等の概要 .....	2
(1) サービス・事業分野(問2) .....	2
(2) 所在地(問3) .....	2
2. 複合的な地域生活課題を抱えている人・世帯の実態と他の専門機関等との連携・協働 .....	3
(1) 複合的な生活課題を抱えている利用者等の見聞きの有無や頻度(問4) .....	3
(2) 複合的な生活課題を抱えている利用者等の把握した際の対処法(問5) .....	5
(3) 他の相談機関につないだ後の関わり(問6) .....	5
(4) 他の相談機関につないだ後の関わり(問7) .....	6
3. 区・自治会、ボランティアやNPO等と連携した地域福祉活動等 .....	7
(1) 地域の諸団体との協力による地域福祉活動への関与(問8) .....	7
(2) その他、地域の諸団体(区・自治会、ボランティアやNPO等)と交流や協力をしたい事項(問9) .....	9
(3) 地域福祉の充実に向けての特に大きな課題(問10) .....	12
(4) 地域福祉の充実に向けての特に大きな課題の解決に向けて協力できることや提案(問11) .....	15
(5) 重層的支援体制整備事業を進めていく上での意見・提案(問12) .....	17



# 序. 調査の概要

## 1 調査の目的

日進市内の高齢、障害、子ども・子育て、教育、生活困窮の各分野における相談支援機関や事業所、団体等の関係機関や関係者の皆様からご意見を伺い、「第2期にしん幸せまちづくりプラン」に反映させるため。

## 2 調査の方法

### (1) 調査対象

市内の高齢、障害、子ども・子育て、教育、生活困窮の各分野における相談支援機関や事業所、団体等の関係機関や関係者の方、242票。

### (2) 調査方法

郵送による調査票の配布・Web及び郵送による回収

### (3) 調査時期

令和6年2月1日～2月20日

## 3 回収結果

- |           |       |
|-----------|-------|
| (1) 配布数   | 242票  |
| (2) 有効回収数 | 125票  |
| (3) 有効回収率 | 51.6% |

## 4 本調査報告書の基本的な事項

### (1) 数値等の基本的な取扱いについて

- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、各回答の比率の合計が100%にならない場合もあります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。(回答者総数又は該当者数)
- ・複数回答のものについては、各回答の比率の合計が100%を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中の選択肢の文言は、作図の都合上、簡略化している場合があります。
- ・グラフ内の0値は、選択肢の後ろに“(0)”を追加し省略している場合があります。
- ・本文中の「」内は[アンケートの選択肢]、『』内は[他の設問の選択肢]、“ ”内は[複数の選択肢をまとめた表記]となります。
- ・その他の回答内容や自由意見で同じ意見を集約し“(件数)”と表記しています。
- ・地区については、以下のとおりとなっています。

中部地区：蟹甲町・折戸町・栄1～2丁目・本郷町・岩崎町・岩藤町・南ヶ丘・東山・藤塚・竹の山

東部地区：藤枝町・米野木町・三本木町・藤島町・北新町・五色園・栄3～5丁目・米野木台

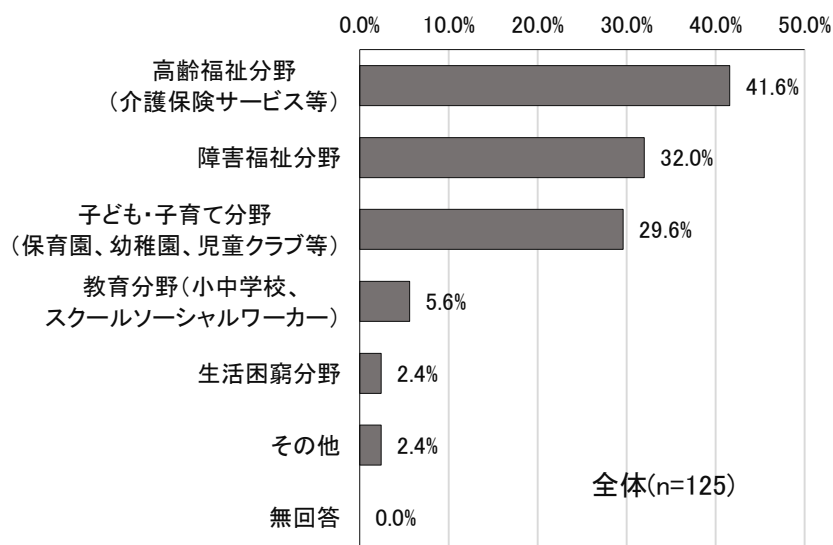
西部地区：赤池町・赤池・赤池南・浅田町・浅田平子・梅森町・梅森台・野方町・香久山・岩崎台

# 1. 回答事業所等の概要

## (1) サービス・事業分野(問2)

問2 貴事業所等が提供しているサービス・事業分野は次のうちどれですか。【〇は複数可】

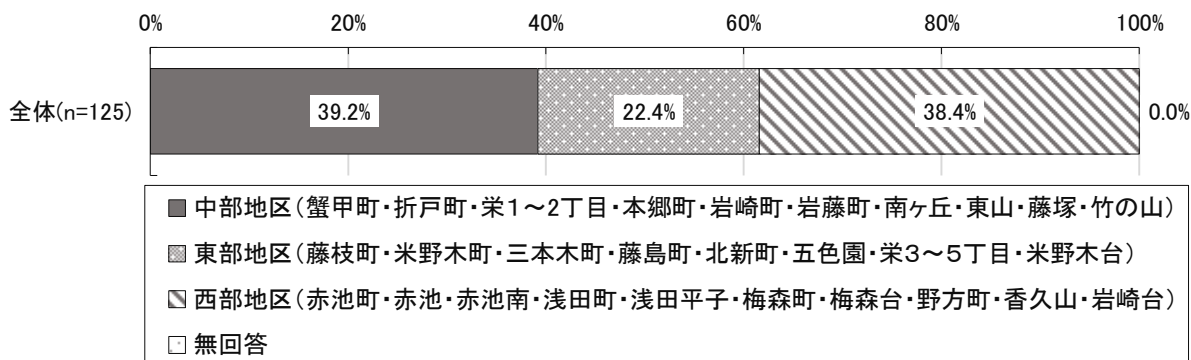
提供しているサービス・事業分野については、「高齢福祉分野(介護保険サービス等)」が41.6%と最も多く、次いで、「障害福祉分野」(32.0%)、「子ども・子育て分野(保育園、幼稚園、児童クラブ等)」(29.6%)、「教育分野(小中学校、スクールソーシャルワーカー)」(5.6%)、「生活困窮分野」(2.4%)の順となっています。



## (2) 所在地(問3)

問3 貴事業所等の所在地はどの地域になりますか。【〇は1つだけ】

事業所等の所在地については、「中部地区」が39.2%と最も多く、次いで、「西部地区」(38.4%)、「東部地区」(22.4%)の順となっています。



## 2. 複合的な地域生活課題を抱えている人・世帯の実態と他の専門機関等との連携・協働

### (1) 複合的な生活課題を抱えている利用者等の見聞きの有無や頻度(問4)

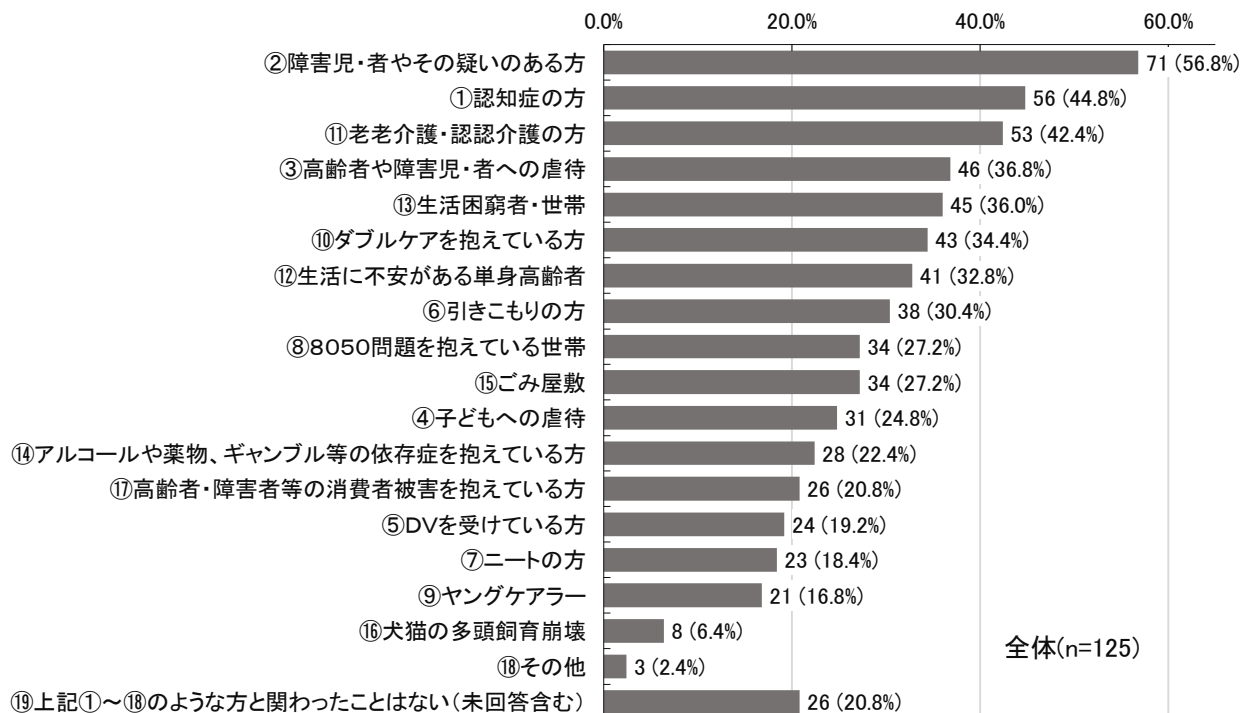
問4

過去1年間、貴事業所等の“サービス・事業分野以外の困りごと”(=複合的な地域生活課題)を抱えている利用者・相談者またはその世帯の状況を見聞きしたことはありますか。①～⑮の“困りごとの内容”ごとそれぞれについて見聞きした頻度をお聞かせください。

#### 【全体】

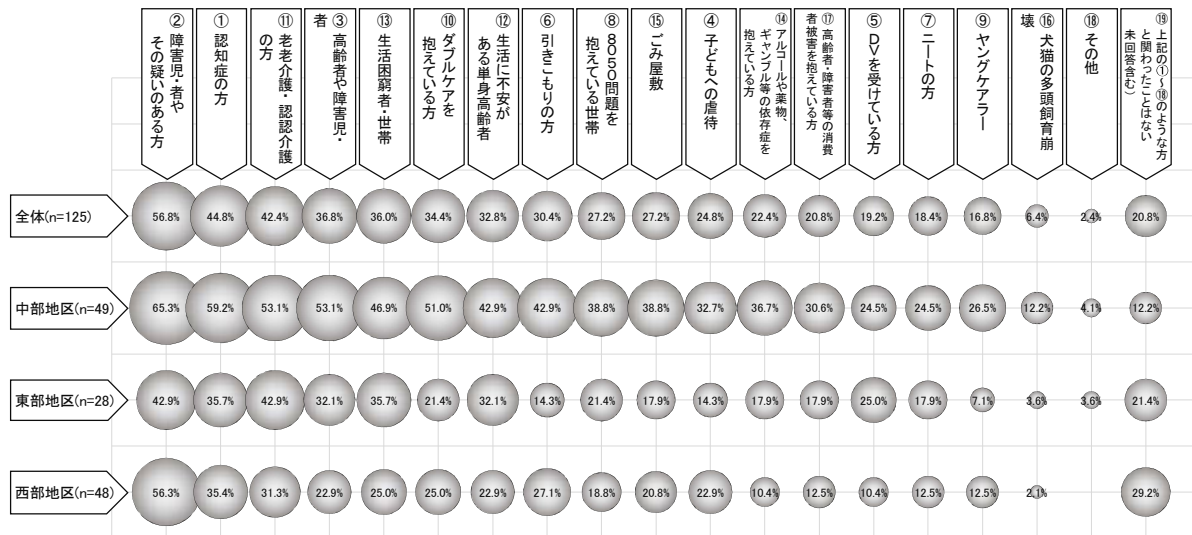
「⑰上記①～⑮のような方と関わったことはない(未回答含む)」が20.3%となっており、これを除く79.7%の事業所等では、この1年間で、“サービス・事業分野以外の困りごと”(=複合的な地域生活課題)を抱えている利用者・相談者またはその世帯の状況を見聞きしています。

「②障害児・者やその疑いのある方」が56.8%と最も多く、次いで、「①認知症(疑いを含む)の方」(44.8%)、「⑪老老介護・認認介護の方」(42.4%)、「③高齢者や障害児・者への虐待(疑いも含む)」(36.8%)、「⑬生活困窮者・世帯」(36.0%)、「⑩ダブルケアを抱えている方」(34.4%)、「⑫生活に不安がある単身高齢者」(32.8%)、「⑥引きこもりの方」(30.4%)、「⑧8050問題を抱えている世帯」(27.2%)、「⑮ごみ屋敷」(27.2%)、「④子どもへの虐待(疑いも含む)」(24.8%)、「⑭アルコールや薬物、ギャンブル等の依存症を抱えている方」(22.4%)、「⑰高齢者・障害者等の消費者被害を抱えている方」(20.8%)、「⑤DVを受けている方」(19.2%)、「⑦ニートの方」(18.4%)、「⑨ヤングケアラー」(16.8%)、「⑯犬猫の多頭飼育崩壊」(6.4%)の順となっています。



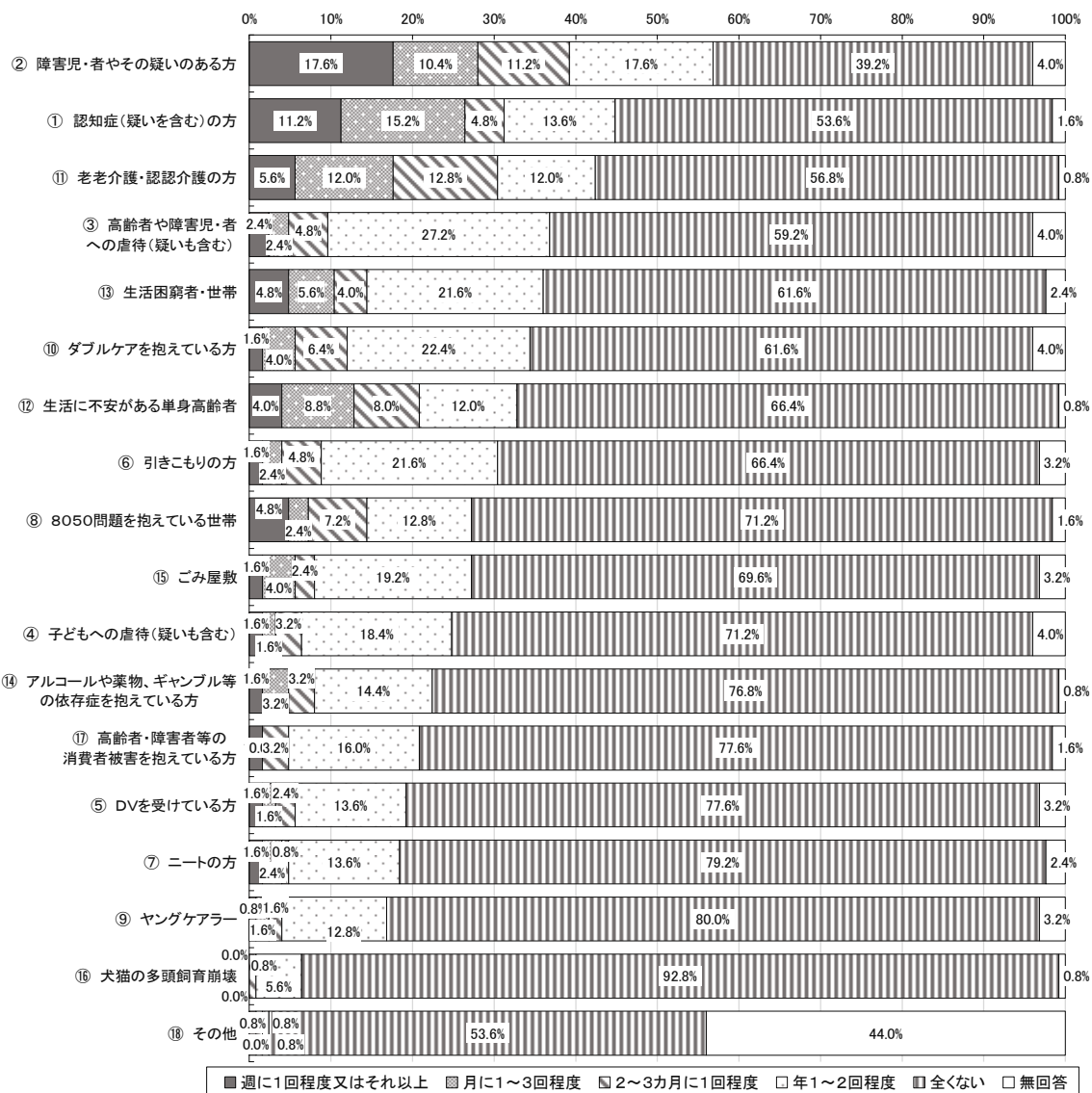
## 【所在地別】

全般的に「中部地区」の割合が多くなっています。



## 【見聞きした頻度】

「②障害児・者やその疑いのある方」や「①認知症(疑いを含む)の方」を、「週1回程度またはそれ以上」の頻度で見聞きしたという事業所等は、それぞれ、17.6%(22事業所等)、11.2%(14事業所等)となっています。

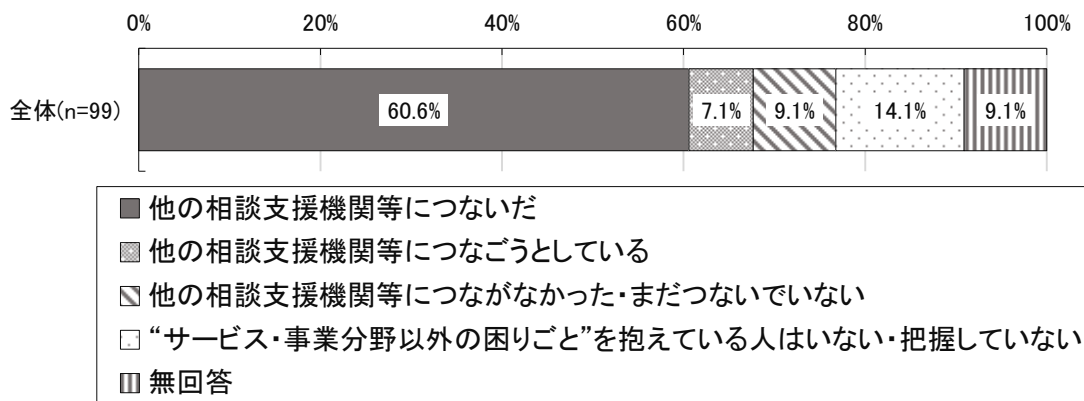


## (2) 複合的な生活課題を抱えている利用者等の把握した際の対処法(問5)

問5

問4でご回答した“サービス・事業分野以外の困りごと”を把握した場合に、どのように対処しましたか。【〇は1つだけ】

把握した場合の対処については、「他の相談支援機関等につないだ」が60.6%と最も多く、「他の相談支援機関等につなごうとしている」(7.1%)と合わせて67.7%となっていますが、「他の相談支援機関等につなげなかった・まだつないでいない」も9.1%みられます。

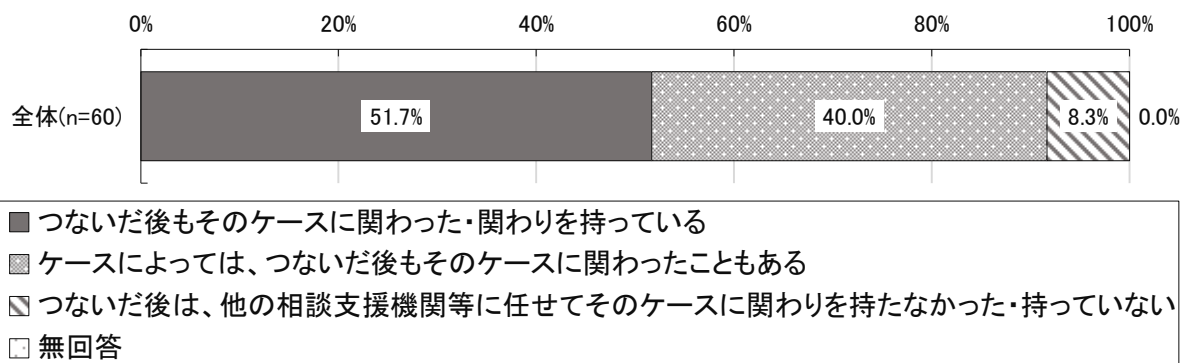


## (3) 他の相談機関につないだ後の関わり(問6)

問6

問5で、「1.他の相談支援機関等につないだ」と回答された方におたずねします。他の相談支援機関等につないだ後もそのケースに関わりを持っていましたか・持っていますか【〇は1つだけ】

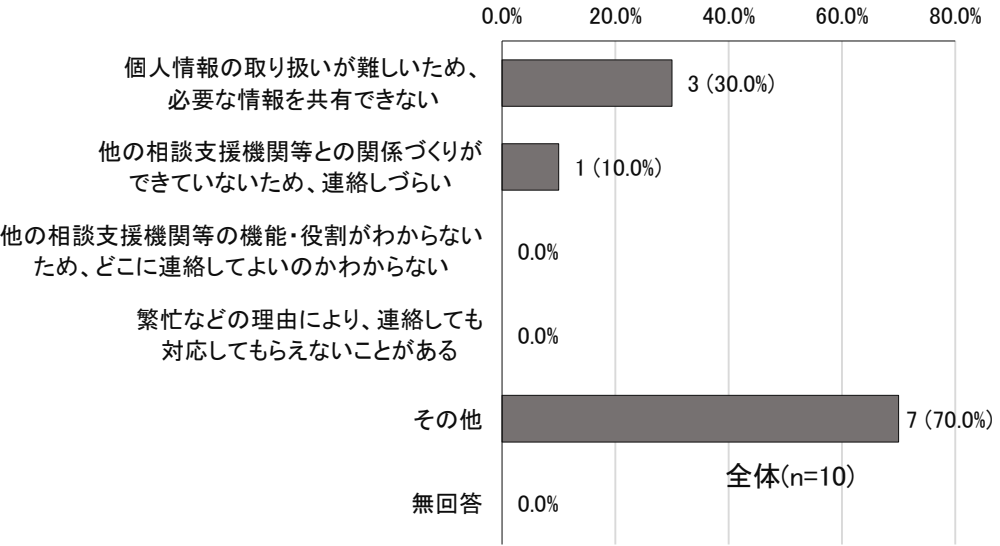
問5で、「1.他の相談支援機関等につないだ」と回答した60事業所等に対してつないだ後の関わりの有無について尋ねたところ、「つないだ後もそのケースに関わった・関わりを持っている」(51.7%)と「ケースによっては、つないだ後もそのケースに関わったこともある」(40.0%)を合わせると、9割以上の事業所等が継続的な関わりを持っています。



#### (4) 他の相談機関につないだ後の関わり(問7)

**問7** 問5で、「3.他の相談支援機関等につなげなかった・まだつないでいない」と回答された方におたずねします。他の相談支援機関等につなげなかった理由は何ですか。  
【あてはまる番号すべてに○】

他の相談支援機関等につなげなかった理由については、「個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」が30.0% (3事業所等)、「他の相談支援機関等との関係づくりができていないため、連絡しづらい」が10.0% (1事業所等)となっています。  
なお、その他の回答については、下表のとおりです。



- その他の具体的な回答内容**
- ・事業が全くなかったため
  - ・そこまでの緊急性を感じなかった
  - ・対象者が他の相談支援機関との繋がりに躊躇している
  - ・その方自身のサポートを受けている関係機関の方の世間話として聞いただけで、個人の特定がないケースだったため
  - ・家族の方が把握している
  - ・すでにサービスを利用されていたり、困りごとはあるがまだ支援を必要とする状態ではなかったため
  - ・まだ本人や周囲にとって問題となっておらず、連絡するほどでもないため。

### 3. 区・自治会、ボランティアや NPO 等と連携した地域福祉活動等

#### (1) 地域の諸団体との協力による地域福祉活動への関与 (問8)

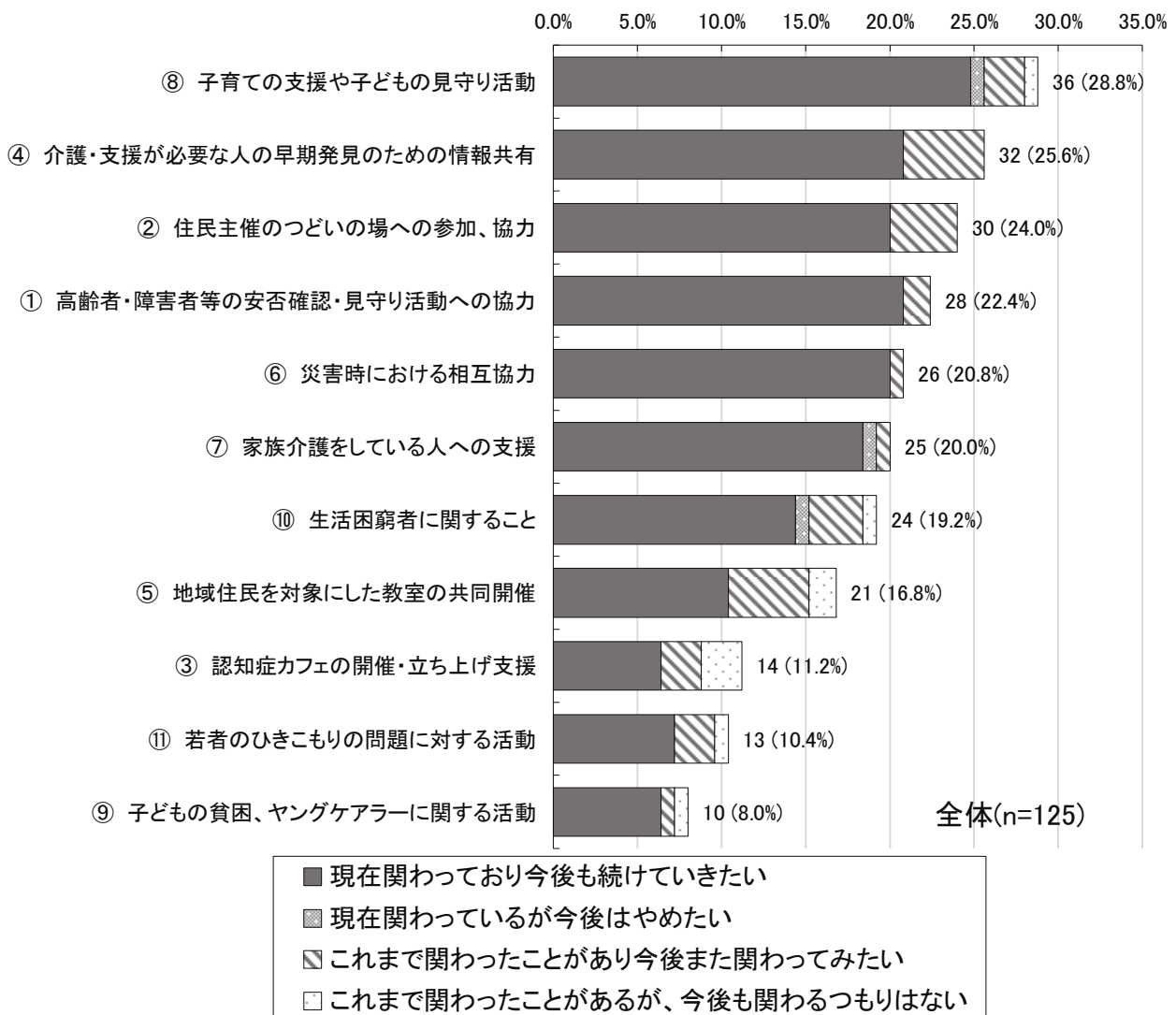
問8

現在、貴事業所等では、地域の諸団体（区・自治会、ボランティアやNPO等）と協力して次の①～⑪のような地域福祉活動等に関わっていますか。また、今後関わっていきたいですか。①～⑪の項目それぞれについて、1～6の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

地域福祉活動等に関わっているか（関わったことがあるか）については、11項目全ての地域福祉活動等に何らか関わっています。

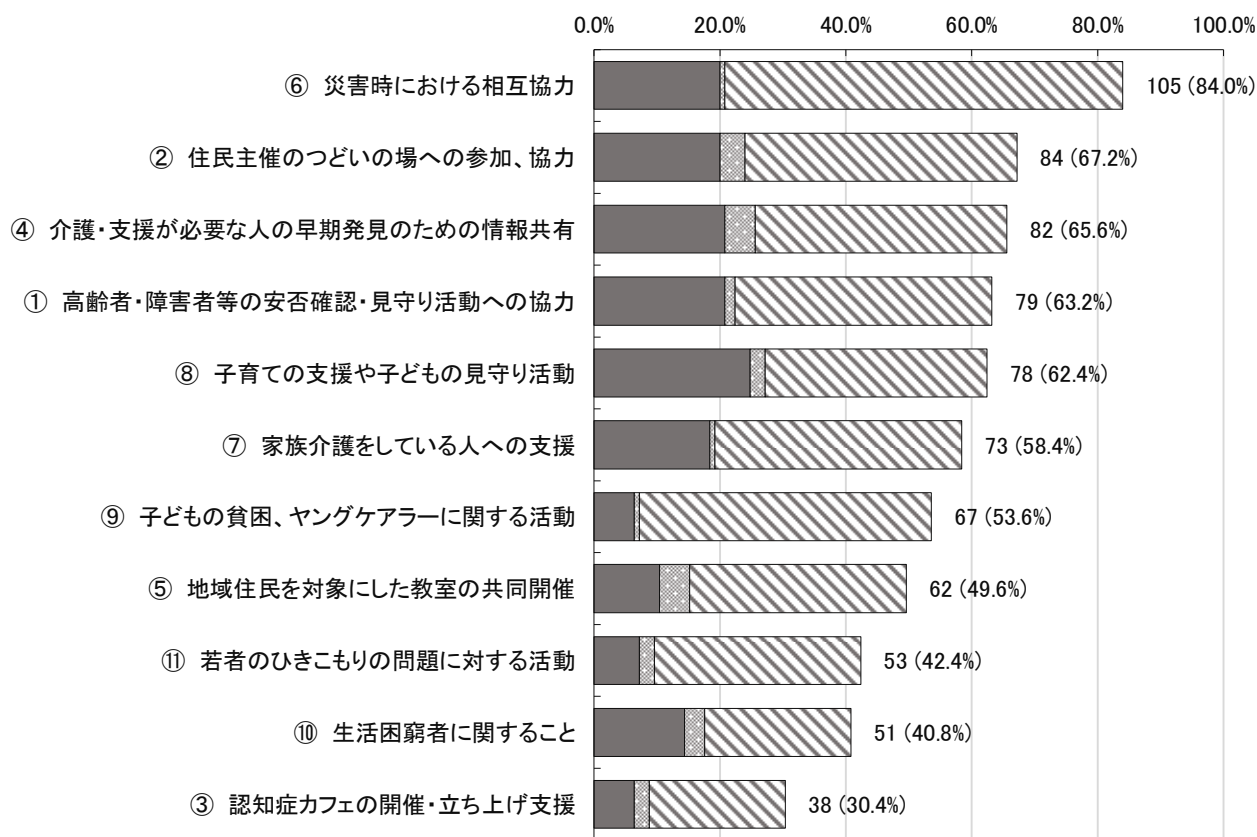
最も多くの事業所等が関わっている地域福祉活動等は、「⑧子育ての支援や子どもの見守り活動」で28.8%となっています。次いで、「④介護・支援が必要な人の早期発見のための情報共有」（25.6%）、「②住民主催のつどいの場への参加、協力」（24.0%）、「①高齢者・障害者等の安否確認・見守り活動への協力」（22.4%）、「⑥災害時における相互協力」（20.8%）、「⑦家族介護をしている人への支援」（20.0%）の順となっています。

これらに続いて、「⑩生活困窮者に関すること」（19.2%）、「⑤地域住民を対象にした教室の共同開催」（16.8%）、「③認知症カフェの開催・立ち上げ支援」（11.2%）、「⑪若者のひきこもりの問題に対する活動」（10.4%）、「⑨子どもの貧困、ヤングケアラーに関する活動」（8.0%）の順となっています。



今後関わっていききたい地域福祉活動等については、「⑥災害時における相互協力」が84.0%と最も多く、次いで、「②住民主催のつどいの場への参加、協力」(67.2%)、「④介護・支援が必要な人の早期発見のための情報共有」(65.6%)、「①高齢者・障害者等の安否確認・見守り活動への協力」(63.2%)、「⑧子育ての支援や子どもの見守り活動」(62.4%)、「⑦家族介護をしている人への支援」(58.4%)、「⑨子どもの貧困、ヤングケアラーに関する活動」(53.6%)の順となっています。

また、「⑤地域住民を対象にした教室の共同開催」(49.6%)、「⑪若者のひきこもりの問題に対する活動」(42.4%)、「⑩生活困窮者に関すること」(40.8%)、「③認知症カフェの開催・立ち上げ支援」(30.4%)と比較的多くの事業所等が関わりを持っていききたいと回答しています。



■ 現在関わっており今後も続けていきたい  
 ■ これまで関わったことがあるが今後また関わってみたい  
 ■ これまで関わったことはないが今後は関わってみたい

(2) その他、地域の諸団体(区・自治会、ボランティアやNPO等)と交流や協力をしたい事項(問9)

**問9** 問8の①～⑪の活動以外に、貴事業所等では、今後、地域の諸団体(区・自治会、ボランティアやNPO等)と交流や協力をしたいという具体的なお考え、あるいはご要望がありますか。【自由回答】

問8の①～⑪の活動以外で、地域の諸団体との交流や協力に対する考え・要望については、51事業所等から回答がありました。

その中で<地域との交流・つながり>に関することが12件と最も多く、次いで、<地域活動への参加・協力>に関すること(11件)、<関連機関との連携・つながり>に関すること(8件)、<ボランティア等の希望>に関すること(4件)、その他(16件)となっています。

※事業所単位で件数を表示:同一法人の同意見も事業所単位で集計しています。

＜地域との交流・つながり＞に関すること	12 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「つくり つなぎ つながって安心のまちづくり」をキャッチフレーズとして、地域との連携を日替わり弁当をおして進めています(パンフレット同封)、1993 年6月民生委員11名の協力を得て独居高齢者のニーズ調査を行った結果、食の支援の大切さを市へ要望書として提出し現在の活動に繋がっています</li> <li>○ R5 年度に愛知池友の会様と子ども達が交流する機会があり、花壇の手入れやゴミ拾い等、地域の方の活動を知る事ができ良かったです。 また機会がありましたら、子ども達にかかわるような他の団体の方とも交流が図れたらと思います。</li> <li>○ 当センターの運営推進会議については、既に、所在地の区長、民生委員児童委員に会議の委員として委嘱し、意見や提案をいただいているため、今後もこの形式で会議を継続したい。 既に、ハンドマッサージや将棋、書道、絵手紙等のボランティアに協力をいただいております、今後も積極的にボランティアと協働したい。(2件) 更にコロナ感染が落ち着いたら、地域との交流事業も検討したい。</li> <li>○ こども食堂との関わりは継続中。今後、地域貢献活動で地域の方々との交流を計画中。</li> <li>○ 地域での高齢者に関する相談等があった場合相談窓口としてアナウンスしていただけるよう連携を図っていきたい</li> <li>○ 現在、参加させて頂いている、中部地区協議体に継続して参加させて頂きたいと思っている。</li> <li>○ 当事業所は、基本的に地域との共生を目的にしているので、交流、協力はしていきたい</li> <li>○ 現在のところ特に具体的な考えはありません。 障害者支援の事業所として地域とのつながりは強めていきたい。</li> <li>○ 諸団体に対してではなく、地域一般の個々の人達に向けて、誰もが訪れやすいようにセミナーや交流イベントを開催したり、場所を開放したりすることはしており、継続していきたいと思っている</li> <li>○ 赤池区との交流</li> <li>○ 具体的な計画は特にありません。障害者支援の事業所として地域との交流は深めていきたいと思っています。</li> </ul>	
＜地域活動への参加・協力＞に関すること	11 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、地域の諸団体と協力して住みよい地域づくりに寄与したい。</li> <li>○ 進行性神経変性疾患(ALS や SMA)の患者様でよく使用される、コミュニケーションを取るためのパソコンやデバイスの使用方法や、種類の紹介、作成方法などの講習会やセミナーを行うことができます。</li> <li>○ 要望があれば集会などへ理学療法士を派遣し、簡易な運動教室を実施する。</li> <li>○ 避難所開設訓練には参加させていただいているが、自治会などの自主防災訓練などの情報があれば交流等含めて検討していきたい。</li> <li>○ にっしん市民祭りへの参加。</li> <li>○ 障がい児の支援の立場から関わることがあれば協力したいと思います。</li> <li>○ どういう関わりができるか具体的には思いつかないが、障がい者・児の支援の立場から関わりができることがあれば協力したいと思います。</li> <li>○ 現在は具体的な考えはありませんが、地域活動に協力できることがあれば参加したい。(4件)</li> </ul>	

<p>＜関連機関との連携・つながり＞に関すること</p>	<p>8 件</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デイサービスでの送迎等困っている方が居た時地域包括センターと連携して問題を解決していきたい</li> <li>○ 近隣の幼稚園・保育園や小中学校の園児・児童と一緒に活動したい。 園庭や校庭にお邪魔して一緒に遊ぶ、行事に参加したり招待する。 ボランティアも受け入れて子どもたちと交流できるようにしたい。</li> <li>○ 子どもの貧困に着目して、子ども食堂やフードパントリーを行う団体や学習支援の団体、学用品ゆずり合いの団体などとフードドライブを行う地域の団体や公共機関とをつなぎ、相談しやすい体制づくりをしており、協力者を増やしていきたいと考えています。</li> <li>○ 児童クラブや放課後等デイサービスなど子どもに関わる機関とつながり、アセスメントを深め、小中学校での子どもの支援に役立てたいです。</li> <li>○ 当事業所が発見した課題等において、分野が違う場合は、早期に他機関へ報告、相談等を行えるように日頃から連携を強めておきたい。</li> <li>○ 福祉会館や高齢者施設にいらっしゃる高齢者と園の子どもの関わりはコロナ前にあり、また出来たらと思います。</li> <li>○ 放課後等デイサービスの職員さんと、特別支援級のお子さんについて教員と情報共有がしてほしいというご要望が保護者の方からありました。</li> <li>○ 民生員の方から、こういう方が居てヘルパー支援が必要なという相談事が以前あり、ヘルパー支援に入ったことがありました、ずいぶん前の事です。</li> </ul>	
<p>＜ボランティア等の希望＞に関すること</p>	<p>4 件</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍隣地域のボランティア等の来訪が難しくなり、3年ほど受け入れができていない現状となって居ますが、交流を図ることで入居者の活性化にもつながるため、今後感染状況に応じ再開したい。</li> <li>○ デイサービスへの踊りやマジックなど利用者様が楽しめる内容を行っていただけるボランティアを募集します。</li> <li>○ レクボランティアに来ていただけるとありがたいですが、まだなかなか受け入れできないのが残念です</li> <li>○ 男手が足りないのでボランティアで掃除など手伝ってもらえたら助かります。</li> </ul>	
<p>＜その他＞</p>	<p>16 件</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①～⑪の活動全てに交流や協力したいという思いは個人的にはありますが、事業所でとなると難しいというのが現実です、今後事業所としても協力できれば良いと考えています。</li> <li>○ いざという時のために交流をしたり、協力したりと思うが、どのようにできるか時間的なことなどできる範囲の見極めがうまくできない状態です。</li> <li>○ 具体的な方法については、イメージか知識がないため実現可能かは別にして何か情報があれば、今後も検討したいと思います。</li> <li>○ 高齢者、子ども、学生など多世代の交流が図られる仕掛けをしたと思っている。</li> <li>○ 災害時を想定して地域の困っている人が行く先を知っている状況になるようにと思います。 事業所というより法人としては、地域貢献を考えていますが、具体的な支援にはつながっていないのが現状です。</li> <li>○ 子育ての不安や気になる子の保護者支援など、皆でゆっくり話す機会があるといいなと思います。</li> <li>○ 自治体ごとに行われていることが異なり、把握しづらく、情報が得られにくい。高齢者支援で介護保険を一旦利用されると、料金的にも安く使いやすいため、他の共助支援に切り替えることに家族抵抗があり、難しい。サービス導入前に説明ができるとよいと考えます。</li> <li>○ 就労支援を幹として利用者(保護者)と関わっているが、複合的な相談があれば対応できるように知識としては知っておきたいと思う。</li> <li>○ 地域に根付いた介護施設として、地域主催の活動への場所の提供や事業所主催の行事を提供していきたい。</li> <li>○ 当事業所は、公的支援(地域子育て支援事業)の枠組み内で事業運営していますが、その範囲では対応しきれないケースが年々増えており、母体のNPO法人と連携して対応する場合があります。それでも対応できないこともありますし、そもそも支援というよりも地域の方々との支えあいがあれば解決することもあるように思います。 個々の事案についてここでは触れませんが、当事業所が日頃から地域の方々との関係を築きつつ、必要に応じて連携・協力して、安心して子育てできる環境を一緒に整えていくことができればと考えます。</li> <li>○ 特にありません。交流や協力が必要になった時、相談できる窓口が分かりやすく公表されると助かります</li> </ul>	

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 認知症カフェを立ち上げたいという意向のある地域や個人がいるので、立ち上げに向けて何が必要かを一緒に整理していきたい。高齢者の支援に繋がっている団体、企業等と協力しながらチームオレンジをつくっていく。</li><li>○ 不登校支援。</li><li>○ 交流や協力の意志はありますが、学童の施設を立上げまだ日が浅く、まずは体制をしっかりと整える事に注力していきたいので、内部が整い次第、また協力の形を探っていければと思います。</li><li>○ 他にはありません。(2件)</li></ul> |
|---|

### (3) 地域福祉の充実に向けての特に大きな課題(問10)

**問10** 日進市の地域福祉活動をさらに活発なものとしていくために、住民相互の支え合い機能の強化、複合的課題への包括的な支援体制づくりなどが課題となっています。貴事業所等の立場から、地域福祉の充実に向けてどのようなことが特に大きな課題であると思われますか。【自由回答】

地域福祉の充実に向けた特に大きな課題について、54事業所等から回答がありました。

その中で<情報提供・周知・発信・収集・共有>に関することが14件と最も多く、次いで、<繋がり>に関すること(12件)、<仕組・制度・体制>に関すること(11件)、<人材不足>に関すること(5件)、<居場所>に関すること(3件)、その他(9件)となっています。

※事業所単位で件数を表示:同一法人の同意見も事業所単位で集計しています。

＜情報提供・周知・発信・収集・共有＞に関すること	14 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域と各機関との連携を深めて(周知)、各機関の機能を知っていただく必要がある。</li> <li>○ いろいろと良い取り組み、企画をしても、知っている・参加している・その場所まで行ける人が限られている。本当に支えて欲しい人にはきちんと伝わっていない事が多いと思われる。</li> <li>○ それぞれの立場がから地域福祉活動をして行くにあたり、一つの事業所だけの対応には限りがあるので、それぞれ立場の違う事業所等が事案ごとに情報を共有し、繋がっていくことができればいいと思われる。(3件)</li> <li>○ デイサービス運営上、地域の問題と関われそうなのか、送迎途中に起こる問題施設に直接困ったことを相談に来る方の二通りあります、その際に行方不明者情報等があると問題を見逃す可能性がなくなるのではと思います。</li> <li>○ 現在ある社会資源の周知</li> <li>○ 個人情報にあたることがおおいので、どこまで踏み込んでよいかわからないところ。</li> <li>○ 高齢者の独居の方の生活課題、認知障害や歩行不安定な方などの事故リスクの情報共有化が課題。</li> <li>○ 災害等が起きた際、避難所等で障害児への配慮が果たして理解していただけるだろうか。例 食料、騒音、過敏性など。</li> <li>○ 諸団体などのくくりではなく、自然と近隣の人と交わす挨拶から生まれる交流から生まれると思う。そのような活動を地域として幅広く周知する支援体制(学校や公共機関でのチラシの配布や設置等、地域の情報提供)が必要だと思う。</li> <li>○ 他の分野が具体的にどのような活動をしているのかについてあまり把握できておらず、違う分野の課題が出てきたときに、スムーズに連携をとることが出来ていないように思います。</li> <li>○ 複合的な課題が浮き彫りになっておらず、全くみえない。特に本人家族は公にしない部分があるため、積極的に現状把握を行うことが必要。申請主義がいまだに残っているため、発信しづらく、発信を見逃しているように感じています。</li> <li>○ 暮らしの窓口でしっかり対応されていると思う、ただ窓口は知っているものの、実際にどのようなケース一対応をしてくれるのかをある程度分かっていると紹介しやすいので、ホームページなどでもう少し細かく説明があると良いと思います。</li> </ul>	
＜繋がり＞に関すること	12 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前児童クラブが福祉会館内にあった時は、高齢者の方々との交流がありましたが、現在学校内で活動しているため、地域福祉に関わることはなかなか無理のように思われます</li> <li>○ 核家族が増えて自治会加入率は減少しているため、特に若い世代においては自治会とは別の方法で地域での繋がりづくりを考える必要があると思う(SNS・ICTの活用など)。</li> <li>○ 顔の見える繋がり。</li> <li>○ 近隣住民同士の関わりが希薄になり、無関心となりつつある中で、日々忙しく生活する働き世代、子育て世代にどうアピールしていくか。</li> <li>○ 子育てや介護など、支援の必要な家庭が孤立せず、どこかにつながるのだと思います。</li> <li>○ 障害のある方は地域とつながりを持ちながら生活していく必要があるが、なかなか交流の機会が持てない。 地域の高齢者や子どもたちと交流を深めていけるとよい。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害者を支援している事業所として、地域とのつながりがなかなか広がっていかない状況があります。 障害者を地域で支えていくために、地域との関わりを広げていくことが課題になると思います。</li> <li>○ 人間関係の希薄、昔のようなご近所さんの関係性がなくなっていること。働いている世代が増えている（年齢重ねても）ので地域に関わる機会が持てない。</li> <li>○ 地域、地区の方々が気軽に立ち寄って、入所されている方や利用者様達と、活動や交流ができると思います。特に入所中の方は、外部との接点に限りがあると思うから。</li> <li>○ 地域でのつながりが希薄なことは課題だが、強いつながりがある地域は他地域との繋がりがむづかしい部分もある。地域の中で声が上がっても核になる人がいなければ全てが意見だけで終わってしまう</li> <li>○ 地域住民と顔の見える関係性作りが大切になってくる。 地域防災に関われるようにしたい。</li> <li>○ 抽象的な表現となりますが、「隣人」足り得ないこと。ただ挨拶出来るような関係性、町内での受け入れがされないこと。</li> </ul>	
<p><b>&lt;仕組・制度・体制&gt;に関すること</b></p>	<p><b>11 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ BCP 計画を作成していく中で、地域 BCP を早急に話し合い対策を取っていく必要がある。要介護者の安否確認など効率よく CM 等事業所と連携するシステムが必要。</li> <li>○ ケアマネージャーとして個別のケース多くの人と検討して体制づくりに役立てたい。</li> <li>○ ご指摘の通り、困りごとにはタイトルがつかないこともあり、専門の分野に繋げない可能性もあります。現在も暮らしの相談窓口がありますが、そのような相談窓口の体制強化を図るといいのではないのでしょうか。地域ケア会議のように、複合的課題を専門機関、専門職だけでなく地域を交えて話し合い、支援体制を組み立て、地域に返していく仕組みができるといいのでしょうか。</li> <li>○ 事業分野以外との横の繋がりがスムーズにできるような仕組みづくり。様々な支援機関が関わることで生じる問題（情報共有の遅れなど）への対応。</li> <li>○ 自家用車での移動が困難になられる方が増えていくことが予想されるため、バスや民間の乗り合いタクシーのようなサービスが必要になると思う。</li> <li>○ 社会福祉協議会の機能を強化して、ボランティアの育成やグループづくりはもちろん各グループのネットワークづくりをすすめるなど、地域課題を共有してもらうなどの学習の向上を企画し研修の機会を作ってはどうかと思う。</li> <li>○ 体制づくりにおいては、住民の方や福祉、医療関係者では人手が足りなかったり、なり手が見つからないため、企業に参加してもらい一緒に問題解決ができるといい。</li> <li>○ 地域に点在する福祉サービス、ボランティア団体、自治体等が、震災等が起こった際に協力できるような関係づくりを日頃から意識すると良いと思いますが、具体的にどのようなことをやっていくと良いか思いつきません。</li> <li>○ 買い物について困っている方が多くいるが、福祉サービスでは点数等の兼ね合いから満足にサービス提供できていない。保険外サービスとして提供しているが、町ぐるみで独居や高齢夫婦の買い物について支援が必要かもしれません。</li> <li>○ 分野を超えた協働支援体制の充実。</li> <li>○ 問 12 に回答した内容が同時に課題となると感じます。 (庁内の横断的連携と民間福祉のネットワークには、改革が必要だなと感じます。地域住民と協働できるワーカー(CSW)が地域づくり参加支援の肝になってくると感じます。)</li> </ul>	
<p><b>&lt;人材不足&gt;に関すること</b></p>	<p><b>5 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デイサービス業務時間中は、常時利用者様の対応をしているため、仮に利用者宅に、本人以外の課題があることを知った場合、繋ぐ先を考えたり報告している余裕がない。(電話等一瞬目を離れた隙に、異食や転倒してしまう等が不安) 適切などところに繋がったとしても、業務時間中は、マンパワーの問題で、その後の会議等に参加しづらい。介護中、子育て中の職員は、業務時間外の会議には対応が難しいため、対応できる職員の確保が課題だと思う。(2件)</li> <li>○ R5 年度に竹の山小学校の評議委員をやらせていただき、登校のボランティアをされている方のお話も伺え活動内容や地域の方に支えられているという有難みを感じました。 地域の方の活動をあまり知らないため、どのような活動をされているのか交流できる機会が持てるとう良いです。 また、災害時に地域の方と助け合えるような日頃からの連携があると安心できます。</li> <li>○ 事業所の協力意識の薄さ、日常業務をこなすのに精いっぱいな現実。</li> </ul>	

	<p>地域住民のやらされ感、負担感。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域とのつながりなど、様々なことで協力していきたいと考えているが、とにかく人材不足の問題が大きい。また、働き方改革等もあり、以前のような職員のボランティアに頼った運営も厳しくなっており、そうした事柄が足かせとなっているのを強く感じる。</li> </ul>	
<b>&lt;居場所&gt;に関すること</b>		<b>3 件</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時における拠点施設、子育て中の保護者の集いの場。</li> <li>○ コロナ禍を経て、地域の交流の機会が減り、困ったときに声をあげにくかったり、困っている人が身近にいても気づきにくくなっていると感じます。 日頃からの住民同士の交流や、気軽に相談や話のできる居場所が大切ではないかと考えます。 最近、学校に行きにくくなっている小中学生のいる家庭やシングルマザーからの相談が続いたことから、地域課題が何かを改めて考えさせられました。 これまで当事業所は妊娠期から乳幼児期の子育て家庭を対象とする支援に注力してきましたが、何らかの困難を抱える子育て家庭が孤立せず地域で暮らし続けるために、小中学生まで含めた子どもの育ちや子育て家庭を見守り支える緩やかな地域のつながり(住民相互の支えあいや参加支援等)の必要性を感じています。</li> <li>○ 高齢者や障がい者、子ども達が日常的に集まる場所がないと思う、そういう場所があり、かつ対象者を限定しない相談や支援に繋げるワンストップ窓口があると良いのでは。</li> </ul>	
<b>&lt;その他&gt;</b>		<b>9 件</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭開放や子育て広場のような活動し地域の方と関わっていく(すでに月一回程度行っている)</li> <li>○ 近隣の方々への周知と、気軽に見学や体験ができる雰囲気作り。</li> <li>○ 具体的な問題は確認中です。</li> <li>○ 高齢者の市の給付金のお知らせの用紙の件で相談があった、給付金を希望しない方は、ここにレ点を打ってくださいというようなことが書かれているが、そうでなく全ての方にお手紙だけ(給付金のお知らせで全ての方に入金しますという内容)でそのようにしてくれればいいのと言われてました。文句を言っていた方が2~3人みえました。エコサポートのゴミ出しも週1回でなく2回あればいいと言われてました。市からくるお知らせの手紙の内容が理解できない方も多いです。</li> <li>○ 子育て支援、園庭開放を行い来園する方の話を聞くなどしているが、この場に来ないと関われない。</li> <li>○ 事業の特性上子育て保護者支援(園に通ってなくても)が必要と思います。(3件)</li> <li>○ 老老介護や独居により介護の介入がされず、必要な支援が行き届かないことや、認知症の高齢者に対する地域の協力の有無が課題となって居る。</li> </ul>	

(4) 地域福祉の充実に向けての特に大きな課題の解決に向けて協力できることや提案(問11)

**問11** 問10で回答いただいた課題の解決にあたって、貴事業所等としてご協力いただけることやご提案などをお聞かせください。【自由回答】

問10の課題の解決にあたって、協力いただけることやご提案について、48事業所等から回答がありました。

その中で<居場所づくりや場所の提供>と<繋がり>に関することが10件と最も多く、次いで<仕組・制度・体制>に関すること(9件)、<情報提供・周知・発信・収集・共有>に関すること(8件)、その他(13件)となっています。

※事業所単位で件数を表示:同一法人の同意見も事業所谷で集計しています。

＜居場所づくりや場所の提供＞に関すること	10 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ こども食堂。</li> <li>○ 居宅事業所部会等で民生委員とコミュニケーションする場が欲しい。</li> <li>○ 在宅生活困難な状況に陥った方の受け入れ、緊急入所等(ショートステイ併設されているためショートステイの利用も可能)を行い、安全に生活できるよう支援させていただきたい。</li> <li>○ 事業所の施設を開放し、地域のつどいに使っていただくことなど是可以できるかと思ひます。</li> <li>○ 事業所の施設を開放して、地域の様々なニーズを持つ方々に利用してもらうなど。</li> <li>○ 場所の提供。</li> <li>○ 地域との交流を目的とし、土日は当事業所の建物を自由に利用してもらえるよう開放している。</li> <li>○ 地域交流イベントの開催、場所の提供。</li> <li>○ 保育園は園庭開放の子育て支援を行ってひます。 地域の方には広報や子育て支援だよりでお知らせしてひます。 災害時の連携は、竹の山小学校や北中学校とは、合同の避難訓練に参加させていただいたり、保育園の避難場所とさせてひだひているため実際にグラウンドまで避難する訓練をさせてひだひてひます。</li> <li>○ 災害時に施設の開放、また備蓄品を備える。 年間計画を立てて市民に知らせていく(子育て支援)。</li> </ul>	
＜繋がり＞に関すること	10 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まずは、地域の交流の場にでかけるなど、私どもの事業を地域の方に知ってひだひることからはじめ、地域の方々とのつながりを作ってひきたいと思ひます。 また、日頃の相談支援やアウトリーチ等を通じて、改めて地域課題を見直した上で、その解決を目指して、これまでの事業運営で培ってきた経験を活かしてひできることであれば、お役に立てるよう努力いたします。</li> <li>○ 家庭だけでなく地域で子どもを育むまちづくりがひけると思ひますが、すぐに取り組めるご提案までまだ思ひつかない。</li> <li>○ 高齢者支援での訪問を定期的に行っているため、その家族や身内関係者などで問題と思われると確認した場合は、適切な相談窓口の案内や担当者につなげるまでの役割を担うことはひできます。</li> <li>○ 私どもは居宅介護支援事業所ですので、問題の発見には協力ひできますし、現実にはいろいろな問題の相談を受けており、窓口やセンターに繋ぐことはひしています。ただ、介護サービスの利用がないと報酬が発生しないので、発見の場は限定的だと思われまひます。私たちが、行政や地域の相談窓口やサービスを学ひ知ることが、まずは課題の発見につなげると思ひます。</li> <li>○ 小中学校で心配な子ども、心配な家庭を発見すること、つながりをもてるように関わること、必要に応じて、小中学校以外の相談先を案内するひことができるのではないかと思ひます。</li> <li>○ 障害者支援というから難しく面倒に感じられると思ひうので、別様の関わり方の提案として、弊事業所利用者や職員による高齢独居の方の安否確認などはやらせてひだひけるのではないかと考えまひます。</li> <li>○ 生活支援コーディネーターと連携し地元の企業等にも第2層協議等に参加してひだひいただき、実際にお互ひの困りごとや要望など話し合っていく。</li> <li>○ 定期的に、情報交換できる場などがあると思ひひのかなと思ひます。お互ひに顔を知っているひだひでも、相談する際のハードルが下がるかなと思ひます。</li> <li>○ 例えは、社協が関係するイベント等に参加したり(以前は作品を出したことがありまひます)、地域包括支援センターの地区毎で集まひて、地域課題等について話し合ったり、地震等災害時の訓練や申し合ひ</li> </ul>	

<p>せを定期的にする等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日中のサービス提供時間において、認知症カフェの開催（現在進行中）や、会議室の貸し出し（コロナ禍により休止中）、できる限りの市内イベントへの参加等が考えられる。</li> </ul> <p>民生委員さんや、地域の団体などの勉強会等（これまで行ったものとして障害福祉関連）への協力など。</p>	
<p><b>&lt;仕組・制度・体制&gt;に関すること</b></p>	<p><b>9 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ （災害 避難所等で障害児への配慮の理解） 家族ごとにパーソナルスペースを確保する際、優先的に場所や位置を決められるようにする。 食料をリクエスト制にして、食べられる食材を優先的に手に入れられるような配慮をする。</li> <li>○ 要支援、要介護になっても在宅生活を支援する活動をしてきました。地域の共生を基本にして、地域に足りない活動づくりをしてきましたので、各事業所の経験等を活かす協力づくりができると思います。</li> <li>○ ヘルピーネットを活用する。</li> <li>○ 待機児童問題はまだ解決されておらず、通う保護者から入園できないと言われます、小規模保育園を増やし、保護者の要望に応じて行ければと思います。（3件）</li> <li>○ 地域の事は民生委員さんが把握出来るが良い。自治会に入っていない人の事も、マンションに住んでいる人の事も、把握出来るが良いと思う。</li> <li>○ 協力出来る事があれば声をかけてもらえれば、協力したいと思う。（感染症がもっと落ち着かないと場所の提供などは出来ないけど）”</li> <li>○ 事業所や専門職も相談しやすいワンストップ窓口があると、積極的につなぎやすく心強い。当センターでできることを、継続的に模索していきたい。</li> </ul>	
<p><b>&lt;情報提供・周知・発信・収集・共有&gt;に関すること</b></p>	<p><b>8 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケース会議等への参加、情報提供等。</li> <li>○ デイサービス利用当日の異変情報等を当日ケアマネジャーへ報告している。</li> <li>○ パンフレット等が手元があれば、訪問時にお渡ししたり説明ができる。</li> <li>○ 介護の必要な本人だけでなく、ご家族の方だけや、ご友人などの見学や体験の実施。</li> <li>○ 情報（行方不明者等）共有。</li> <li>○ 地域住民にしても、事業所にしても、ひたすら説明して理解していただくしかないと思います。説明への同行ぐらいならできると思います。</li> </ul>	
<p><b>&lt;その他&gt;</b></p>	<p><b>13 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ このアンケートもですが、言葉等が難しく書いてあるので、もっと誰がみても理解しやすい言葉で書かれていたらいいなと思うので、高齢者の方が、何が書いてあるのか分からないと言われるのは無理ないなと思います。</li> <li>○ 協力できることは、できる限り協力したいと思っています。（3件）</li> <li>○ 軽度障害の方の引きこもり等にB型としてできることがあればしたい。</li> <li>○ 現在も保険外サービスとして、それほど高額ではないサービスを提供しています。</li> <li>○ 公共施設として、どこまでできるのかがよく分かっていなくてすみません。</li> <li>○ 支援会議等の参加</li> <li>○ 集まりの参加</li> <li>○ 当事業所で対応できる内容については、上記窓口に向いてお話をうかがう等できるのではないかと考える。</li> <li>○ 当事業所のような小さな事業所で何ができるかを現状を伝えることは難しいです、ジョブサポあさだには引きこもり、精神障がいを持っている方が多いです、これらのケースのある場合、何かできそうなことがあるかもしれません。</li> <li>○ 病院の送迎バスの増便、範囲の拡大やスーパーなどの経由地の増加により、移動のサポートができる可能性がある。</li> <li>○ 勉強会やワークショップ等の開催について（講演会）。</li> </ul>	

(5) 重層的支援体制整備事業を進めていく上での意見・提案(問12)

**問12** 4ページで述べた重層的支援体制整備事業を関係機関等と連携しながら進めていくためのご意見やご提案などをお聞かせください。【自由回答】

重層的支援体制整備事業を関係機関等と連携しながら進めていくためのご意見やご提案について、35事業所等から回答がありました。

その中で<仕組・制度・体制>に関することが14件と最も多く、次いで<地域との交流・つながり>に関すること(11件)、<情報提供・周知・発信・収集・共有>に関すること(4件)、その他(6件)となっています。  
 ※事業所単位で件数を表示:同一法人の同意見も事業所単位で集計しています。

＜仕組・制度・体制＞に関すること	14 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8050 問題の事例を控えている中、ケアマネジャーが担当の利用者が入所、ご逝去などで終了した後そのご家族が一人になってしまい、その先が心配な方につないで行ける仕組みがあるといいと思います</li> <li>○ 先駆的に始めた活動が多いため、補助金や助成金制度のない時にスタートしたものが多く、公的な広報に載せることがありません。厚労省はサロンカフェなどのアカウントは全てを含めるようにも書いています、住民活動のすべてを取り込んでいく懐の大きさが必要ではないでしょうか。</li> <li>○ ヘルピーネット等複数の事業所に問題の共有をすることが良いのではと思います</li> <li>○ 各地区の公民館などへ定期的に総合窓口として巡回して相談を受け、オンラインサービスを利用して内容に即した部署や事業所につないで、その場で問題を解決できる出張型簡易市役所のようなサービスがあると良いと思う。</li> <li>○ 仰々しくならず受け入れてくれる体制づくり(困っている人自身からは発信しづらいと思うので)</li> <li>○ 個々にできることは限られるので、福祉的立場だけでなくあらゆる立場の中からできることを把握し、対応するケースごとにコーディネートし、繋いでいく機関が求められる、その機関が中心になってその都度、必要に応じて対応し、とりまとめ、個々にできることを最大限活用できるようにフォローして行く役割の機関があったらいいと思います(3件)</li> <li>○ 行政窓口も複雑化・複合化した課題に対応できるように検討、再編が必要でないか。</li> <li>○ 大きな機関が必要な印象です。経験や知識のある方に参画していただき、核となる機関を作り、各事業所や専門職、地域の方が招集されたり集える場があるといいのでしょうか。</li> <li>○ 地域全体が、体制をよく理解していかないと難しいと思います。定期的に会議等を開催するとか、皆さんと話し合うことも必要と思います(報告とか計画とか等々)</li> <li>○ 庁内の横断的連携と民間福祉のネットワークには、改革が必要だなと感じます。地域住民と協働できるワーカー(CSW)が地域づくり参加支援の肝になってくると感じます。</li> <li>○ 連携する際の、軸になる機関や人がいるといいと思います。</li> <li>○ 連携フローチャートの作成など、それぞれの機関の役割や支援方法が分かりやすいよう工夫する</li> </ul>	
＜地域との交流・つながり＞に関すること	11 件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機関どうしの交流や情報交換できる場があるといい。 →関わりがある機関と全くない機関がある。関わりがない機関でも情報交換の場を持つことで連携するきっかけになるかもしれない。</li> <li>○ 機関の担当者どうしが、顔のみえる関係をつくっておくこと、ケース会議をもつ際に日程調整が簡単にできる方法をもっておくことができるとよいと思います。</li> <li>○ 現在の現場でもしっかり取り組まれている事業所、個人は多くあると思います、福祉や関係機関の方々がしっかりコミュニケーションを取り、顔を知り合うような仲になることで、協働が上手に行くようになると思います、成功事例発表会、懇親会などで知識、関係を深めると良いと思います</li> <li>○ 高齢者のカフェやサークル活動などいろいろな資源があるなか、なかなか資源同士がつながる活動がないので、いろいろな団体同士で関わりが持てるようになると良い。</li> <li>○ 高齢者のつどいやサークルなどいろいろと集まりがありますが、相互のかかわりがなかなか持ていないと思います。 年齢や地域を超えてつながりが作っていいとよいと思います。</li> <li>○ 事例や経験を積み重ね、各分野において他職種連携、対応力を強化。</li> <li>○ 制度の狭間を拾う時に、市内の福祉事業所などを活用しカバーすることは有効と考えます。お互い</li> </ul>	

<p>が「隣人」になるきっかけとなるのではないかと期待します。</p> <p>その活動が制度の狭間をカバーするものであったとしたら、若干でも予算を付けていただけると尚良しと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大昔のように、隣組みたいなのが復活すればいい。今は、隣にどんな人が住んでいるのかも知らない人が多い。</li> <li>○ 様々な機関や地域の方々と連携・協力していくためには、お互いのことを理解し関係を紡いでいく時間が大切だと思います。</li> </ul> <p>連携協力関係は、個別の包括的相談支援のためにももちろん重要です。</p> <p>一方で、日頃から地域課題の共通認識ができていいる関係であれば、課題解決の方向に向けた地域づくりや参加支援のための環境整備を協力してできるかもしれません。</p> <p>そのためにも、互いを分かり合う時間(信頼関係を築く時間)を大切にしたいと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者のニーズに合わせた福祉サービスの選択の幅を広げてあげてほしい。</li> </ul> <p>学生など若い人たちの力を取り入れた地域づくり(学生がリードした企画運営)も良いと思う※他県で見聞きする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お互いに専門分野や得意分野は違いますが、尊重し合い、顔が見える気軽に相談しやすい関係づくりができたらと考えています。よろしくお願いします。</li> </ul>	
<p><b>&lt;情報提供・周知・発信・収集・共有&gt;に関すること</b></p>	<p><b>4 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヘルピーネットやメールグループなどによる、定期的な案内や実績の情報発信。</li> <li>○ 家族、地域、行政、介護事業所等で必要な支援を提供できるよう支援の体制を構築するため、情報の共有を行っていきたい</li> <li>○ 重層的支援がまだ浸透されていないため、その周知が必要。その上であらゆる関係者とのつながりが想定されるため、連携できるシステムやプロセスの構築ができればと思います。</li> <li>○ 先ずは、どこにどのような支援機関、サービス提供機関、ボランティア団体が存在しているか？がパッと見てわかるようなもの、パンフレットや WEB ページがあると助かると思います</li> </ul>	
<p><b>&lt;その他&gt;</b></p>	<p><b>6 件</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この事業のことも、関係する機関になることも、このアンケートで知ったので、地域の方々とどのように支え合っていくか見通しが持てない状態です</li> <li>○ 在宅で作業をすることについての B 型としての支援をしたい</li> <li>○ 重層として日進市のニーズはどこか、何を進めるべきか、目的をしっかりと持って動く必要性はあると思います。</li> </ul> <p>CSW の動き方にも注目しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ かじ取りできる中心となる機関がどこなのか、新設するのか、社会福祉協議会で担うのかなど課題はたくさんあると感じる。関わっているものとしては、障害者自立支援協議会があるが、(人手不足だから?)月に一度もしくは隔月に一度の会議にも参加できないというのはなかなか厳しいと感じている。</li> </ul> <p>「属性を問わない相談支援」について、①相談員については相当のスキルが必要と感じるが、そこに見合う報酬は設定されているのでしょうか?、②介護支援専門員(介護)と相談支援専門員(障害)の賃金格差も大きいですがそうした問題については触れられていないのはなぜか?といった疑問が残ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当センターをボランティアさんの活躍の場としていただくことで、「ボランティアする」「していただく」関係ではなく、「互いの生きがいづくり」や「介護保険の学びの場の提供」など『共生』の場となるような仕組みづくりに寄与したい。</li> </ul> <p>生徒や学生の学びの場として、学生ボランティアを受け入れており、今後もその活動は続けたい。</p> <p>大がかりな体制整備を考えると尻込みしてしまうが、当センターでできるような小さなことから、体制整備に参加していきたい。(2件)</p>	